

資料3-10

佐賀県知事からの報告

(佐賀県津波浸水想定の 設定について)

国土交通省
平成28年6月



農漁 第 534号
平成27年 7月31日

国土交通大臣 太田 昭宏 様

佐賀県知事 山口 祥義



佐賀県津波浸水想定の設定について（報告）

津波防災地域づくりに関する法律第8条1項に規定する津波浸水想定を別添のとおり定めたので、同法第8条第4項の規定により下記のとおり報告します。

記

- 1 報告内容 佐賀県津波浸水想定の設定について
- 2 報告資料 佐賀県津波浸水想定 38枚（全体図1枚、詳細図37枚）
- 3 参考資料 津波浸水想定について（解説） 1式

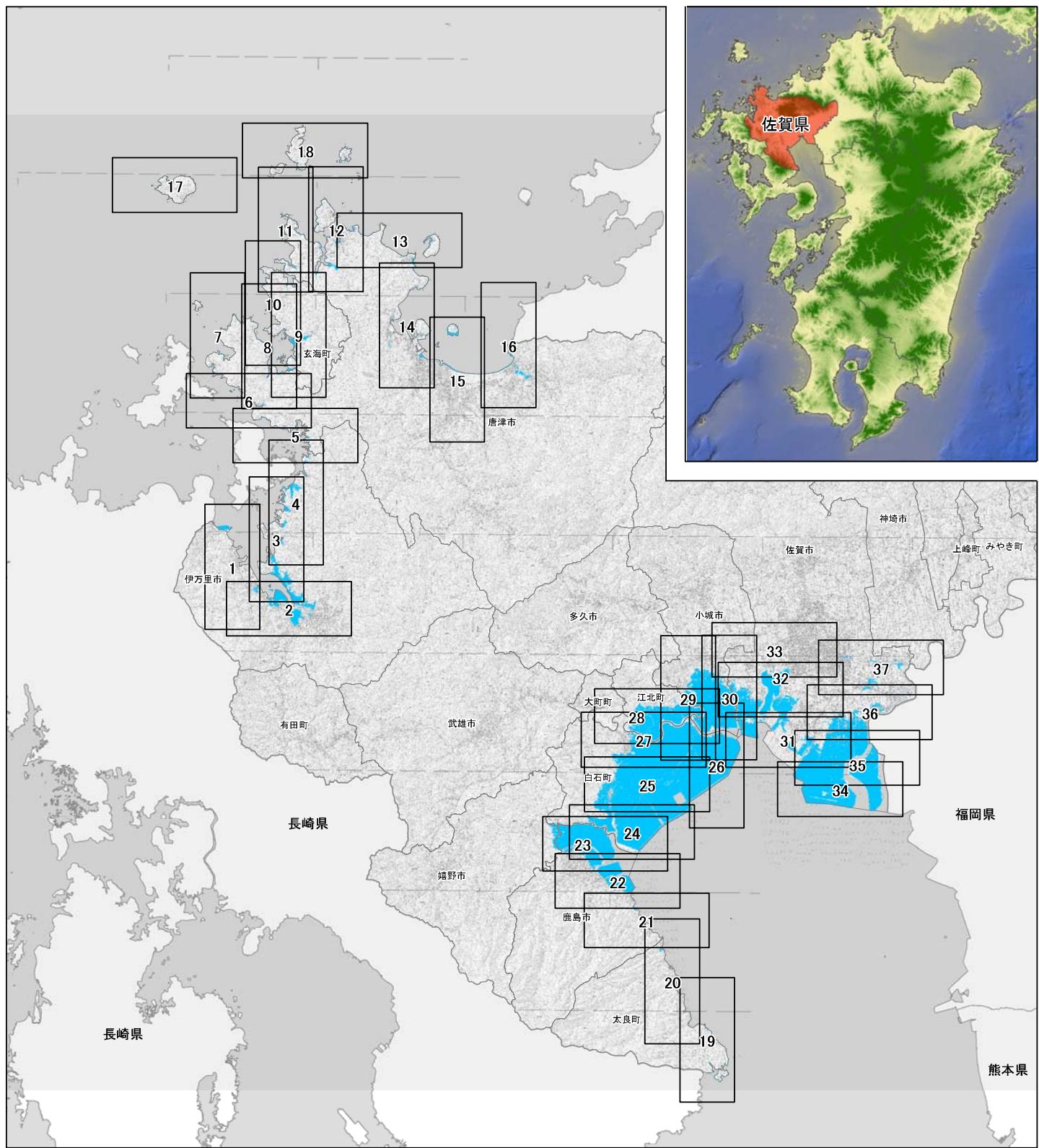
報告資料

佐賀県津波浸水想定図

全体図 1 枚

詳細図 37 枚

佐賀県津波浸水想定 全体図



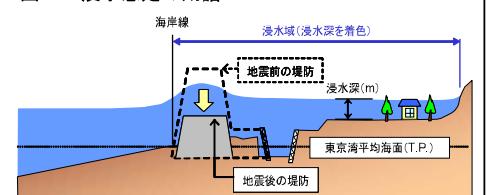
[留意事項]

- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律（平成23年法律第123号）第8条第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
- 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものであります。
- 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意ください。
- 津波は繰り返しあり、あとから来る津波の方が大きくなることがあるため、浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- 「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を示していないませんが、津波の遡上等により、実際には水位が変化することがあります。なお、この「津波浸水想定」は、規模の大きな河川での津波遡上・浸水を見込んだ浸水域と浸水深となっています。
- 地盤の低いところでは、地震によって堤防が沈下・損壊することで、津波が到達する前に浸水が始まることがあります。津波の到達時間に係らず、早めの避難行動を心掛けてください。
- この浸水想定図は、想定される複数の津波による最大の浸水域・浸水深を表したものであります。
- 今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。

[用語の解説]

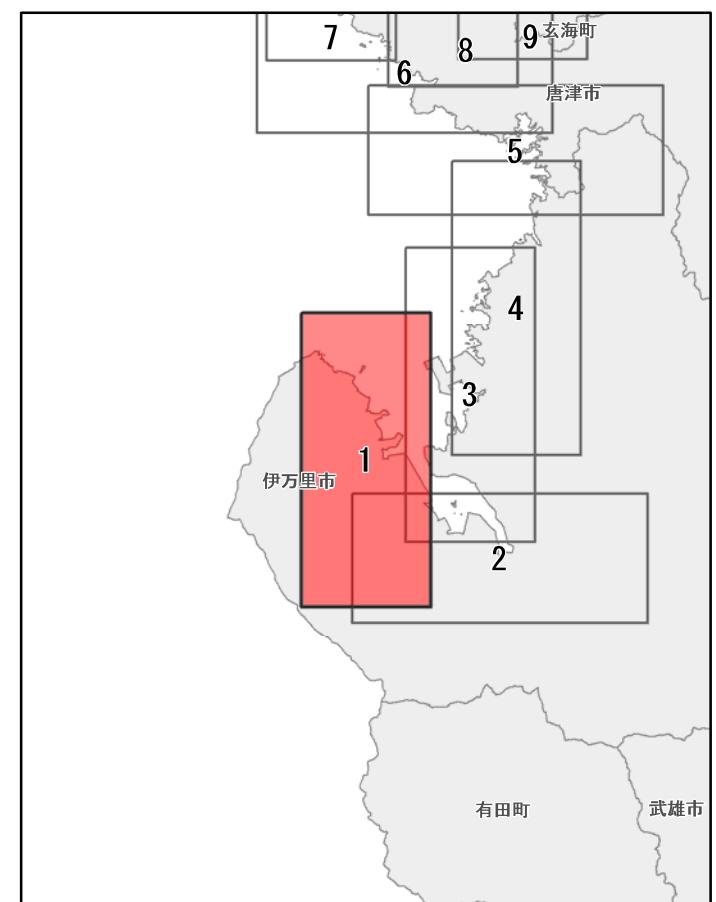
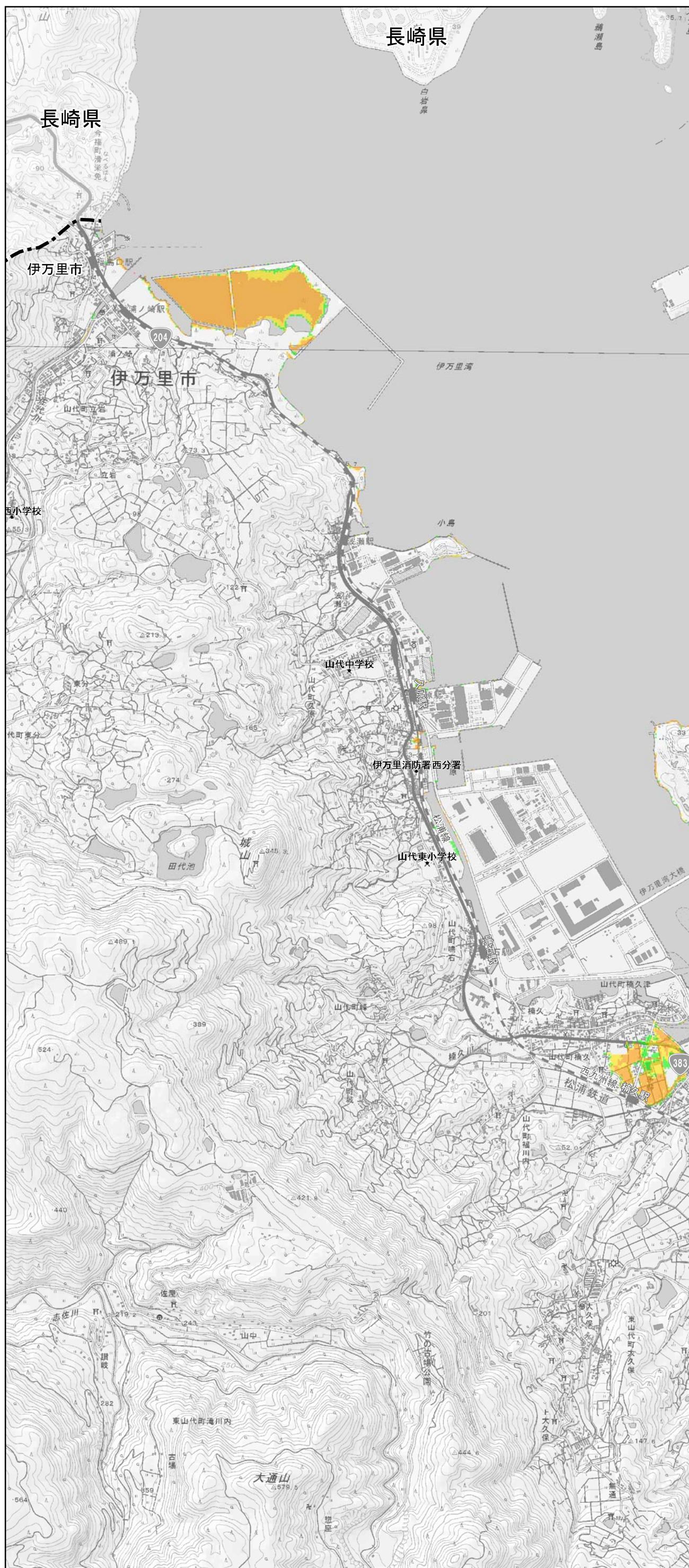
- 浸水想定について（図1参照）
- 浸水域：海岸線から陸域に津波が遡上した外縁までの範囲
- 浸水深：陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ

図1 浸水想定の用語



凡例

■ 津波浸水予測範囲



[留意事項]

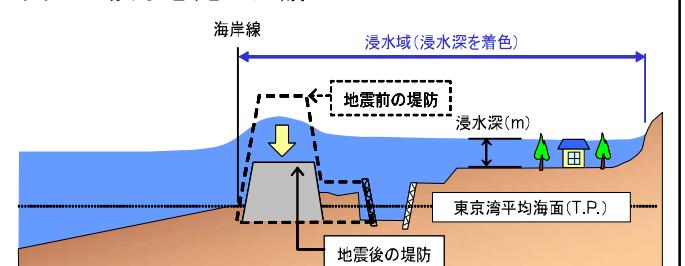
- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律(平成23年法律第123号)第8条第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
- 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域(浸水域)と水深(浸水深)を表したものです。
- 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意ください。
- 津波は繰り返し襲ってきて、あとから来る津波の方が大きくなることがあるため、浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- 「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上等により、実際には水位が変化することがあります。なお、この「津波浸水想定」は、規模の大きな河川での津波遡上・浸水を見込んだ浸水域と浸水深となっています。
- 地盤の低いところでは、地震によって堤防が沈下・損壊することで、津波が到達する前に浸水が始まることがあります。津波の到達時間に係らず、早めの避難行動を心掛けてください。
- この浸水想定図は、想定される複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したものです。
- 今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。

[用語の解説]

浸水想定について(図1参照)

- 浸水域: 海岸線から陸域に津波が遡上した外縁までの範囲
- 浸水深: 陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ

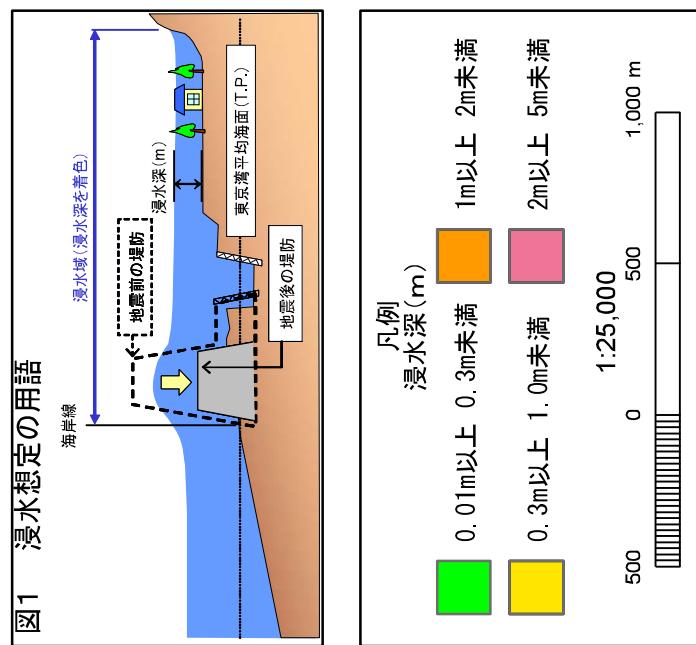
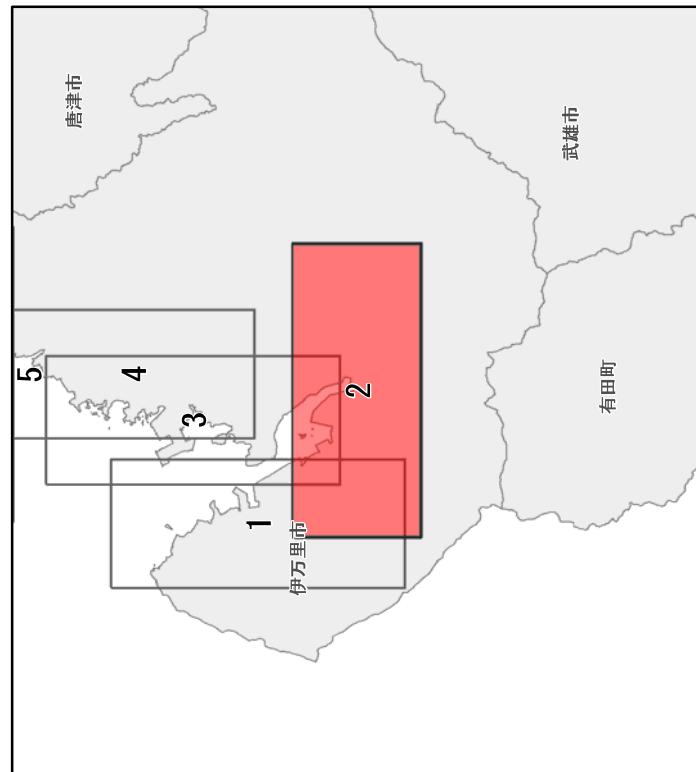
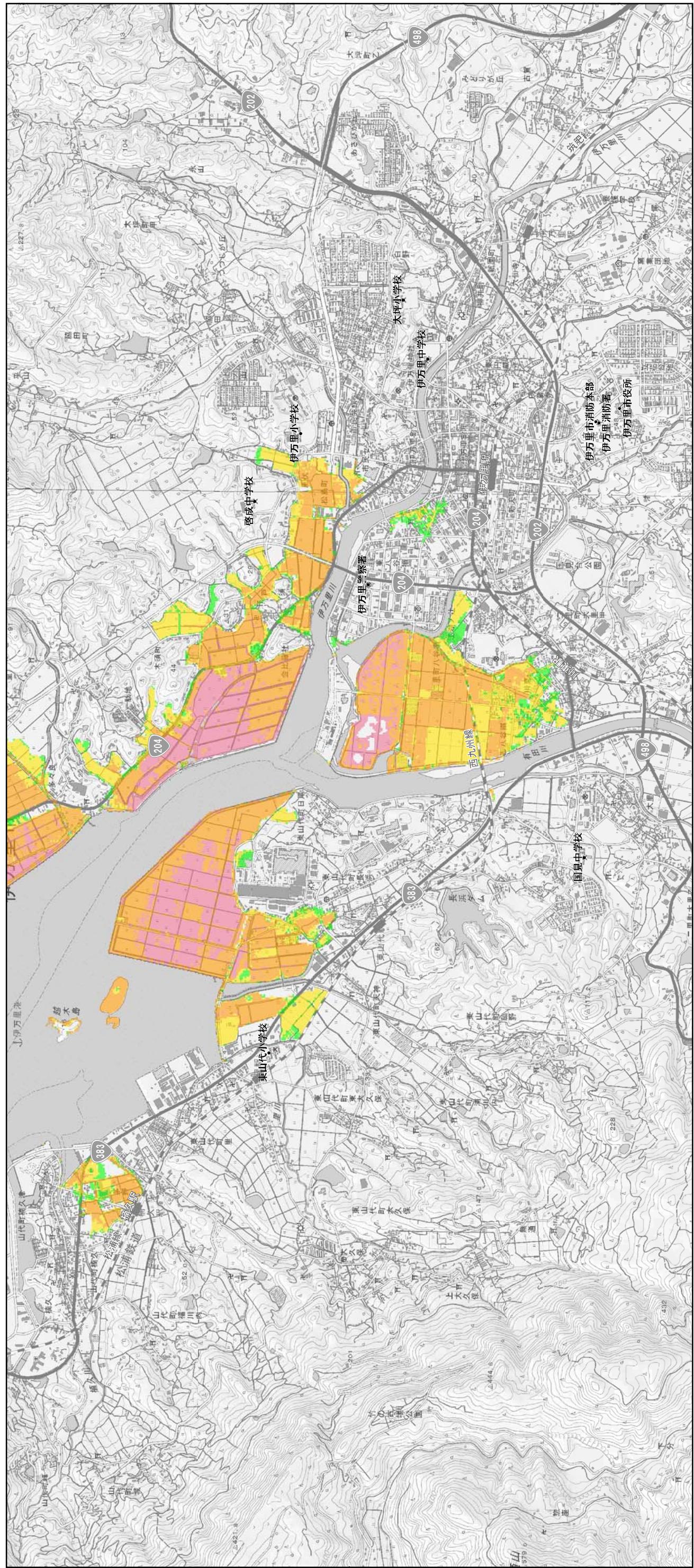
図1 浸水想定の用語

凡例
浸水深(m)

	0.01m以上 0.3m未満		1m以上 2m未満
	0.3m以上 1.0m未満		2m以上 5m未満

1:25,000
500 0 500 1,000 m

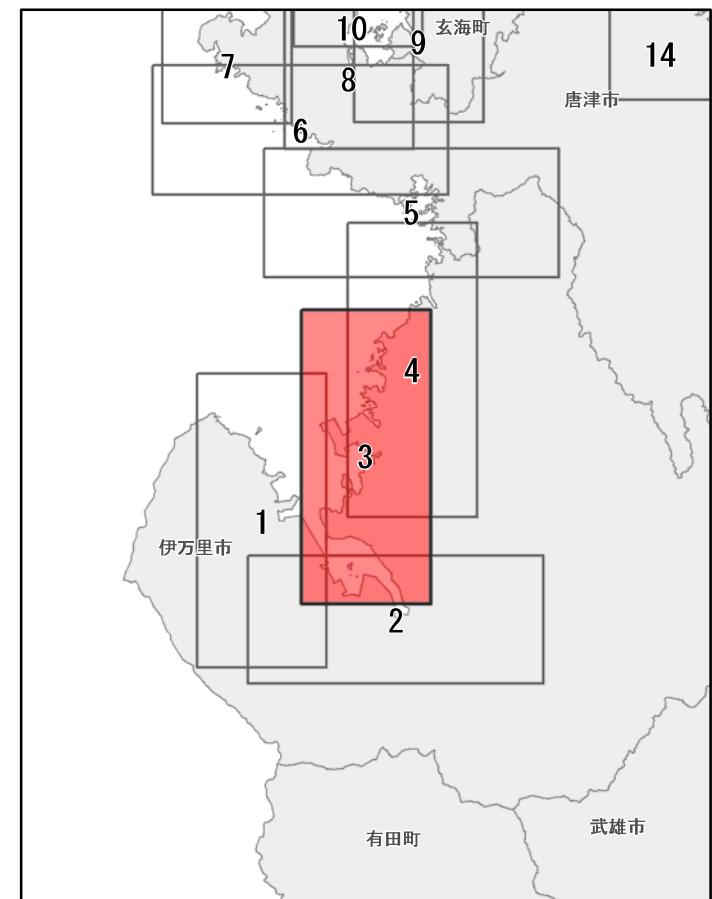
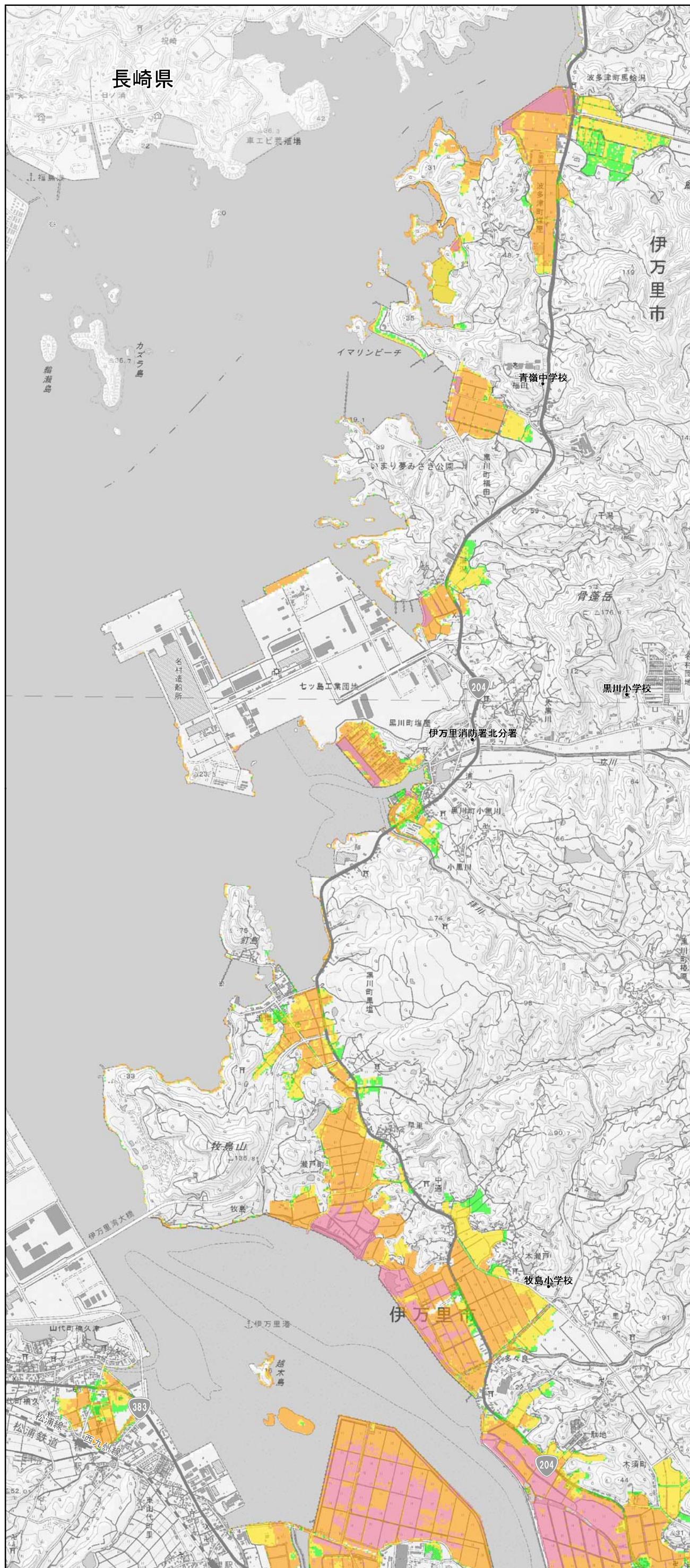
佐賀県津波浸水想定 市町村別 『伊万里市』（2 /37 ）



【留意事項】
 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに關する法律（平成23年法律第123号）第8条第1項に基づいて設定するもので、
 ○津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
 ○「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）
 ○を表したもののです。
 ○最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基準に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したもので
 ○あります。これよりも大きくなる津波が発生する可能性がないといふものではありません。
 ○浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に關する計算条件
 ○との差異により、浸水域内でも浸水深が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
 ○「津波浸水想定」の浸水深は、避難を中心とした津波防災対策を進めたためのものであり、津波による災害や被害の
 ○発生範囲を決していませんが、津波の週上等により、実際には水位
 ○津波以降に最大となる場所もあります。
 ○津波浸水想定では、この「津波浸水想定」は、規模の大きな河川での津波週上・浸水を見込んだことになります。津波の
 ○水深が低いところでは、地盤によって堤防が沈下・損壊することで、津波が到達する前に浸水が始まることがあります。
 ○津波第二波以降に最大となるところでは、早めの避難行動を乞うください。
 ○この浸水想定図は、想定された複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したもののです。
 ○今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。

【用語の解説】
 浸水想定について（図1参照）
 ○浸水域：海岸線から陸域まで範囲
 ○浸水深：水面が最も高い位置にいたときの地面から水面までの高さ

佐賀県津波浸水想定 市町村別 『伊万里市』 (3 / 37)



[留意事項]

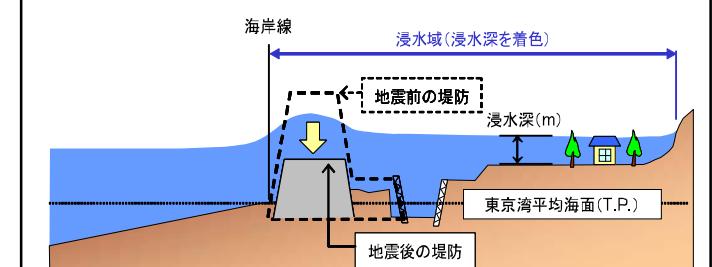
- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律(平成23年法律第123号)第8条第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
- 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域(浸水域)と水深(浸水深)を表したものです。
- 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意ください。
- 津波は繰り返し襲ってきて、あとから来る津波の方が大きくなることがあるため、浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- 「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上等により、実際に水位が変化することがあります。なお、この「津波浸水想定」は、規模の大きな河川での津波遡上・浸水を見込んだ浸水域と浸水深となっています。
- 地盤の低いところでは、地震によって堤防が沈下・損壊することで、津波が到達する前に浸水が始まることがあります。津波の到達時間に係らず、早めの避難行動を心掛けてください。
- この浸水想定図は、想定される複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したものです。
- 今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。

[用語の解説]

浸水想定について(図1参照)

- 浸水域: 海岸線から陸域に津波が遡上した外縁までの範囲
- 浸水深: 陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ

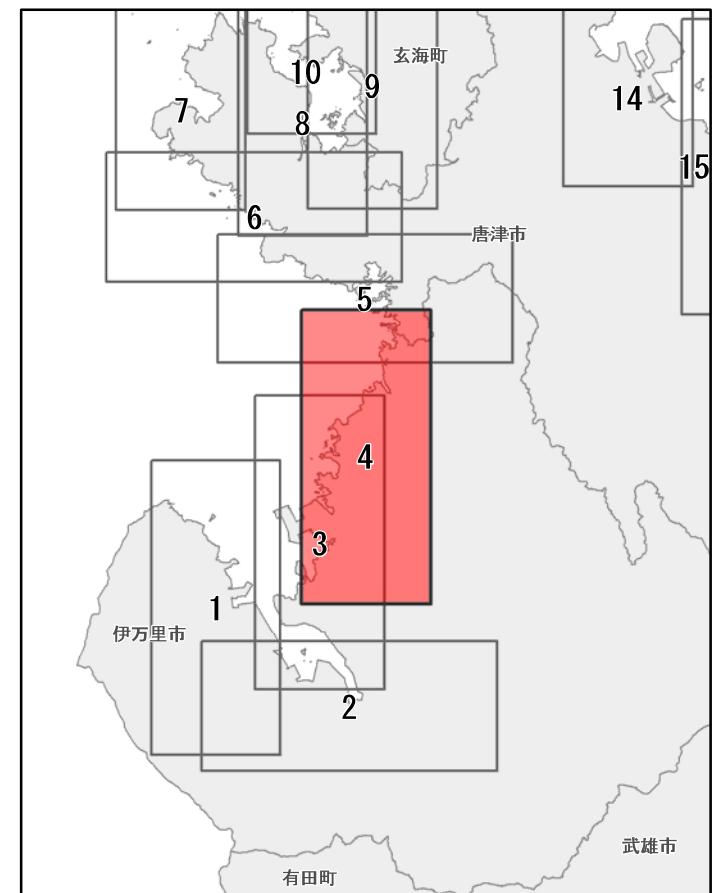
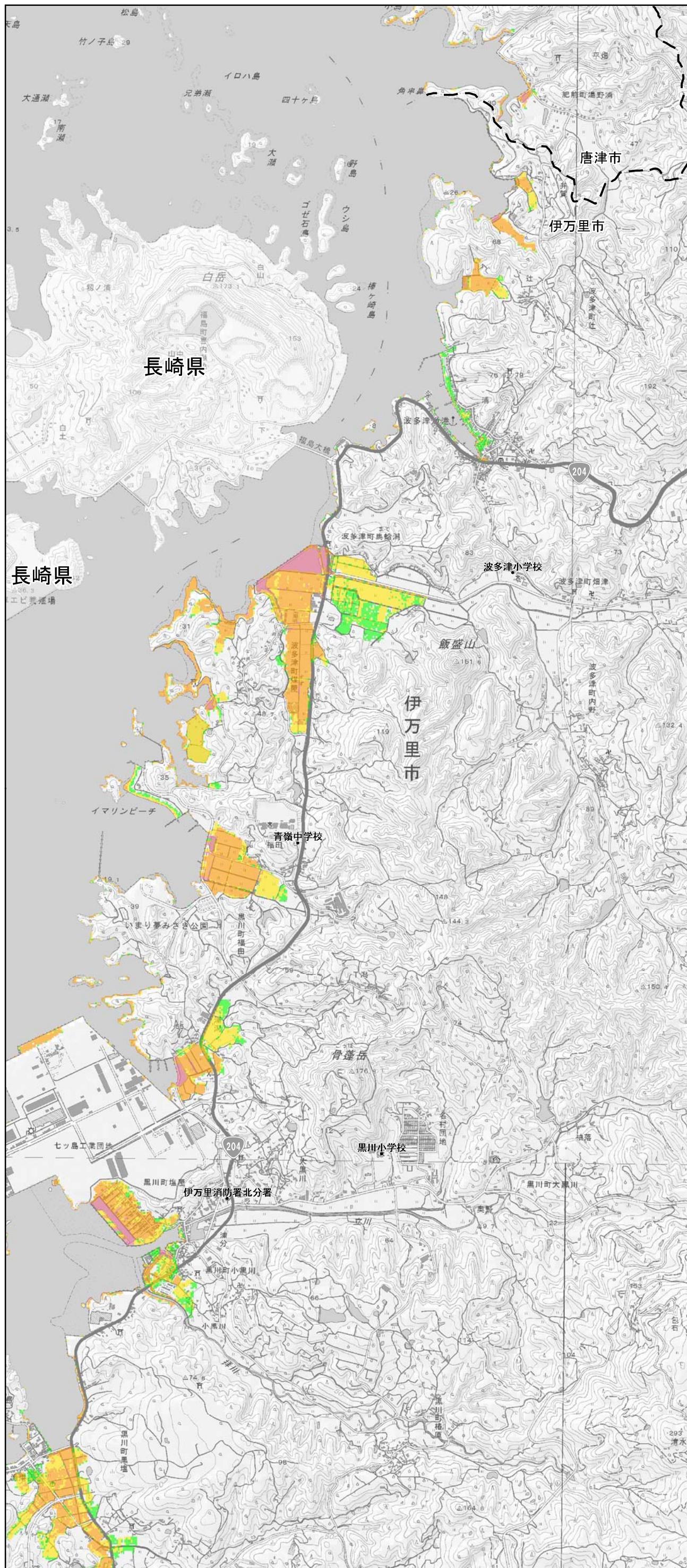
図1 浸水想定の用語



凡例 浸水深(m)

	0.01m以上 0.3m未満		1m以上 2m未満
	0.3m以上 1.0m未満		2m以上 5m未満

1:25,000
500 0 500 1,000 m



[留意事項]

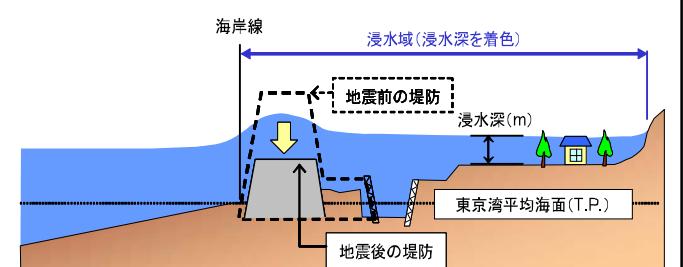
- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律(平成23年法律第123号)第8条第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
- 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域(浸水域)と水深(浸水深)を表したものです。
- 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意ください。
- 津波は繰り返し襲ってきて、あとから来る津波の方が大きくなることがあるため、浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- 「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上等により、実際に水位が変化することがあります。なお、この「津波浸水想定」は、規模の大きな河川での津波遡上・浸水を見込んだ浸水域と浸水深となっています。
- 地盤の低いところでは、地震によって堤防が沈下・損壊することで、津波が到達する前に浸水が始まることがあります。津波の到達時間に係らず、早めの避難行動を心掛けください。
- この浸水想定図は、想定される複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したものです。
- 今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。

[用語の解説]

浸水想定について(図1参照)

- 浸水域: 海岸線から陸域に津波が遡上した外縁までの範囲
- 浸水深: 陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ

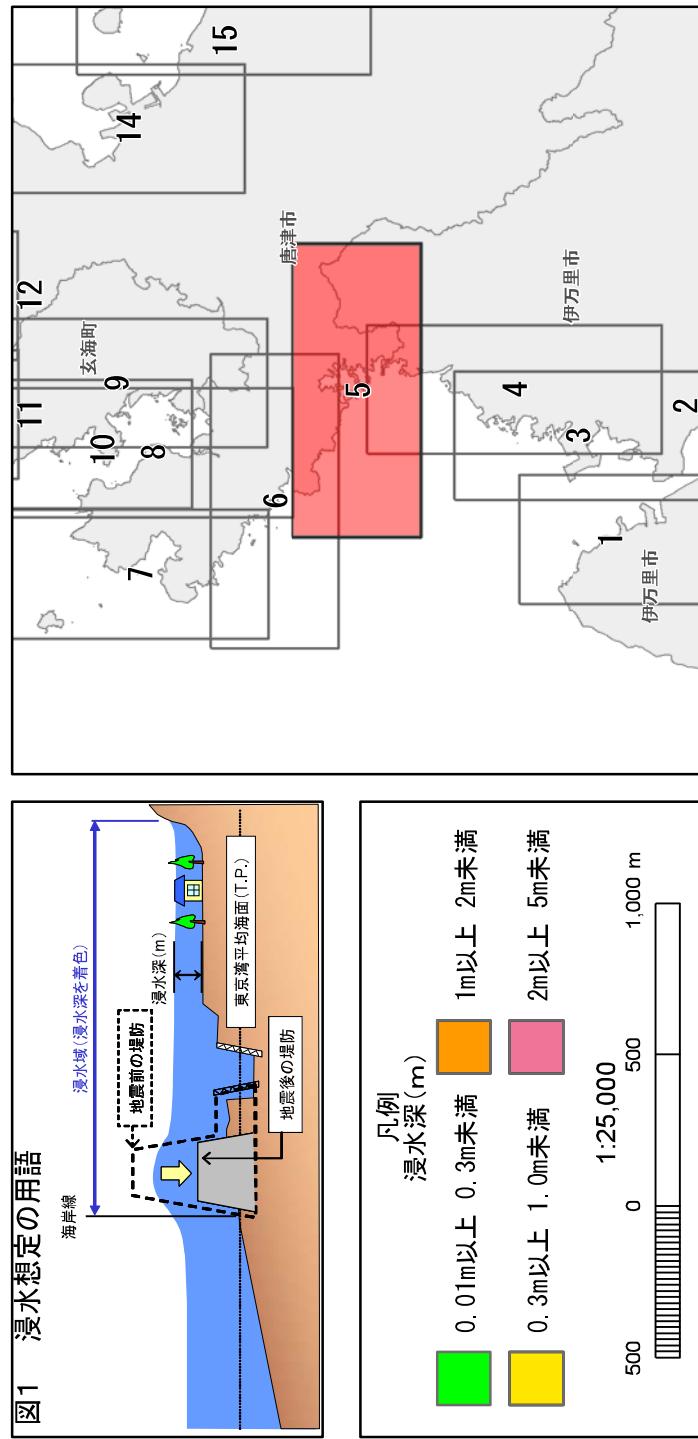
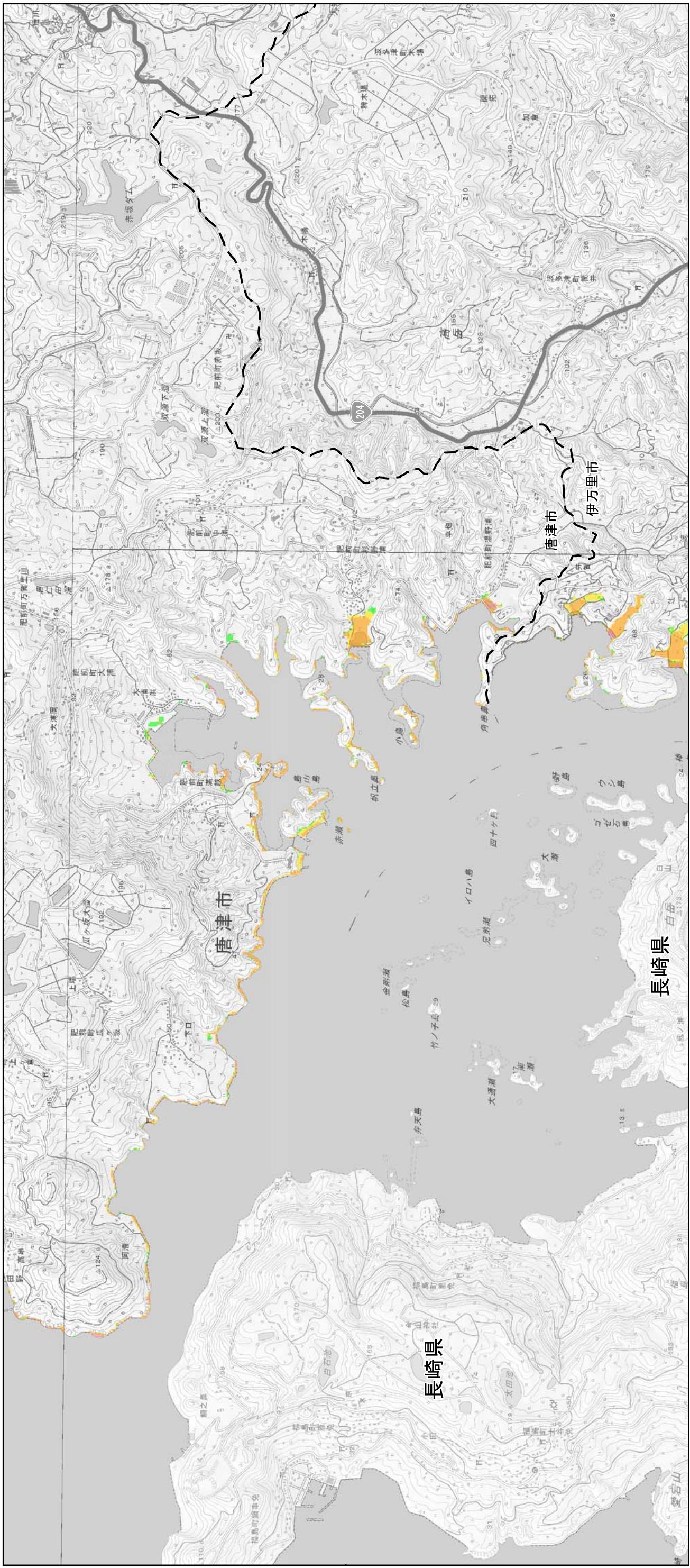
図1 浸水想定の用語

凡例
浸水深(m)

	0.01m以上 0.3m未満		1m以上 2m未満
	0.3m以上 1.0m未満		2m以上 5m未満

1:25,000
500 0 500 1,000 m

佐賀県津波浸水想定 市町村別 『唐津市』(5/37)



留意事項

「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに關する法律（平成23年法律第123号）第8条第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。最大クラスの津波が発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものであります。

現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであります。これよりも大きくなる津波が発生する可能性がないといふものではありません。地盤による影響のほか、地震によっても大きな津波が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。

津波浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震によっても津波が発生したり、避難を中心とした津波対策を進めたためのものであり、津波による災害や被害の差異により、浸水域や浸水深は、津波の規模の大きさなどによって、どこにどこに注意ください。

津波浸水範囲を決定する前に、津波の第一波ではなく、津波によって堤防が沈下・損壊することで、津波の週上等により、実際に浸水を見込んだ浸水域と浸水深が降に最大となります。なお、この「津波浸水想定」は、規模の大きな河川での津波週上・浸水を見込んだことになります。

津波は繰り返し襲ってくることがあります。地盤によって堤防が沈下・損壊するところでは、早めの避難行動を乞うください。

この津波想定図は、想定された複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したもののです。

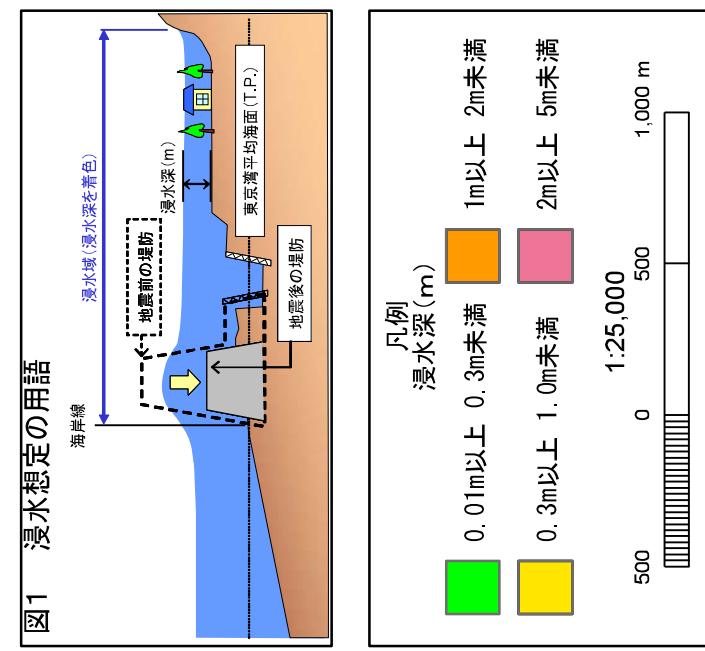
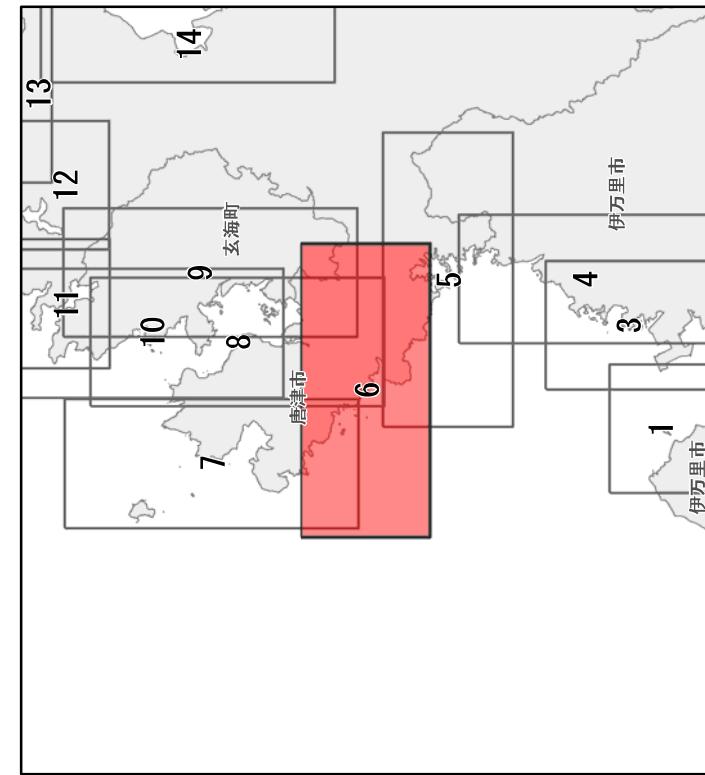
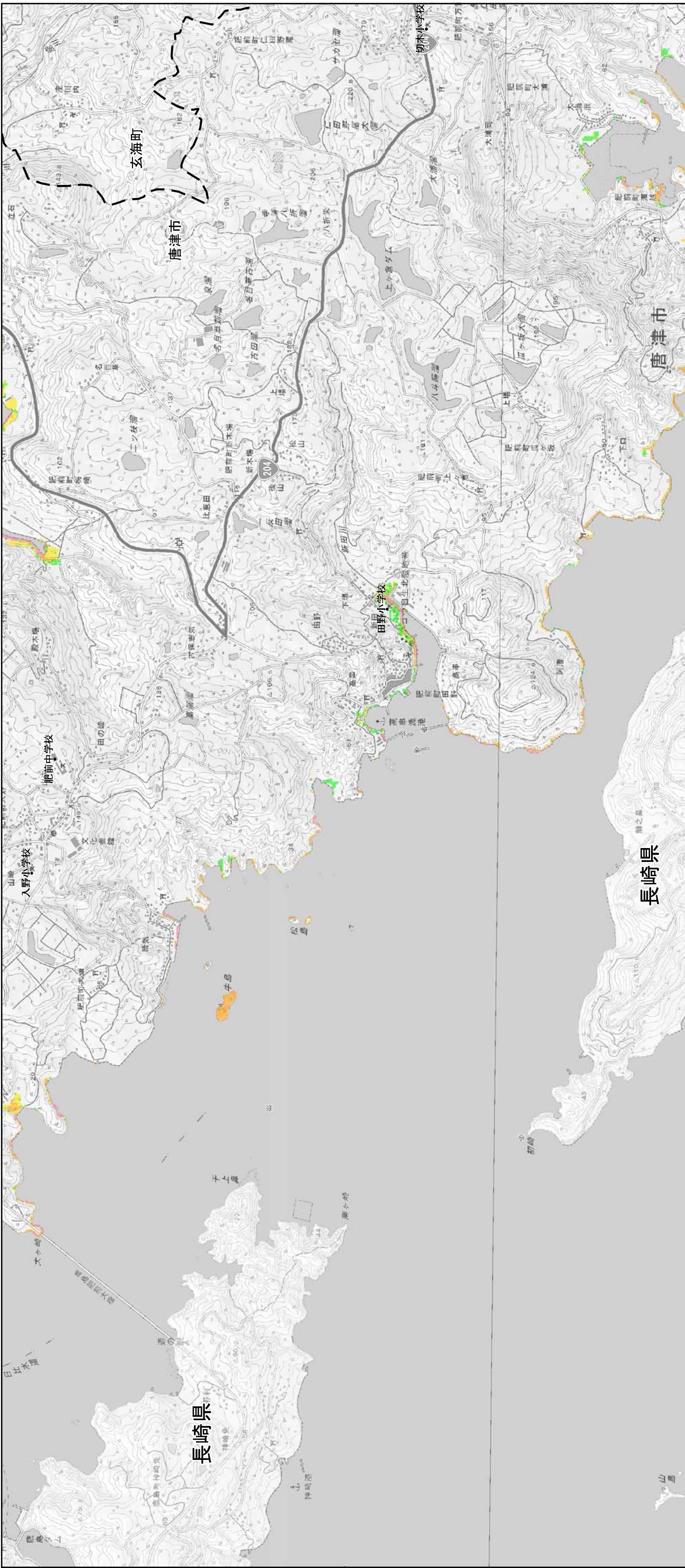
今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。

[用語の解説]

浸水想定について（図1参照）

- 浸水域：海岸線から陸域まで範囲
- 浸水深：陸上の各地点で水面が最も高い位置にいたときの地面から水面までの高さ

佐賀県津波浸水想定 市町村別 『唐津市』(6 /37)



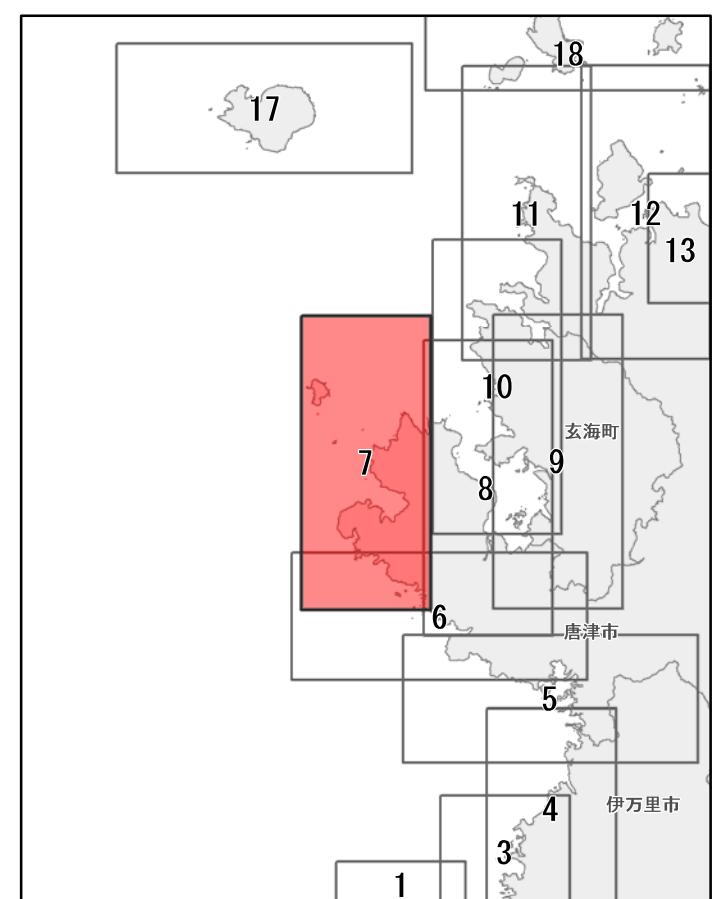
留意事項

- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに關する法律（平成23年法律第123号）第8条第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
- 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したもののです。
- 津波の津波浸水想定は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであります。これよりも大きくなれば、津波が発生する可能性が大きいといふものではありません。
- 津波浸水想定は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に關する計算条件などとの差異により、浸水深は、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 津波浸水想定の津波浸水深は、津波によってもたらされたものではありませんが、津波による災害や被害の避難を中心とした津波防災対策を進めたためのものであり、津波による災害や被害の避難を中心とした津波防災対策を進めたためのものではありません。
- 津波浸水範囲を決定する前に津波浸水想定では、津波の第一波ではなく、津波の第一波が沈下・損壊することで、津波の週上等により、実際には水位が津波週上・浸水を見込んだ浸水域と浸水深が降に最大となります。
- 津波浸水想定では、河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の週上等により、実際には水位が津波浸水想定するところです。なお、この「津波浸水想定」は、規模の大きな河川での津波週上・浸水を見込んだことになります。
- 津波浸水想定は、地盤間に係らず、早めの避難行動を呼びかけてください。
- この津波浸水想定図は、想定される複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したもののです。
- 今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。

[用語の解説]

- 浸水想定について（図1参照）
○浸水想定：海岸線から陸域までの大さきの範囲にわたる各地点で水面が最も高い位置にいたときの地面からの高さ
- 浸水深：海岸線から陸域までの範囲にわたる各地点で水面が最も高い位置にいたときの地面からの高さ
- 浸水深：海岸線から陸域までの範囲にわたる各地点で水面が最も高い位置にいたときの地面からの高さ

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25,000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平27情検、第117号)



[留意事項]

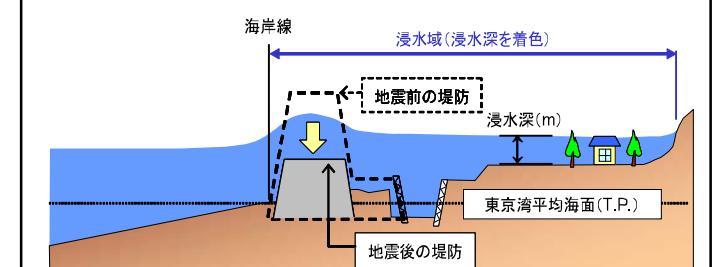
- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律(平成23年法律第123号)第8条第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
- 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域(浸水域)と水深(浸水深)を表したものです。
- 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意ください。
- 津波は繰り返し襲ってきて、あとから来る津波の方が大きくなることがあるため、浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- 「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上等により、実際には水位が変化することがあります。なお、この「津波浸水想定」は、規模の大きな河川での津波遡上・浸水を見込んだ浸水域と浸水深となっています。
- 地盤の低いところでは、地震によって堤防が沈下・損壊することで、津波が到達する前に浸水が始まることがあります。津波の到達時間に係らず、早めの避難行動を心掛けてください。
- この浸水想定図は、想定される複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したものです。
- 今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。

[用語の解説]

浸水想定について(図1参照)

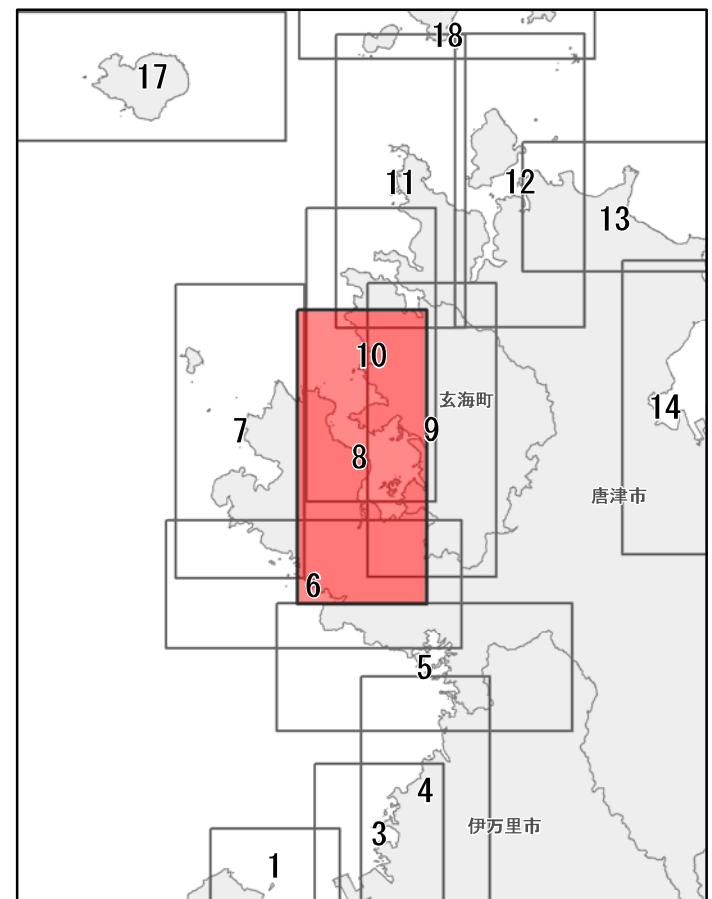
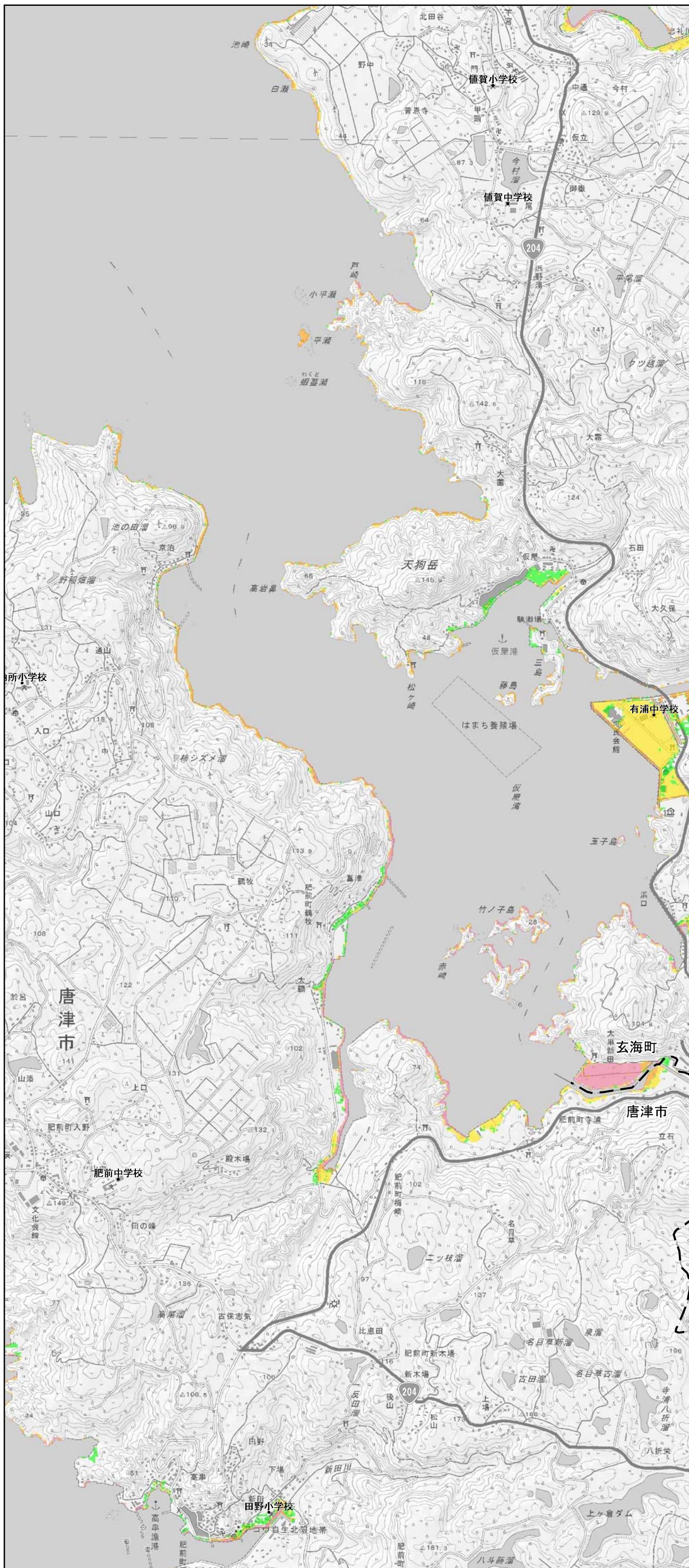
- 浸水域: 海岸線から陸域に津波が遡上した外縁までの範囲
- 浸水深: 陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ

図1 浸水想定の用語

凡例
浸水深(m)

	0.01m以上 0.3m未満		1m以上 2m未満
	0.3m以上 1.0m未満		2m以上 5m未満

1:25,000
500 0 500 1,000 m



[留意事項]

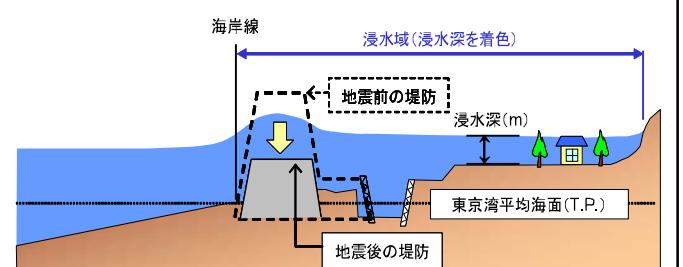
- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律(平成23年法律第123号)第8条第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
- 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域(浸水域)と水深(浸水深)を表したものです。
- 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意ください。
- 津波は繰り返し襲ってきて、あとから来る津波の方が大きくなることがあるため、浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- 「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上等により、実際には水位が変化することがあります。なお、この「津波浸水想定」は、規模の大きな河川での津波遡上・浸水を見込んだ浸水域と浸水深となっています。
- 地盤の低いところでは、地震によって堤防が沈下・損壊することで、津波が到達する前に浸水が始まることがあります。津波の到達時間に係らず、早めの避難行動を心掛けてください。
- この浸水想定図は、想定される複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したものです。
- 今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。

[用語の解説]

浸水想定について(図1参照)

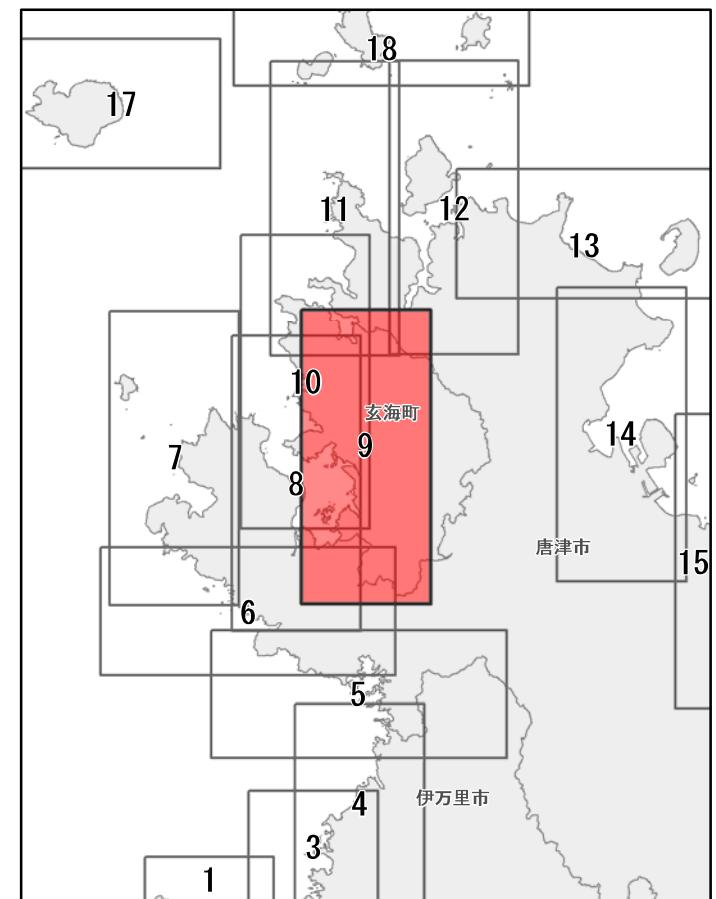
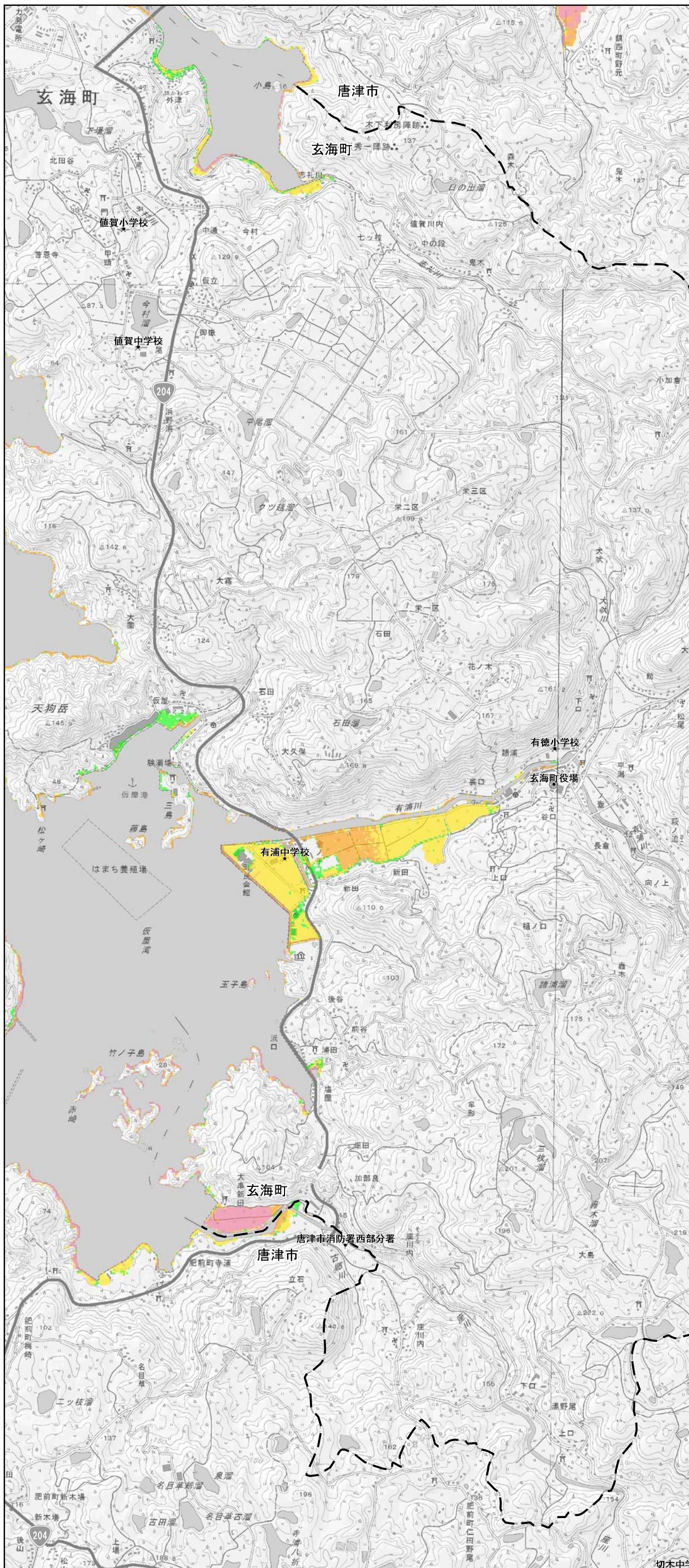
- 浸水域:海岸線から陸域に津波が遡上した外縁までの範囲
- 浸水深:陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ

図1 浸水想定の用語

凡例
浸水深(m)

	0.01m以上 0.3m未満		1m以上 2m未満
	0.3m以上 1.0m未満		2m以上 5m未満

1:25,000
500 0 500 1,000 m



[留意事項]

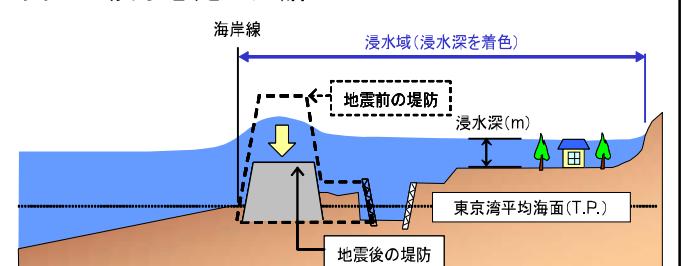
- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律(平成23年法律第123号)第8条第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
- 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域(浸水域)と水深(浸水深)を表したものです。
- 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意ください。
- 津波は繰り返し襲ってきて、あとから来る津波の方が大きくなることがあるため、浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- 「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上等により、実際に水位が変化することがあります。なお、この「津波浸水想定」は、規模の大きな河川での津波遡上・浸水を見込んだ浸水域と浸水深となっています。
- 地盤の低いところでは、地震によって堤防が沈下・損壊することで、津波が到達する前に浸水が始まることがあります。津波の到達時間に係らず、早めの避難行動を心掛けてください。
- この浸水想定図は、想定される複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したものです。
- 今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。

[用語の解説]

浸水想定について(図1参照)

- 浸水域:海岸線から陸域に津波が遡上した外縁までの範囲
- 浸水深:陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ

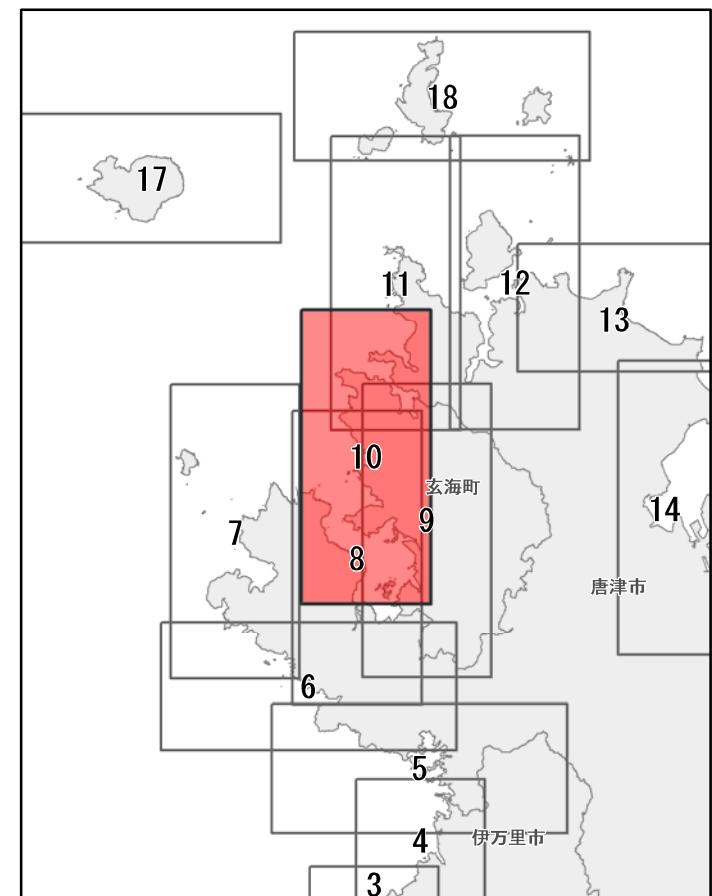
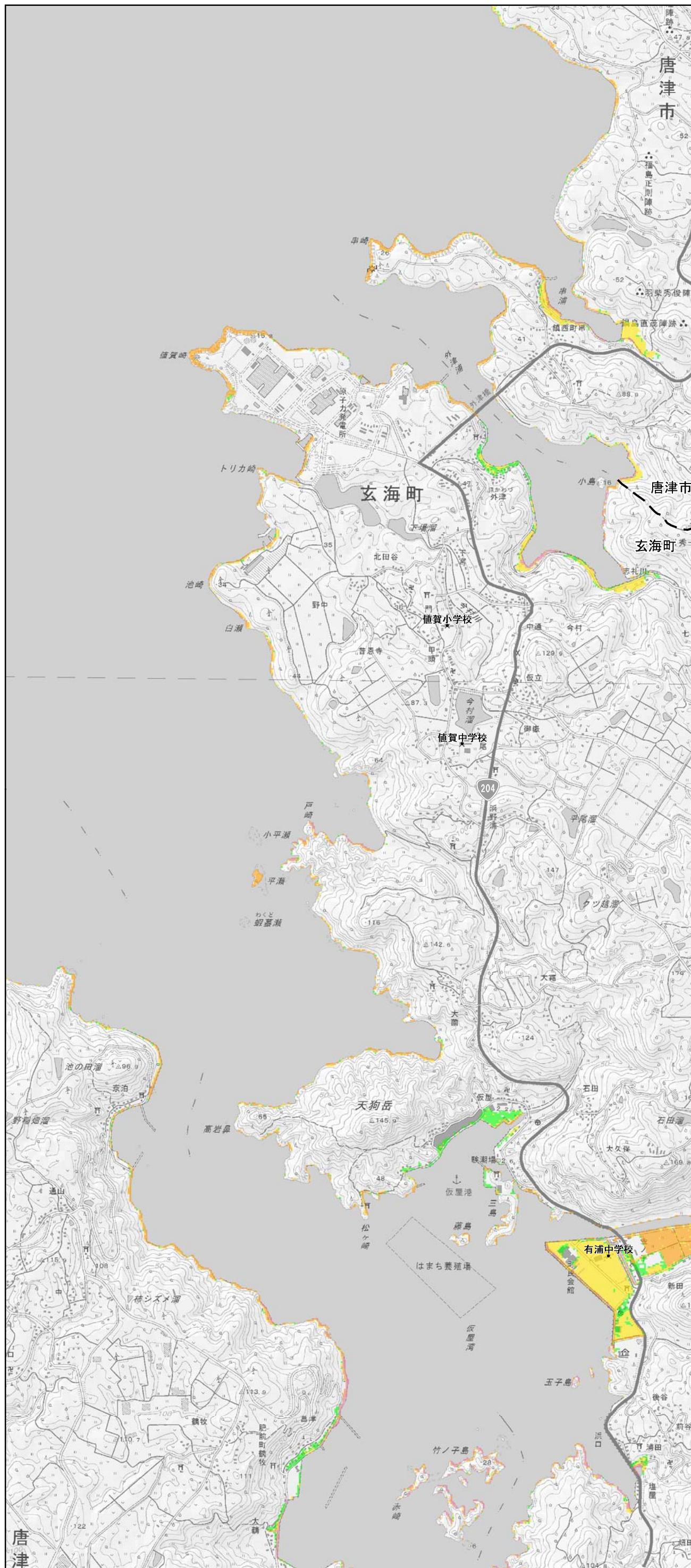
図1 浸水想定の用語

凡例
浸水深(m)

	0.01m以上 0.3m未満		1m以上 2m未満
	0.3m以上 1.0m未満		2m以上 5m未満

1:25,000
500 0 500 1,000 m

佐賀県津波浸水想定 市町村別 『 玄海町 』 (10/37)



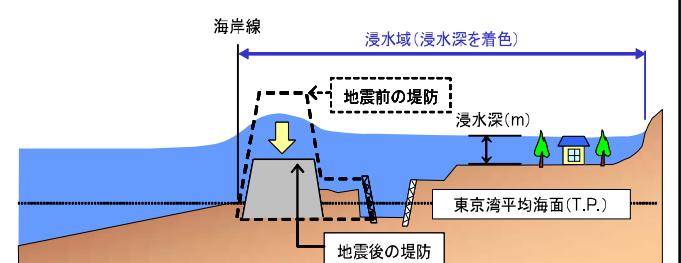
[留意事項]

- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律(平成23年法律第123号)第8条第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
- 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域(浸水域)と水深(浸水深)を表したものです。
- 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意ください。
- 津波は繰り返し襲ってきて、あとから来る津波の方が大きくなることがあるため、浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- 「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上等により、実際には水位が変化することがあります。なお、この「津波浸水想定」は、規模の大きな河川での津波遡上・浸水を見込んだ浸水域と浸水深となっています。
- 地盤の低いところでは、地震によって堤防が沈下・損壊することで、津波が到達する前に浸水が始まることがあります。津波の到達時間に係らず、早めの避難行動を心掛けてください。
- この浸水想定図は、想定される複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したものです。
- 今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。

[用語の解説]

- 浸水想定について(図1参照)
- 浸水域:海岸線から陸域に津波が遡上した外縁までの範囲
 - 浸水深:陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ

図1 浸水想定の用語

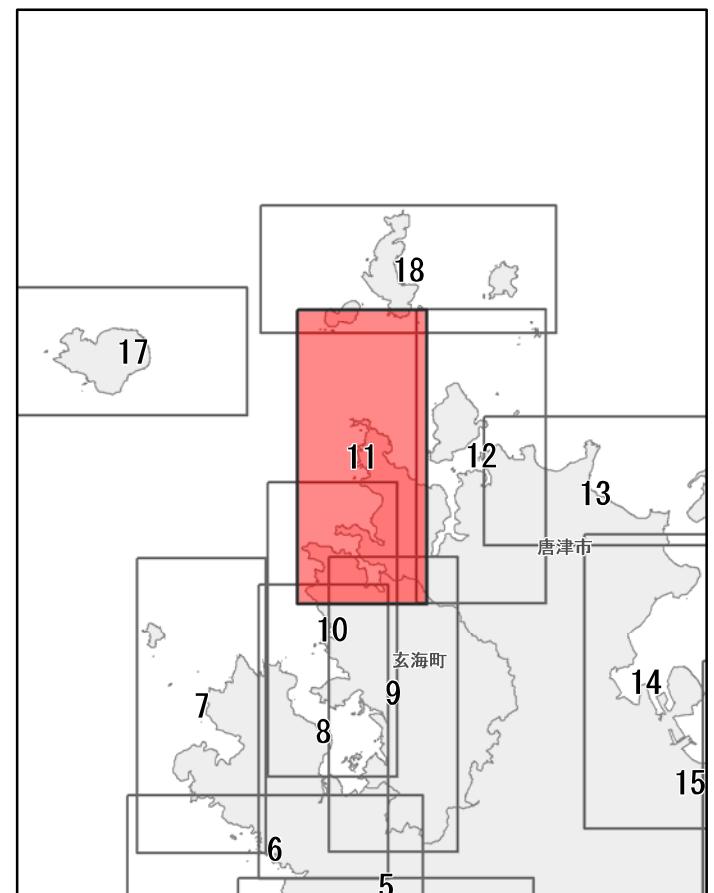
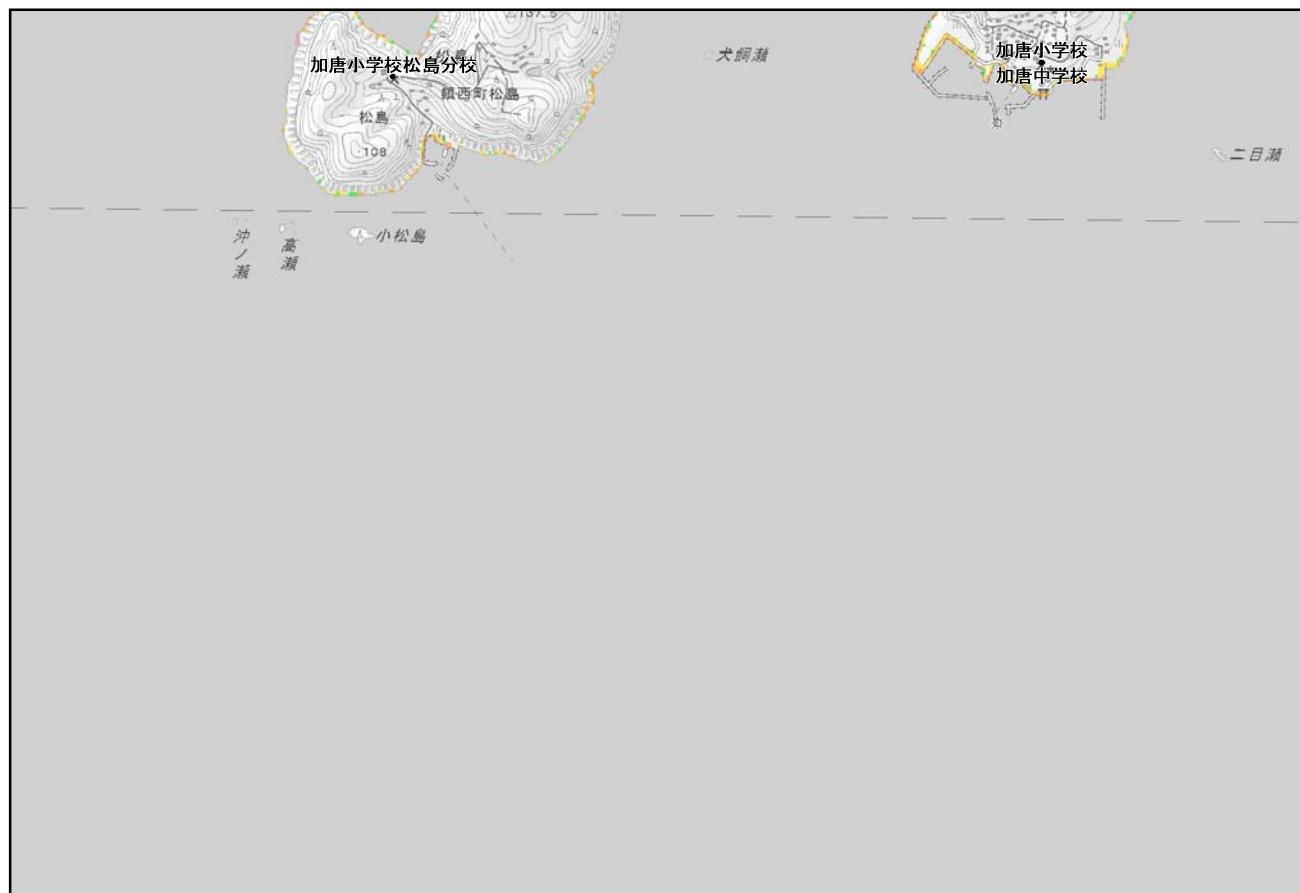


凡例 浸水深(m)

	0.01m以上 0.3m未満		1m以上 2m未満
	0.3m以上 1.0m未満		2m以上 5m未満

1:25,000
500 0 500 1,000 m

佐賀県津波浸水想定 市町村別 『 唐津市 』 (11/37)



- [留意事項]**
- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律(平成23年法律第123号)第8条第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
 - 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域(浸水域)と水深(浸水深)を表したものです。
 - 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
 - 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
 - 「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意ください。
 - 津波は繰り返し襲ってきて、あとから来る津波の方が大きくなることがあるため、浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
 - 「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上等により、実際にには水位が変化することがあります。なお、この「津波浸水想定」は、規模の大きな河川での津波遡上・浸水を見込んだ浸水域と浸水深となっています。
 - 地盤の低いところでは、地震によって堤防が沈下・損壊することで、津波が到達する前に浸水が始まることがあります。津波の到達時間に係らず、早めの避難行動を心掛けてください。
 - この浸水想定図は、想定される複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したものです。
 - 今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。

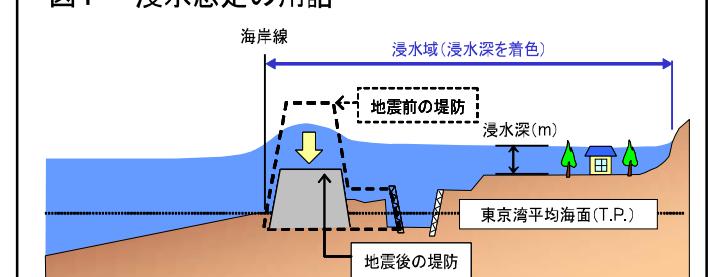
[用語の解説]

浸水想定について(図1参照)

- 浸水域: 海岸線から陸域に津波が遡上した外縁までの範囲
- 浸水深: 陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ



図1 浸水想定の用語

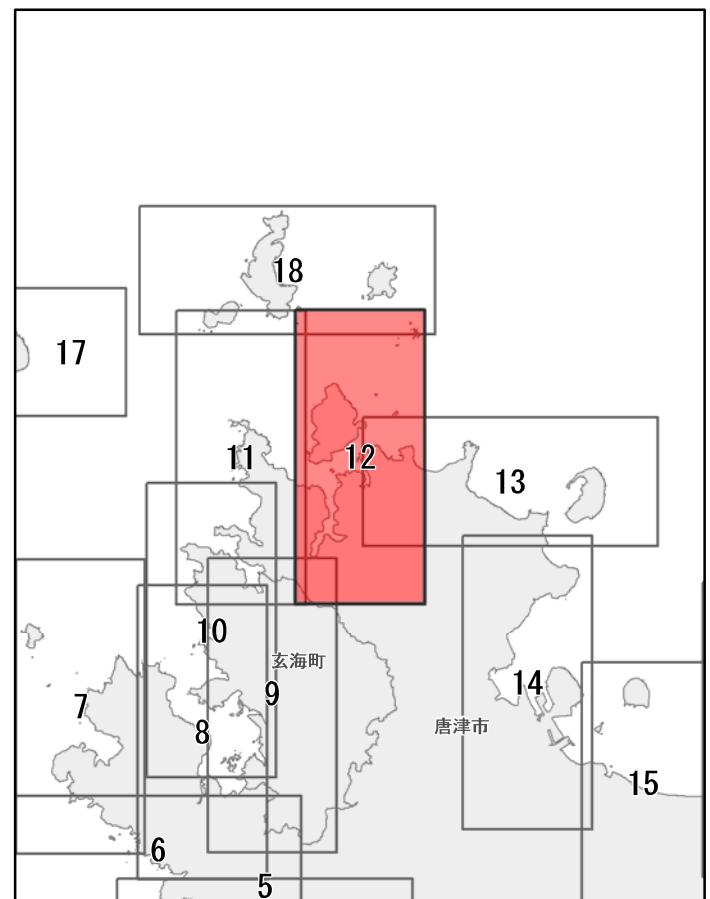
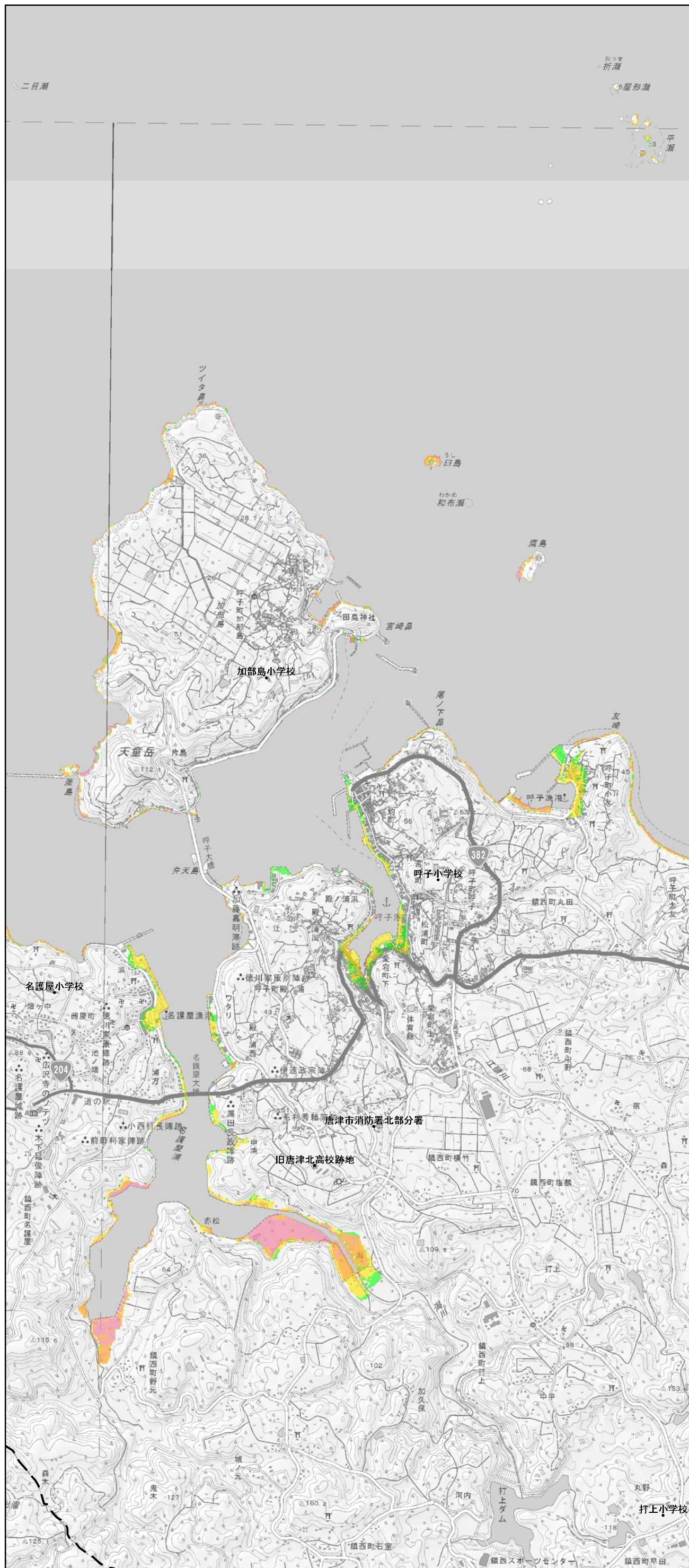


凡例 浸水深(m)

	0.01m以上 0.3m未満		1m以上 2m未満
	0.3m以上 1.0m未満		2m以上 5m未満

1:25,000
500 0 500 1,000 m

佐賀県津波浸水想定 市町村別 『 唐津市 』 (12/37)



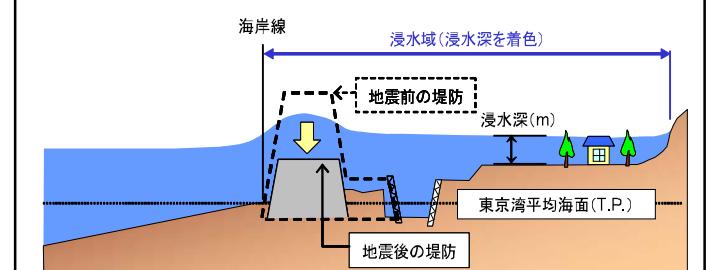
[留意事項]

- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律(平成23年法律第123号)第8条第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
- 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域(浸水域)と水深(浸水深)を表したものです。
- 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意ください。
- 津波は繰り返し襲ってきて、あとから来る津波の方が大きくなることがあるため、浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- 「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上等により、実際にには水位が変化することがあります。なお、この「津波浸水想定」は、規模の大きな河川での津波遡上・浸水を見込んだ浸水域と浸水深となっています。
- 地盤の低いところでは、地震によって堤防が沈下・損壊することで、津波が到達する前に浸水が始まることがあります。津波の到達時間に係らず、早めの避難行動を心掛けてください。
- この浸水想定図は、想定される複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したものです。
- 今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。

[用語の解説]

- 浸水想定について(図1参照)
- 浸水域:海岸線から陸域に津波が遡上した外縁までの範囲
 - 浸水深:陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ

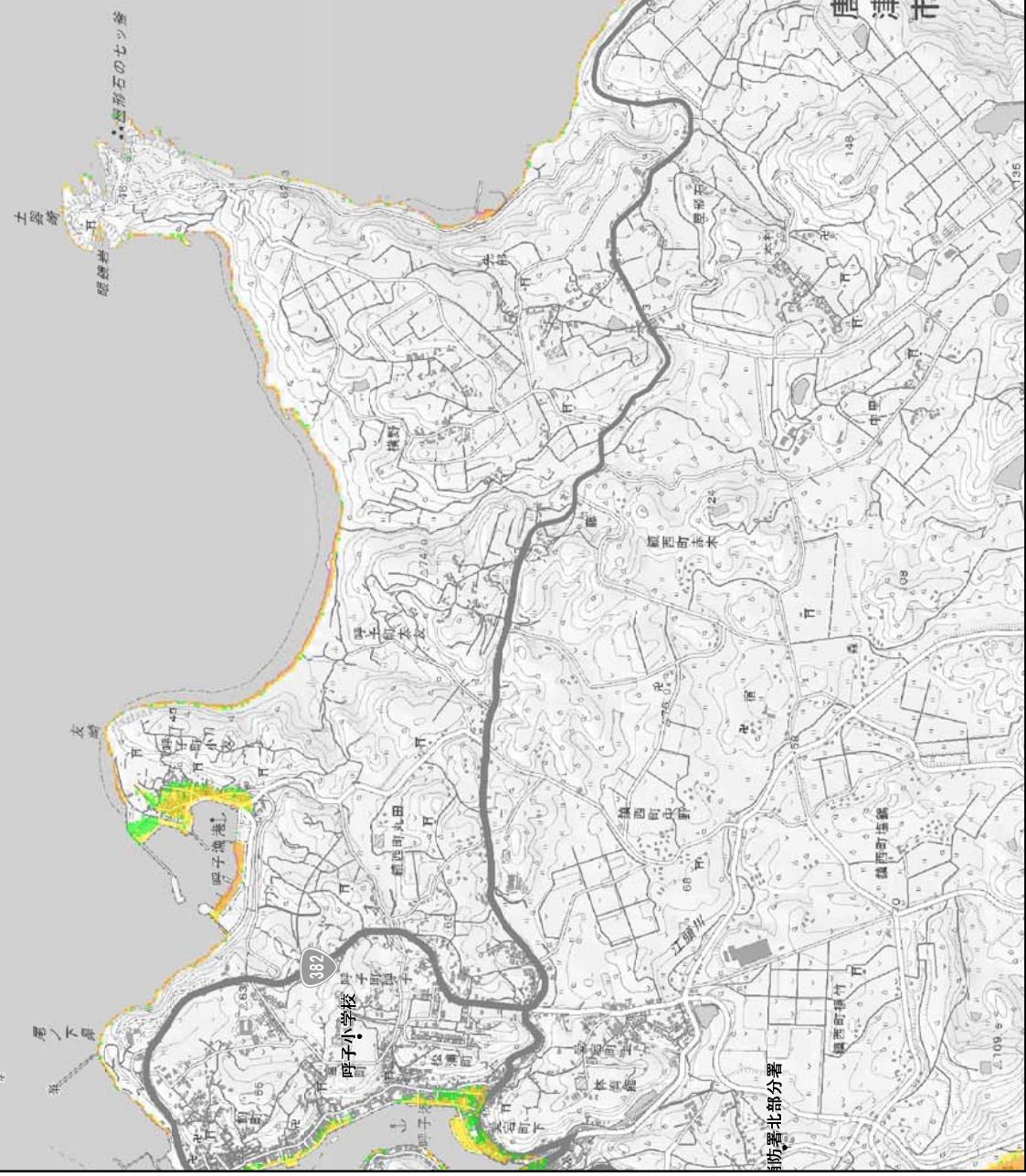
図1 浸水想定の用語



凡例 浸水深(m)

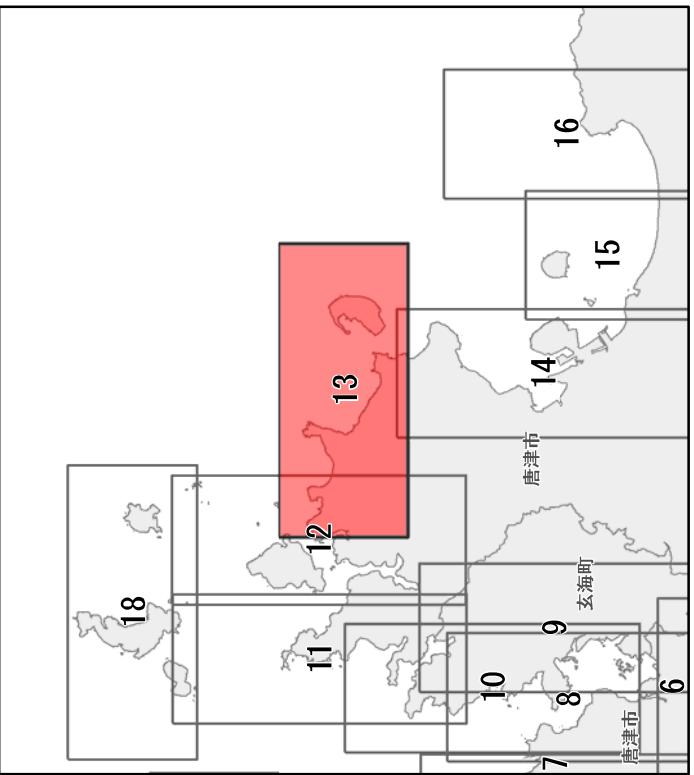
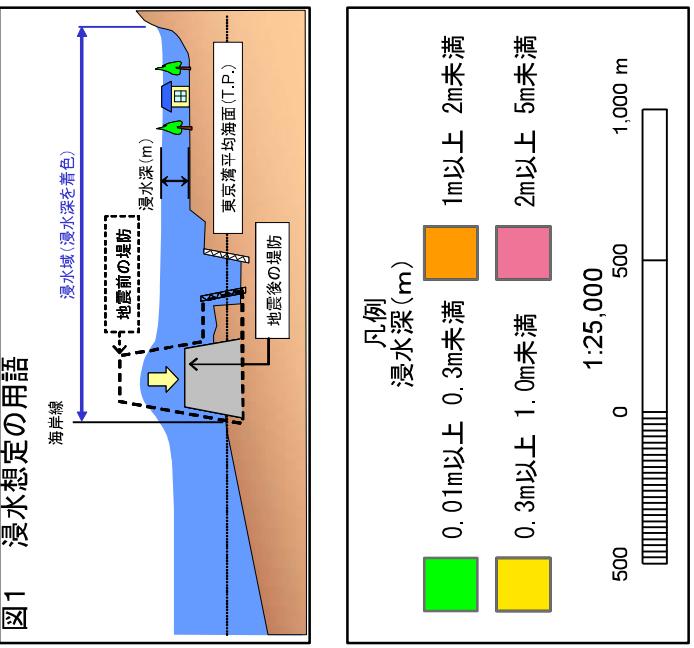
	0.01m以上 0.3m未満		1m以上 2m未満
	0.3m以上 1.0m未満		2m以上 5m未満

1:25,000
500 0 500 1,000 m

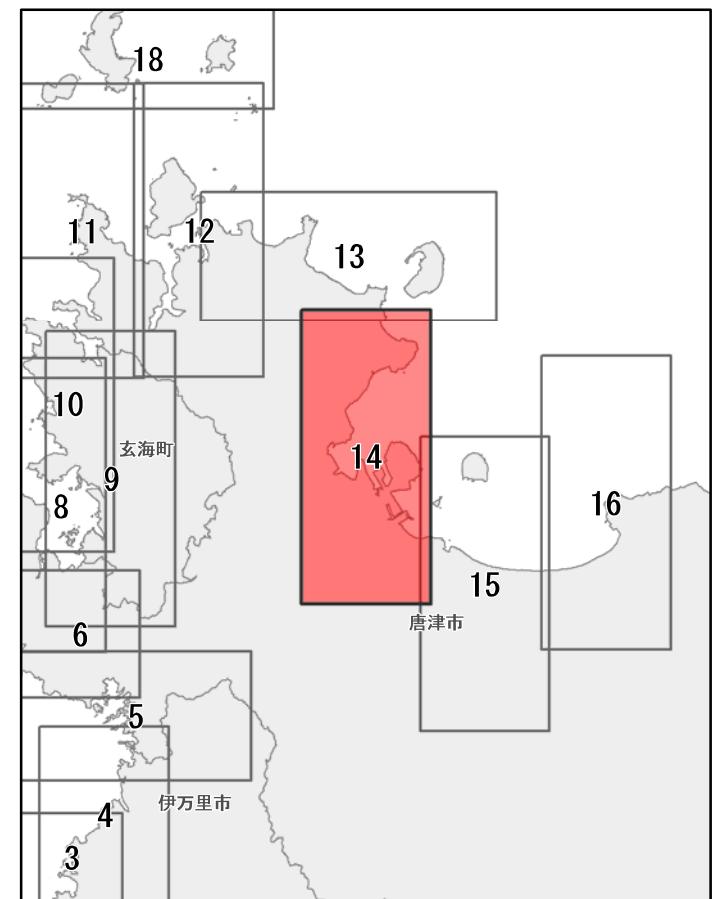
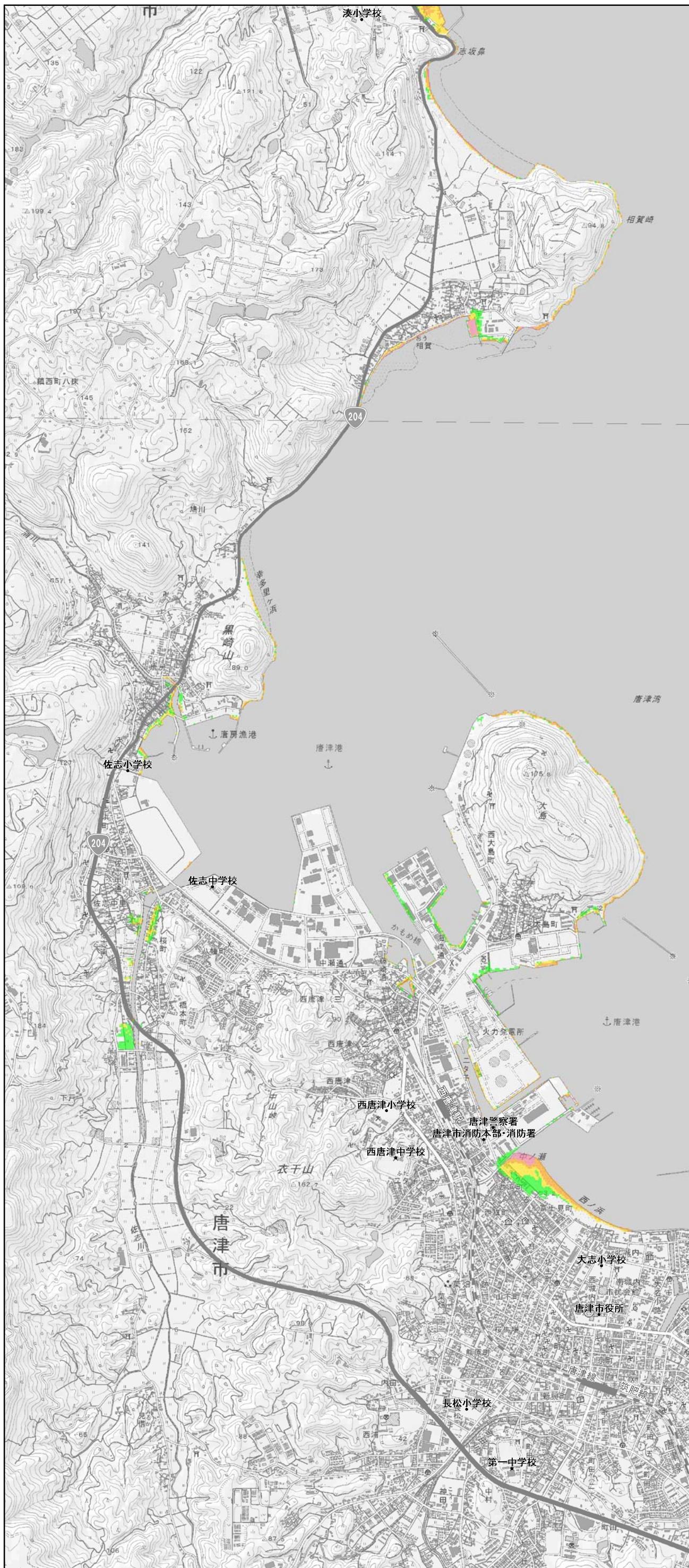


留意事項

- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
- 津波浸水想定は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものであります。
- 津波の津波浸水想定は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであります。
- これよりも大きな津波が発生する可能性がないといふものではありません。
- 津波浸水想定は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に關する計算条件によります。
- 津波浸水想定は、浸水域や浸水深は、浸水区域よりも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 津波浸水想定は、避難を中心とした津波防災対策を進めたためのものであり、津波による災害や被害の差異によります。
- 津波浸水想定は、津波浸水想定の浸水区域ではないことにご注意ください。
- 津波浸水想定は繰り返し表記されています。なお、この「津波浸水想定」は、規模の大きな河川での津波週上・浸水を見込んだ浸水域と津波の差異によるものです。
- 津波浸水想定は、河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の週上等により、実際には水位が津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となります。
- 津波浸水想定は、海岸線における堤防が沈下・損壊することで、津波が到達する前に浸水が始まります。
- 津波の水深が津波浸水想定では、常に最大となります。
- 津波浸水想定は、早めの避難行動を呼びかけてください。
- この津波浸水想定は、想定された複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したものであります。
- 今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。



佐賀県津波浸水想定 市町村別 『 唐津市 』 (14/37)



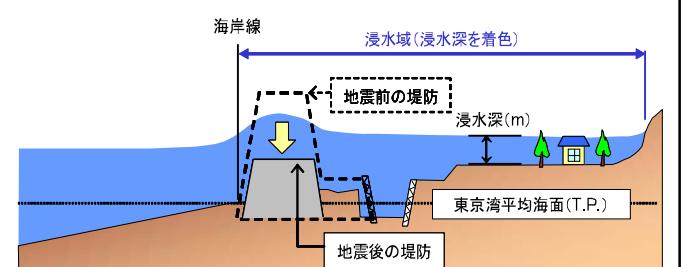
[留意事項]

- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律(平成23年法律第123号)第8条第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
- 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域(浸水域)と水深(浸水深)を表したものです。
- 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意ください。
- 津波は繰り返し襲ってきて、あとから来る津波の方が大きくなることがあるため、浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- 「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上等により、実際に水位が変化することがあります。なお、この「津波浸水想定」は、規模の大きな河川での津波遡上・浸水を見込んだ浸水域と浸水深となっています。
- 地盤の低いところでは、地震によって堤防が沈下・損壊することで、津波が到達する前に浸水が始まることがあります。津波の到達時間に係らず、早めの避難行動を心掛けください。
- この浸水想定図は、想定される複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したものです。
- 今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。

[用語の解説]

- 浸水想定について(図1参照)
- 浸水域: 海岸線から陸域に津波が遡上した外縁までの範囲
 - 浸水深: 陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ

図1 浸水想定の用語

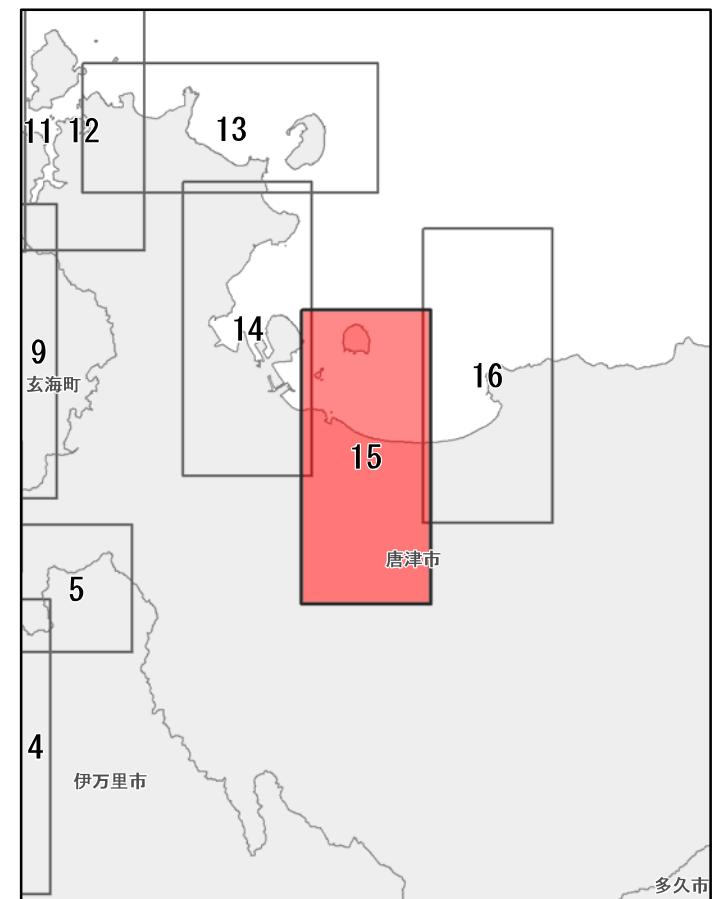


凡例 浸水深(m)

	0.01m以上 0.3m未満		1m以上 2m未満
	0.3m以上 1.0m未満		2m以上 5m未満

1:25,000
500 0 500 1,000 m

佐賀県津波浸水想定 市町村別 『 唐津市 』 (15/37)



[留意事項]

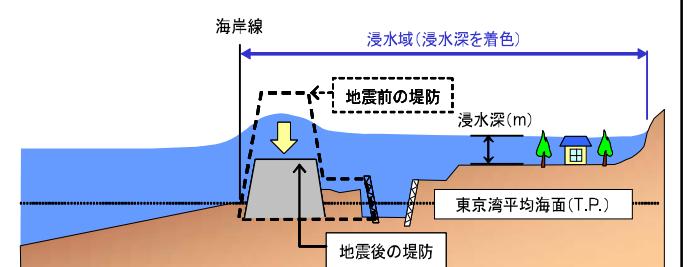
- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律(平成23年法律第123号)第8条第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
- 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域(浸水域)と水深(浸水深)を表したものです。
- 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意ください。
- 津波は繰り返し襲ってきて、あとから来る津波の方が大きくなることがあるため、浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- 「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上等により、実際にには水位が変化することがあります。なお、この「津波浸水想定」は、規模の大きな河川での津波遡上・浸水を見込んだ浸水域と浸水深となっています。
- 地盤の低いところでは、地震によって堤防が沈下・損壊することで、津波が到達する前に浸水が始まることがあります。津波の到達時間に係らず、早めの避難行動を心掛けてください。
- この浸水想定図は、想定される複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したものです。
- 今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。

[用語の解説]

浸水想定について(図1参照)

- 浸水域: 海岸線から陸域に津波が遡上した外縁までの範囲
- 浸水深: 陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ

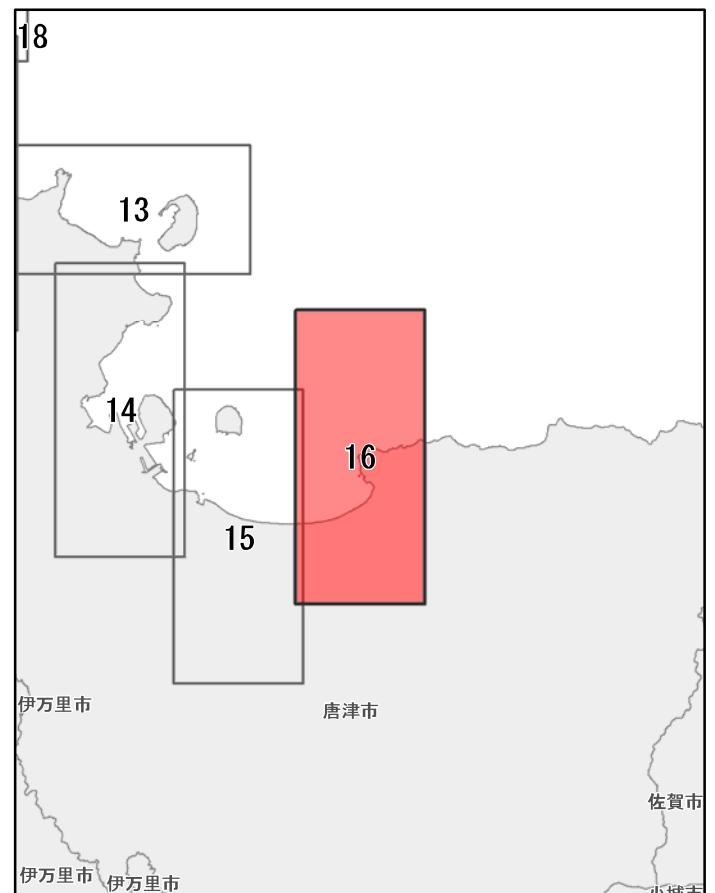
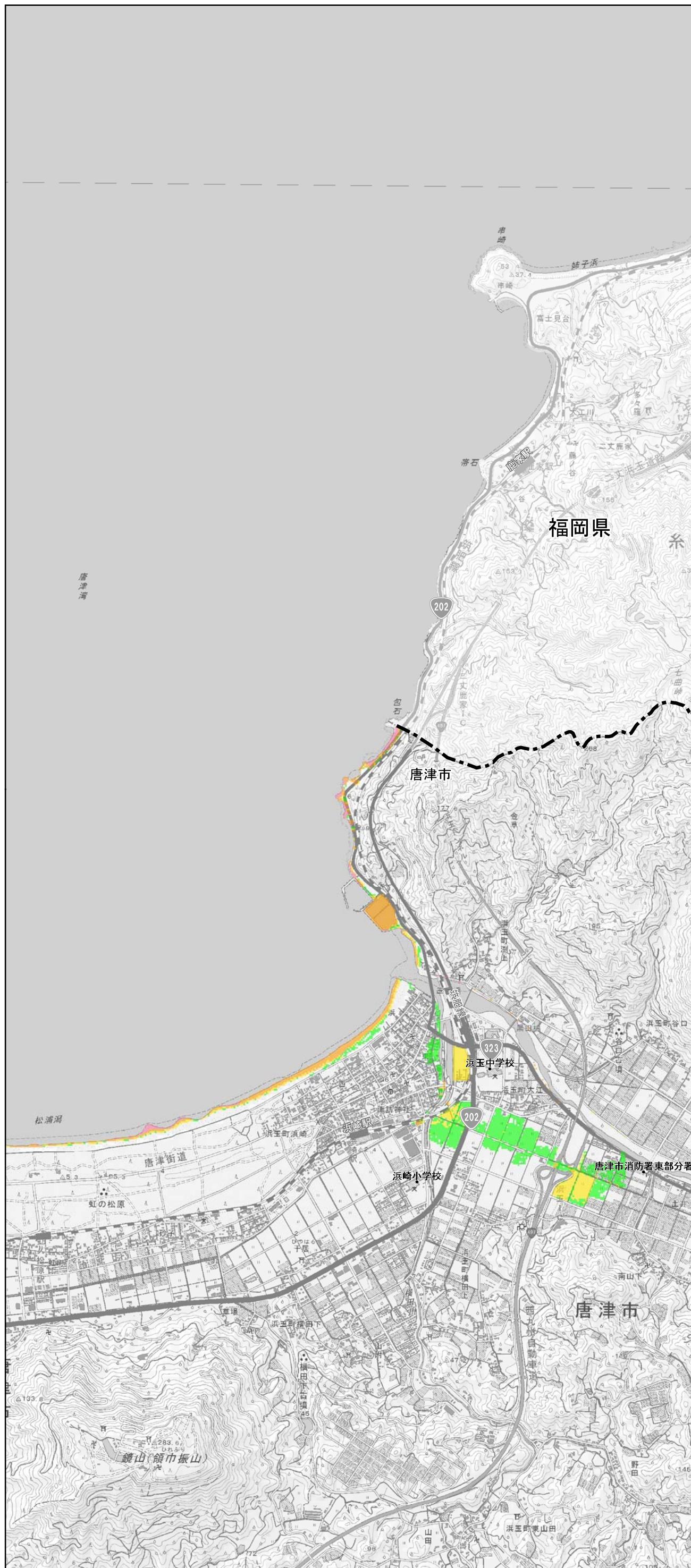
図1 浸水想定の用語



凡例 浸水深(m)

	0.01m以上 0.3m未満		1m以上 2m未満
	0.3m以上 1.0m未満		2m以上 5m未満

1:25,000
500 0 500 1,000 m



[留意事項]

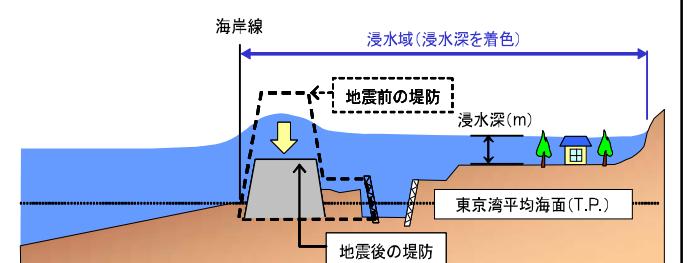
- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律(平成23年法律第123号)第8条第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
- 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域(浸水域)と水深(浸水深)を表したものです。
- 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意ください。
- 津波は繰り返し襲ってきて、あとから来る津波の方が大きくなることがあるため、浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- 「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上等により、実際には水位が変化することがあります。なお、この「津波浸水想定」は、規模の大きな河川での津波遡上・浸水を見込んだ浸水域と浸水深となっています。
- 地盤の低いところでは、地震によって堤防が沈下・損壊することで、津波が到達する前に浸水が始まることがあります。津波の到達時間に係らず、早めの避難行動を心掛けてください。
- この浸水想定図は、想定される複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したものです。
- 今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。

[用語の解説]

浸水想定について(図1参照)

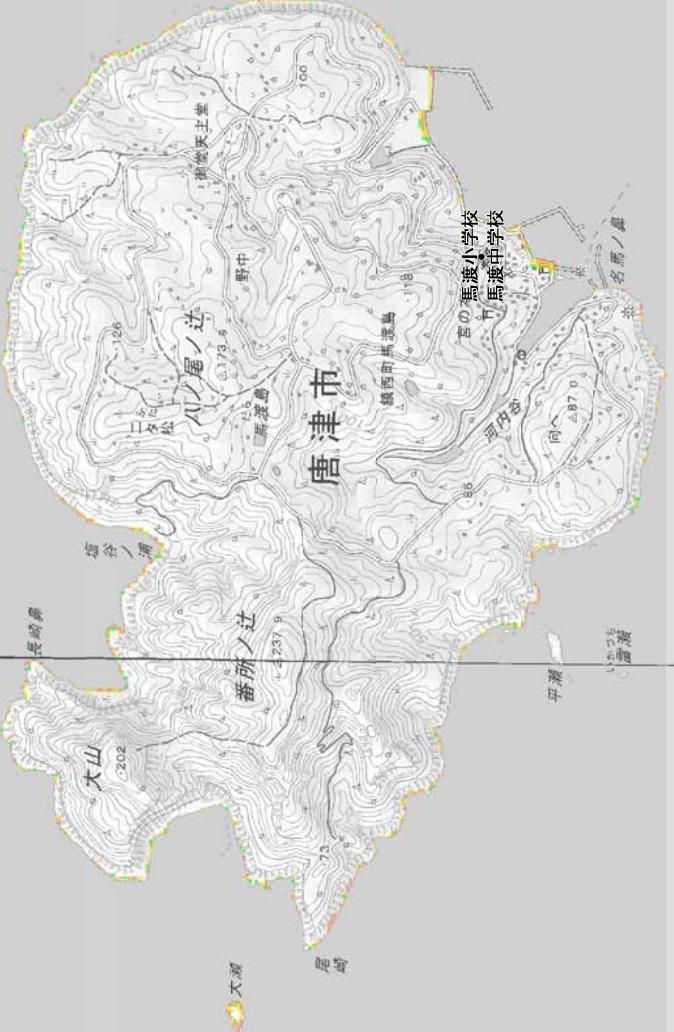
- 浸水域: 海岸線から陸域に津波が遡上した外縁までの範囲
- 浸水深: 陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ

図1 浸水想定の用語

凡例
浸水深(m)

	0.01m以上 0.3m未満		1m以上 2m未満
	0.3m以上 1.0m未満		2m以上 5m未満

1:25,000
500 0 500 1,000 m

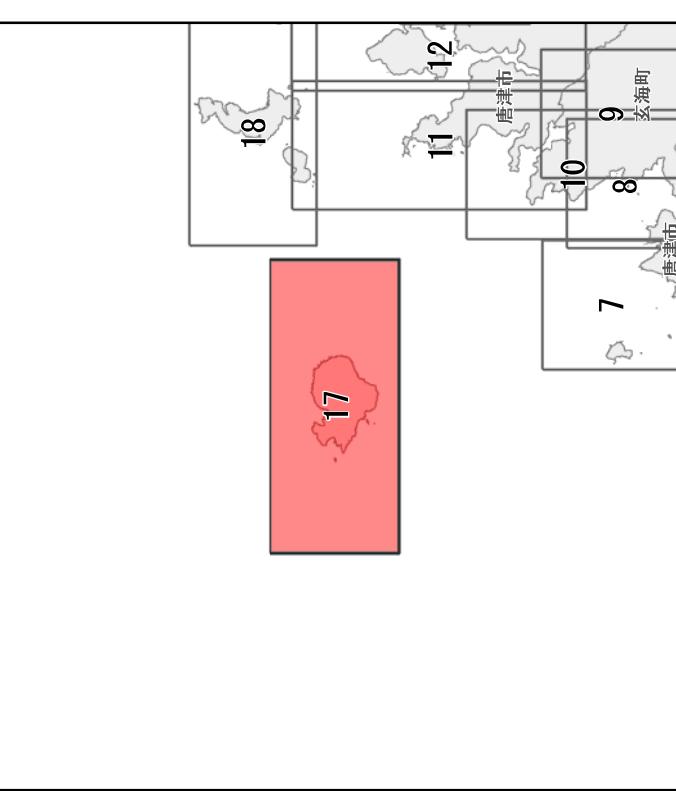
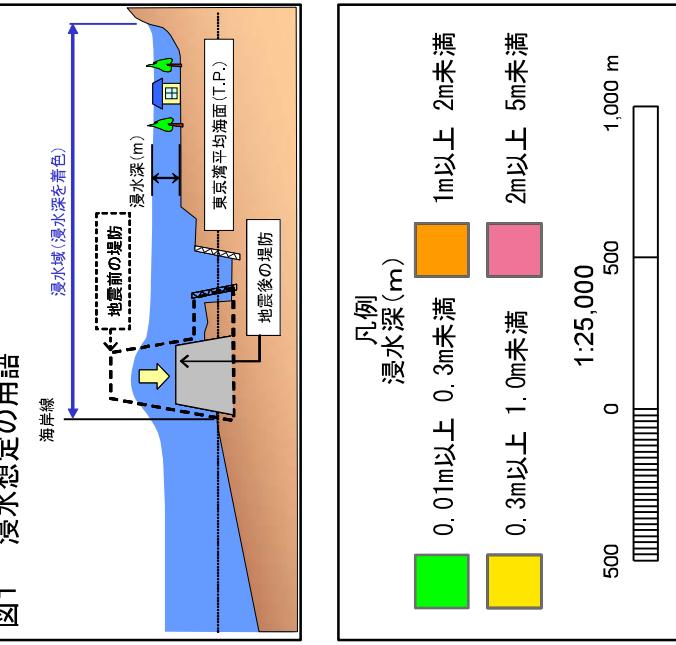


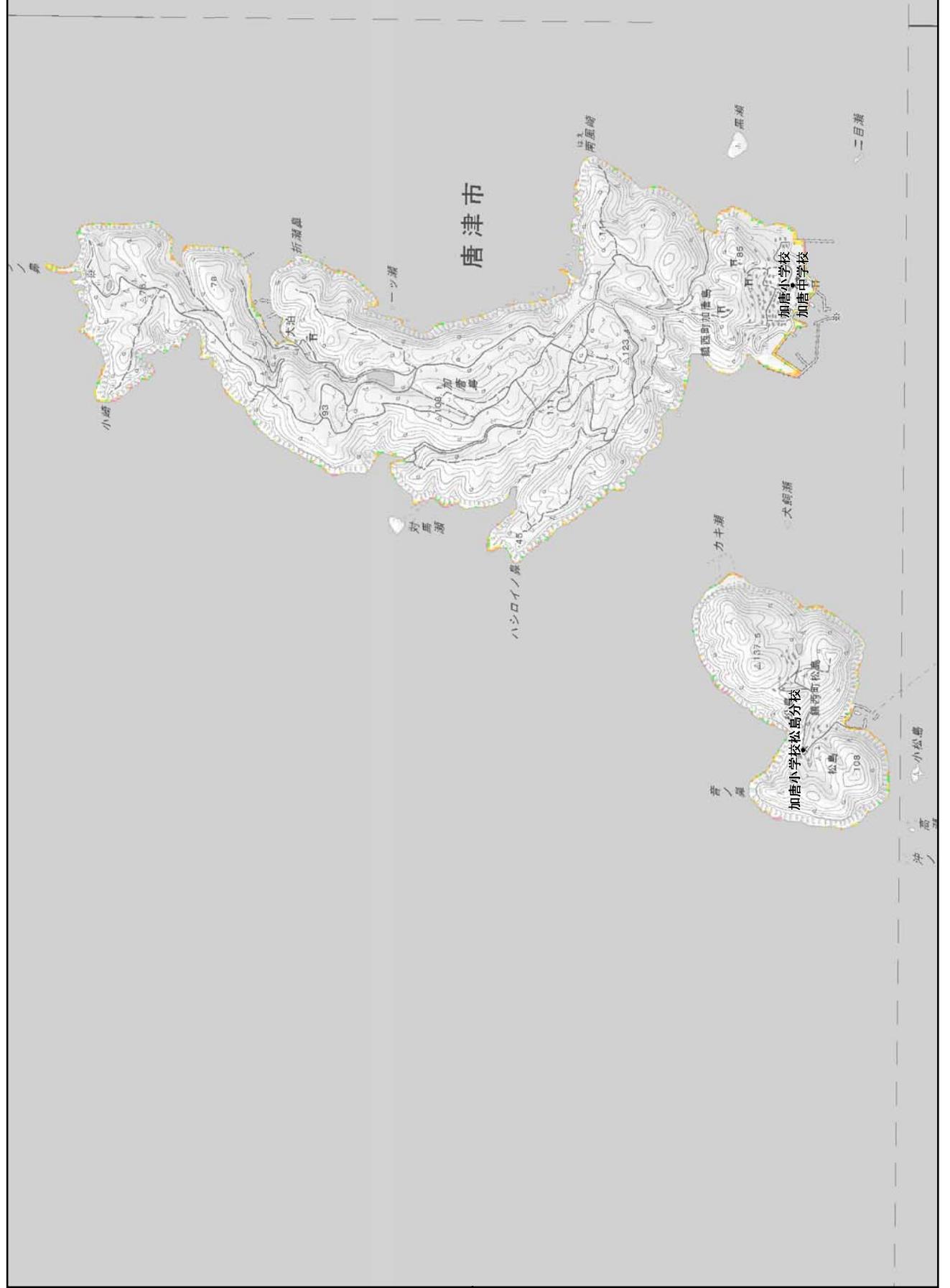
留意事項

- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに關する法律（平成23年法律第123号）第8条第1項に基づいて設定するもので、津波が発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したもの。
- 津波浸水想定は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであり、これよりも大きくなる津波が発生する可能性がないといふものではありません。
- 津波浸水想定は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 津波浸水想定の浸水域や浸水深は、震難を中心とした津波防災対策を進めたためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決して示すものではありません。この「津波浸水想定」は、規模の大きい河川での津波週上・浸水を見込んだ浸水域と津波第2波以降に最大となる河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の週上等により、実際には水位が変化することがあります。
- 津波第2波浸水想定では、地震によって堤防が沈下・損壊することで、津波が到達する前に浸水が始まることがあります。津波の水深が低いところでは、早めの避難行動を心掛けください。
- この浸水想定図は、想定される複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したものです。
- 今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。

[用語の解説]

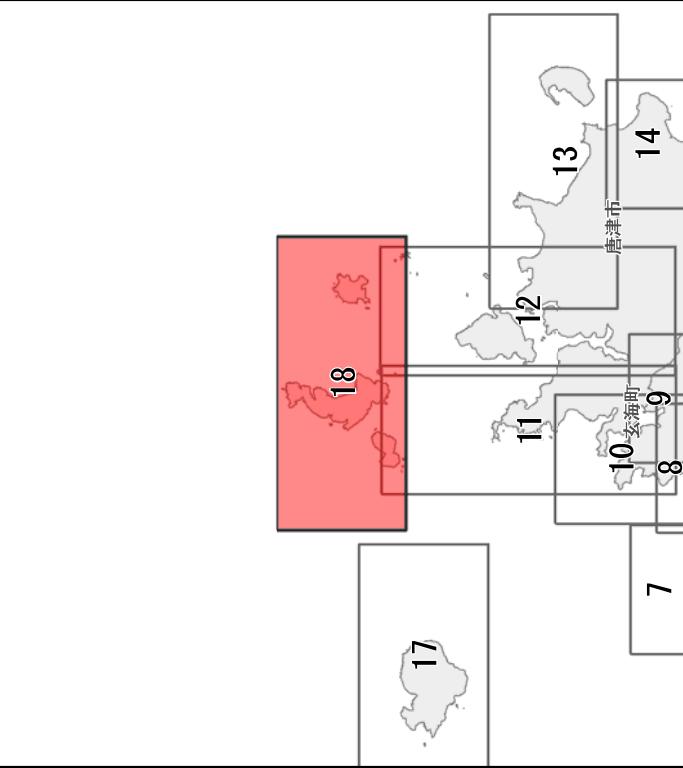
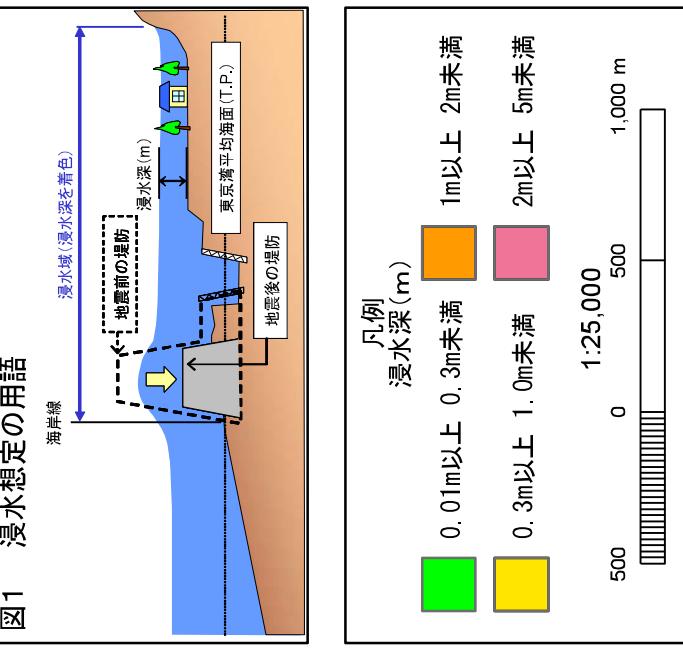
- 浸水想定について（図1参照）
○浸水域：海岸線から陸域までの大体の範囲
○浸水深：陸上の各地点で水面が最も高い位置にいたときの地面からの高さ



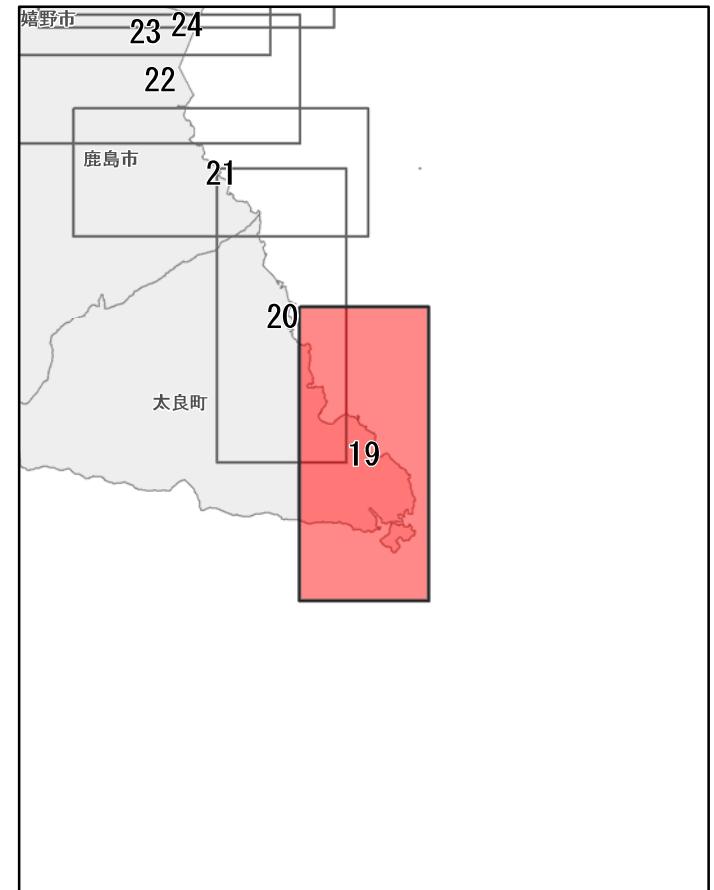
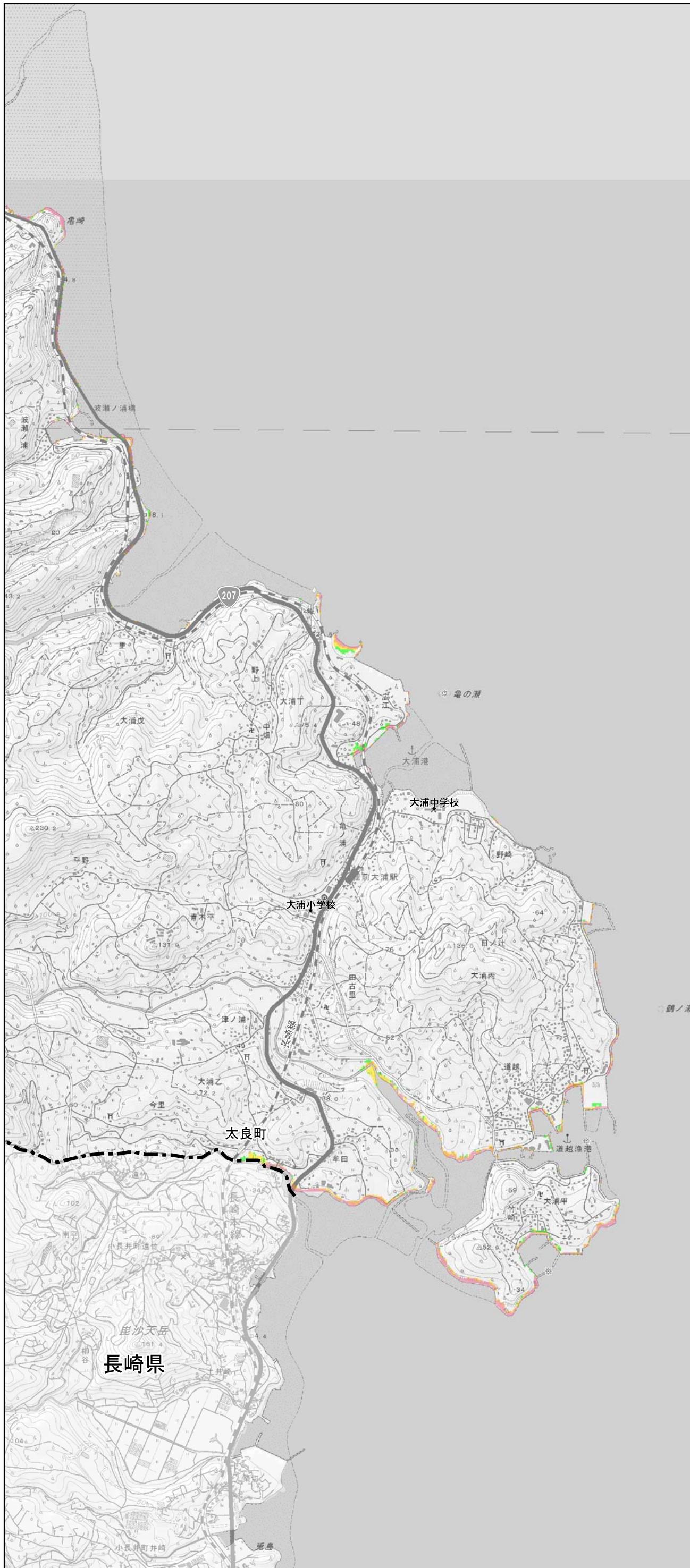


留意事項

- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに關する法律（平成23年法律第123号）第8条第1項に基づいて設定するもので、津波が発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表すものです。
- 津波浸水想定は、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないといふものではありません。
- 津波浸水想定は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がほか、地震による影響のほか、地震によっても浸水深が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 津波浸水想定は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による影響のほか、地震によっても浸水深が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 津波浸水想定の浸水深は、震源を中心とした津波対策を進めたためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決して表すものではありません。この「津波浸水想定」は、規模の大きい河川での津波週上・浸水を見込んだ浸水域と浸水深が降に最大となります。なお、この「津波浸水想定」は、規模の大きい河川での津波週上等に津波が始まることがあります。津波の第二波は繰り返し襲つてきます。地盤によって堤防が沈下・損壊することで、津波が到達する前に浸水が始まります。
- 津波浸水想定は、河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の週上等により、実際には水位が変化します。なお、この「津波浸水想定」では、規模の大きい河川での津波週上・浸水を見込んだ浸水域と浸水深が降に最大となります。
- 津波浸水想定は、早めの避難行動を計りください。
- この浸水想定図は、想定された複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したもののです。
- 今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。



佐賀県津波浸水想定 市町村別 『 太良町 』 (19/37)



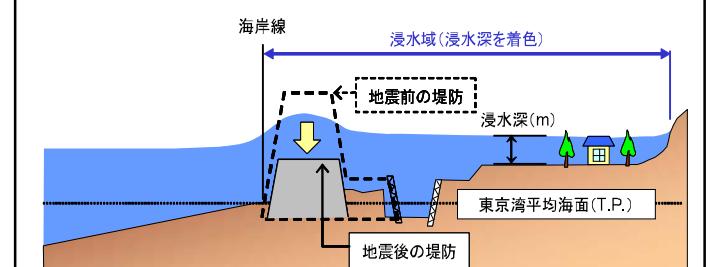
[留意事項]

- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律(平成23年法律第123号)第8条第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
- 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域(浸水域)と水深(浸水深)を表したものです。
- 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意ください。
- 津波は繰り返し襲ってきて、あとから来る津波の方が大きくなることがあるため、浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- 「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上等により、実際に水位が変化することがあります。なお、この「津波浸水想定」は、規模の大きな河川での津波遡上・浸水を見込んだ浸水域と浸水深となっています。
- 地盤の低いところでは、地震によって堤防が沈下・損壊することで、津波が到達する前に浸水が始まることがあります。津波の到達時間に係らず、早めの避難行動を心掛けてください。
- この浸水想定図は、想定される複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したものです。
- 今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。

[用語の解説]

- 浸水想定について(図1参照)
- 浸水域:海岸線から陸域に津波が遡上した外縁までの範囲
 - 浸水深:陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ

図1 浸水想定の用語

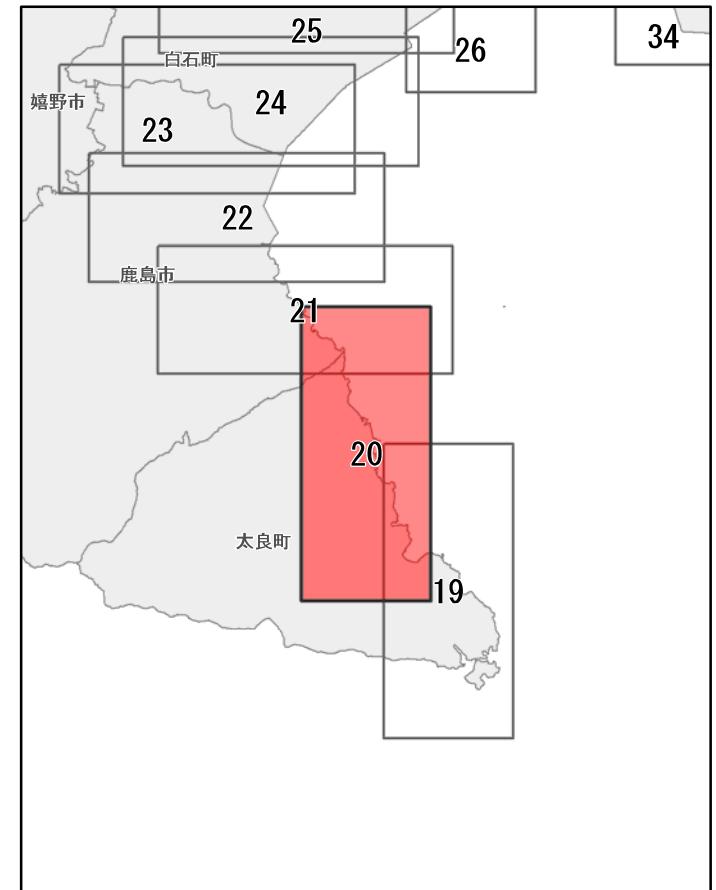
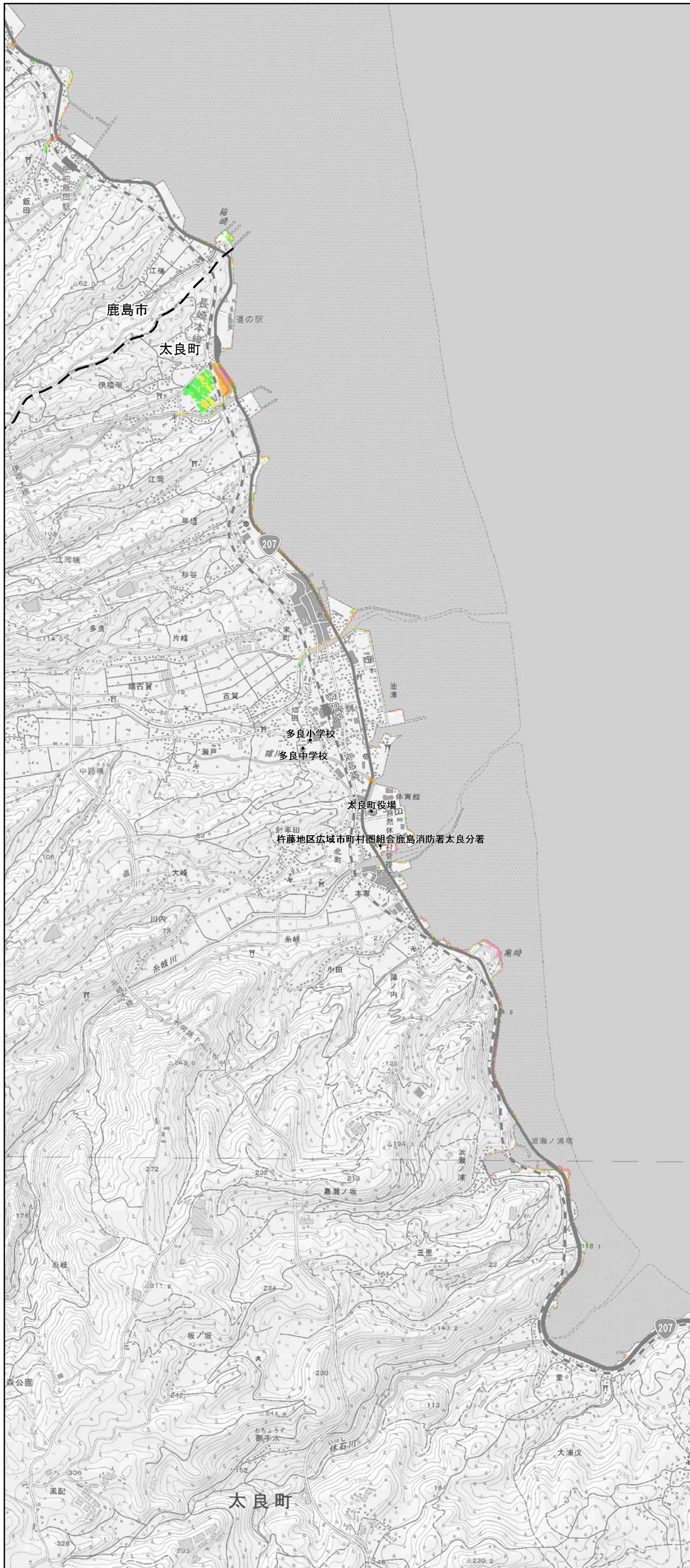


凡例 浸水深(m)

	0.01m以上 0.3m未満		1m以上 2m未満
	0.3m以上 1.0m未満		2m以上 5m未満

1:25,000
500 0 500 1,000 m

佐賀県津波浸水想定 市町村別 『 太良町 』 (20/37)



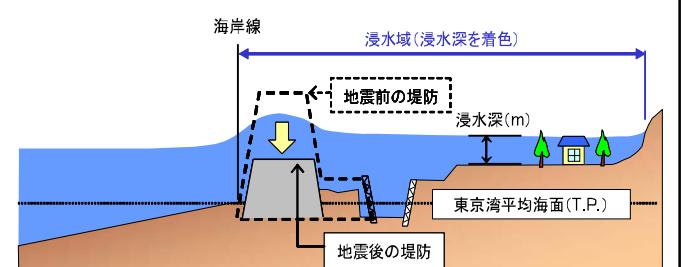
[留意事項]

- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律(平成23年法律第123号)第8条第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
- 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域(浸水域)と水深(浸水深)を表したものです。
- 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意ください。
- 津波は繰り返し襲ってきて、あとから来る津波の方が大きくなることがあるため、浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- 「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上等により、実際には水位が変化することがあります。なお、この「津波浸水想定」は、規模の大きな河川での津波遡上・浸水を見込んだ浸水域と浸水深となっています。
- 地盤の低いところでは、地震によって堤防が沈下・損壊することで、津波が到達する前に浸水が始まることがあります。津波の到達時間に係らず、早めの避難行動を心掛けてください。
- この浸水想定図は、想定される複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したものです。
- 今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。

[用語の解説]

- 浸水想定について(図1参照)
- 浸水域: 海岸線から陸域に津波が遡上した外縁までの範囲
 - 浸水深: 陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ

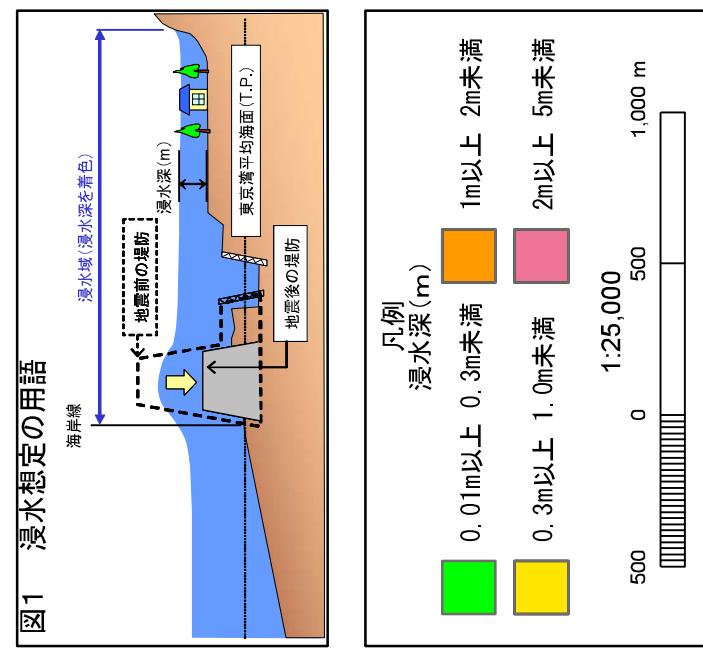
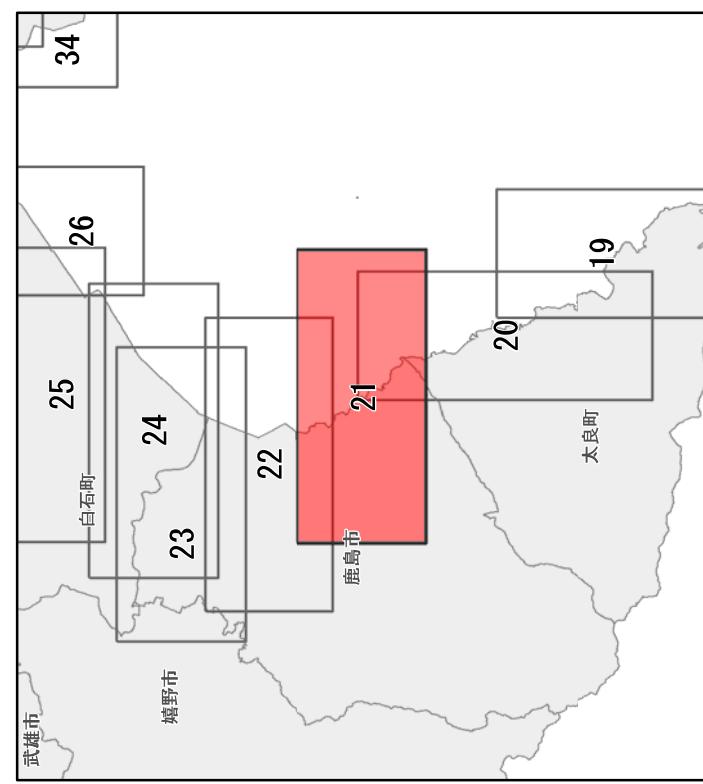
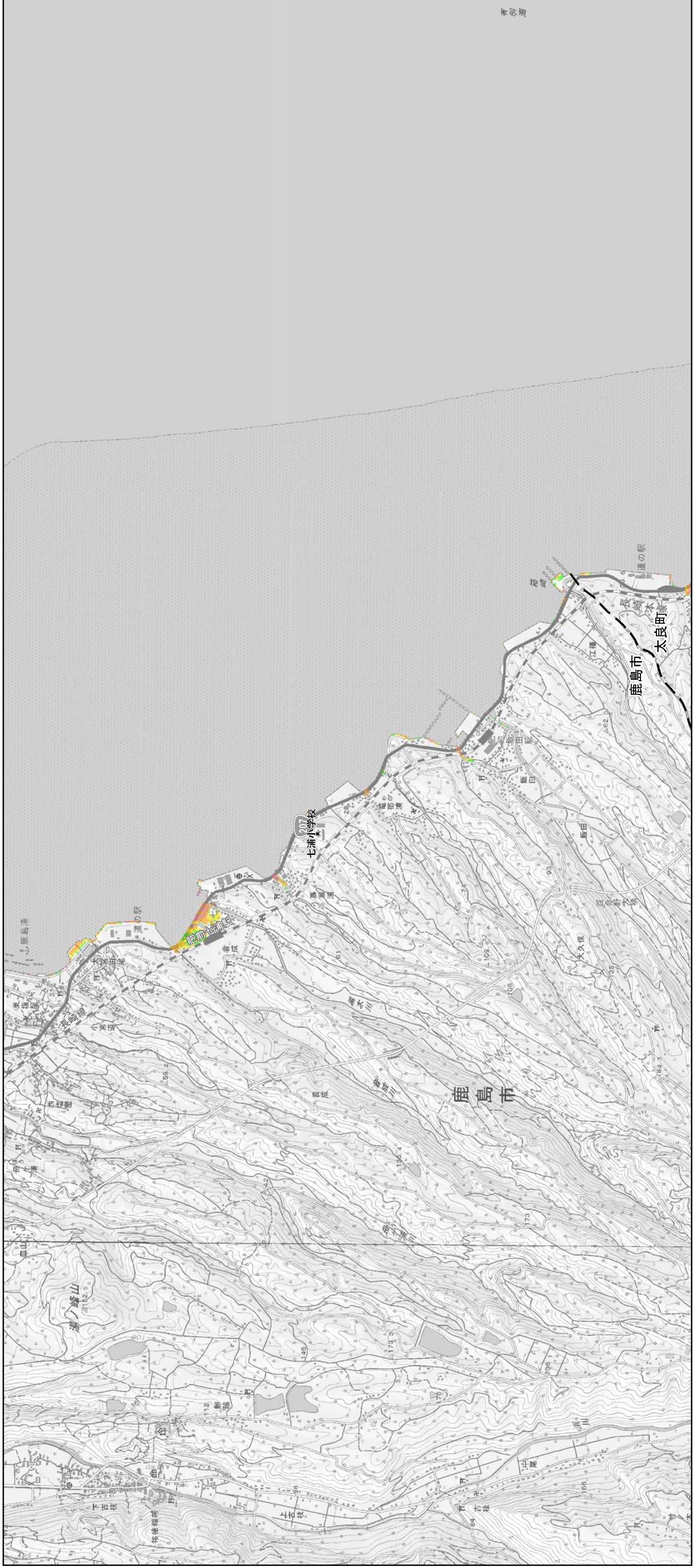
図1 浸水想定の用語



凡例 浸水深(m)

	0.01m以上 0.3m未満		1m以上 2m未満
	0.3m以上 1.0m未満		2m以上 5m未満

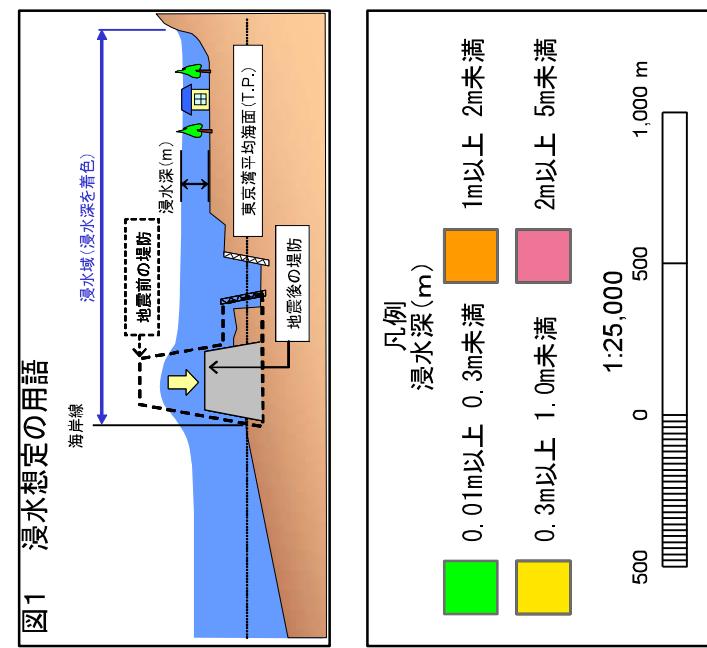
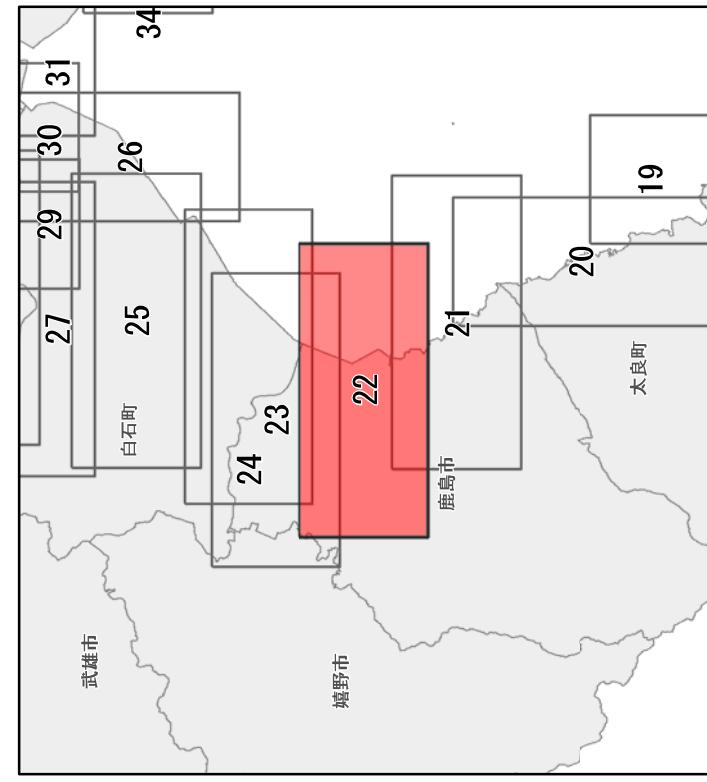
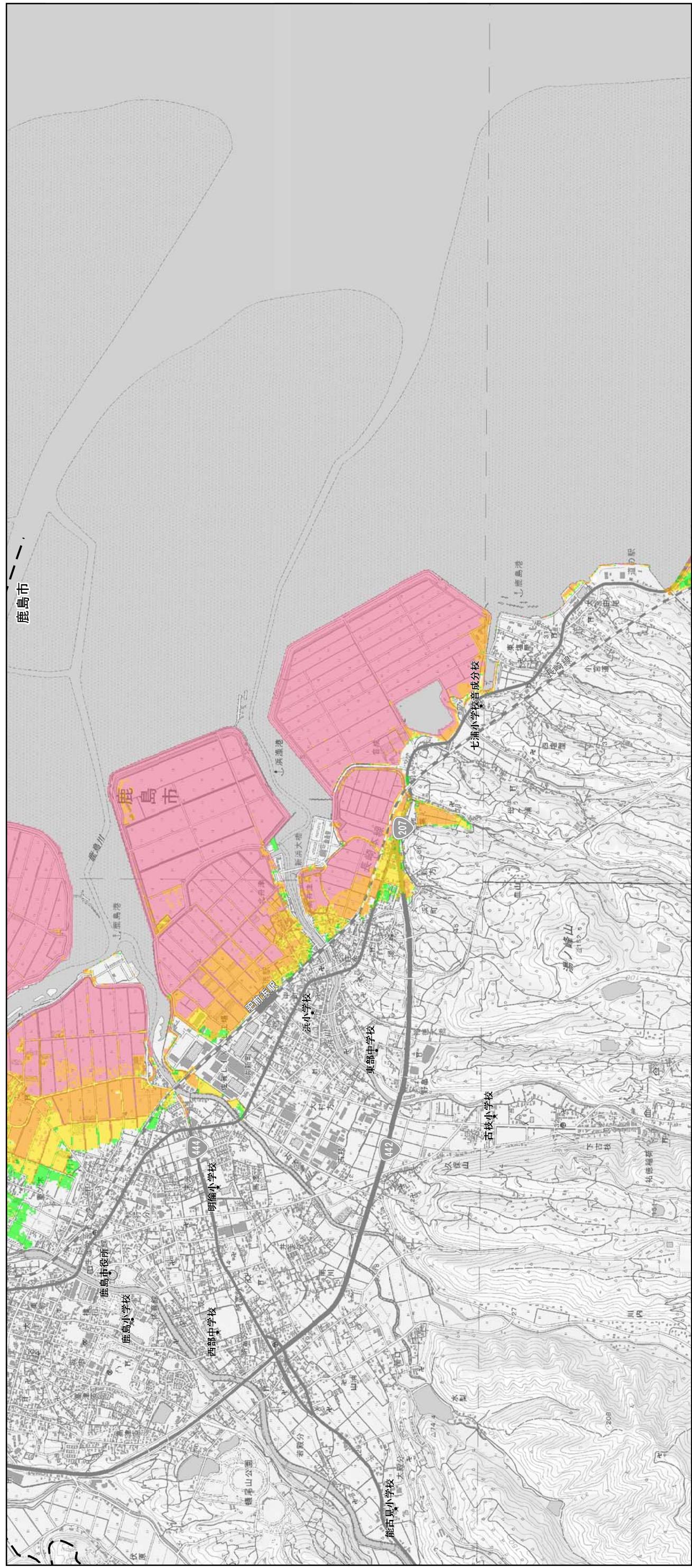
1:25,000
500 0 500 1,000 m



【留意事項】
 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに關する法律（平成23年法律第123号）第8条第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したもののです。
 ○津波の津波浸水想定は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであります。これよりも大きくなれば、津波が発生する可能性がないといふものではありません。
 ○津波浸水想定は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に關する計算条件により、浸水深は、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
 ○津波浸水想定の浸水深は、浸水域や浸水深は、浸水範囲を決して大きなものではありませんが、津波による災害や被害の規模の大きさなどにご注意ください。
 ○津波浸水想定は、津波の第一波ではなく、津波によって堤防が沈下・損壊することで、津波が到達する前に浸水が始まることがあります。津波の第二波以降に最大となる場所もあります。
 ○津波浸水想定では、河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の週上等により、実際には水位が変化することがあります。なほ、この「津波浸水想定」は、規模の大きな河川での津波週上・浸水を見込んだ浸水域と浸水深を修正する可能性があります。
 ○地盤の低いところでは、地盤に最大となるところでは、早めの避難行動を乞うください。
 ○この浸水想定図は、想定された複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したもののです。
 ○今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。

【用語の解説】
 浸水想定について（図1参照）
 ○浸水域：海岸線から陸域まで範囲
 ○浸水深：水面が最も高い位置にいたときの地面から水面までの高さ

佐賀県津波浸水想定 市町村別 『鹿島市』 (22/37)

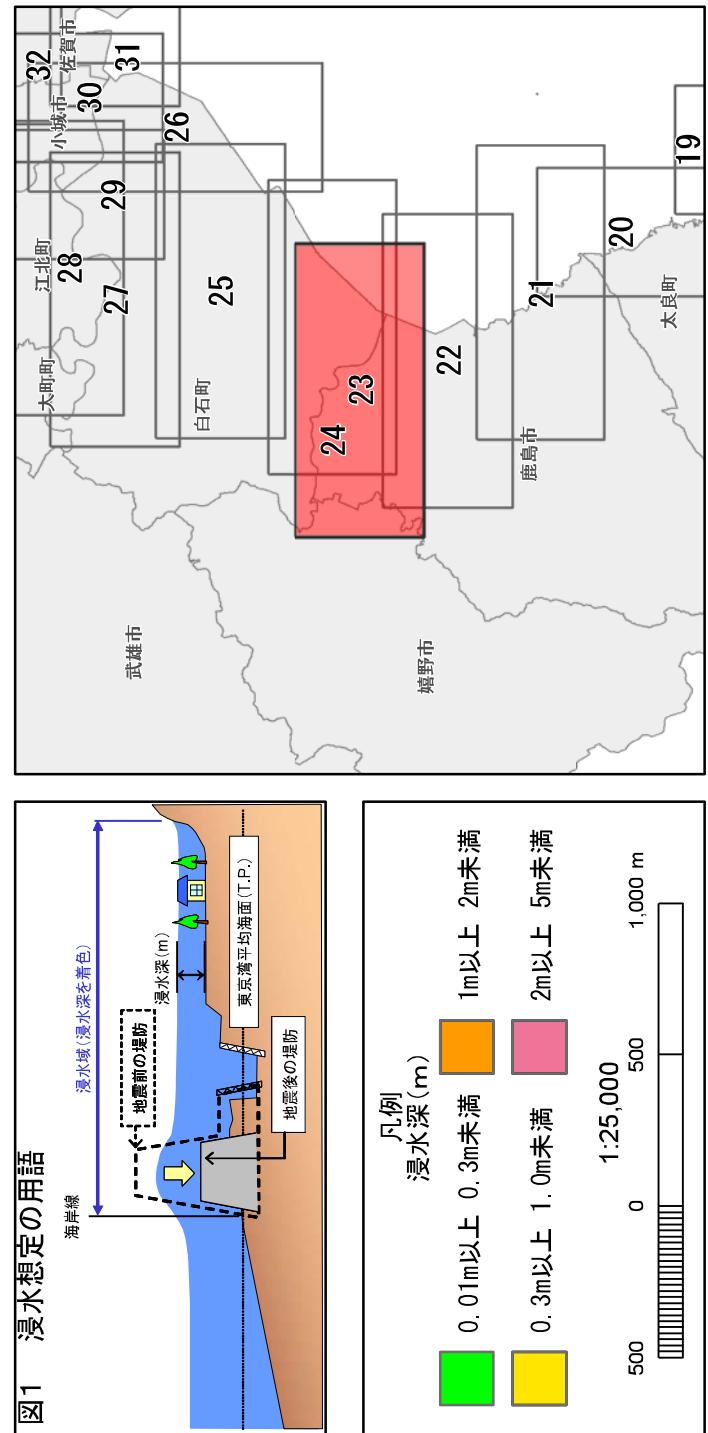
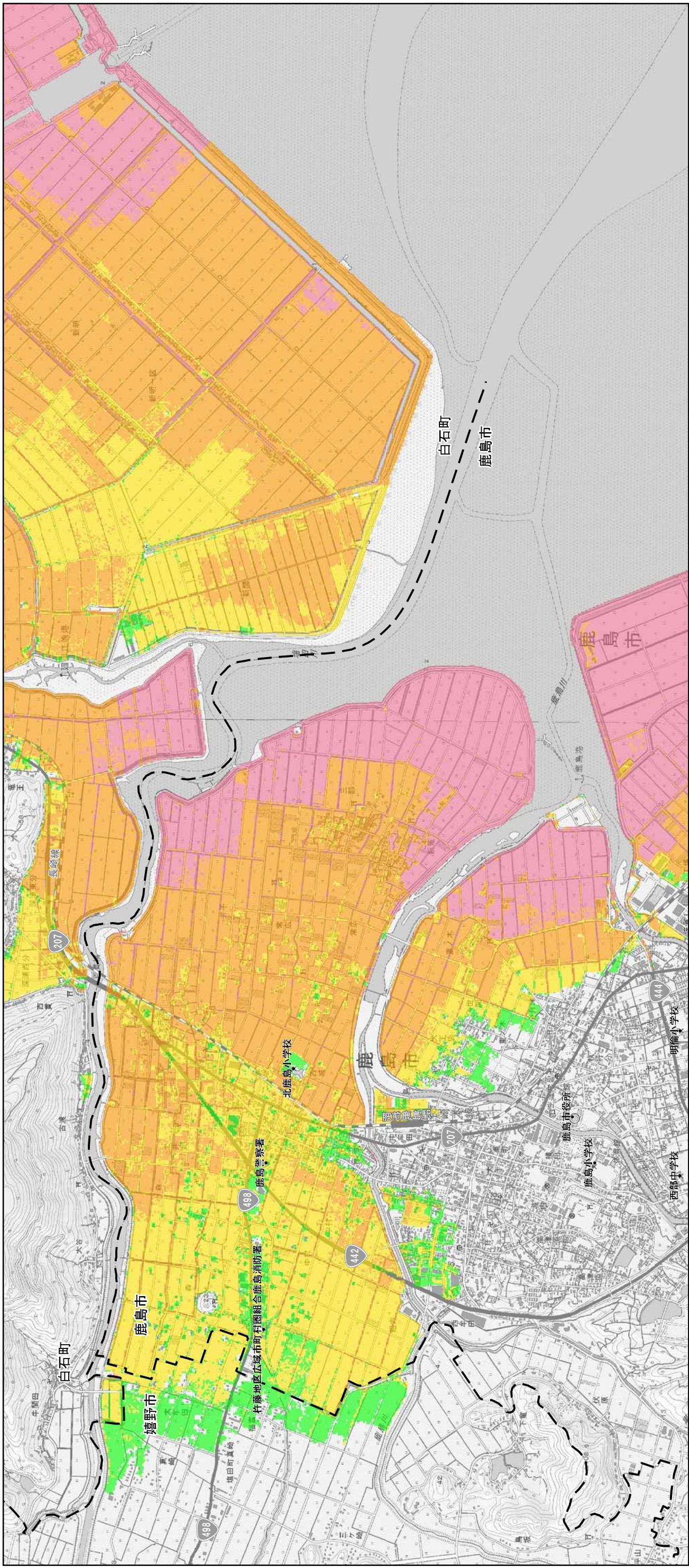


【留意事項】
 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに關する法律（平成23年法律第123号）第8条第1項に基づいて設定するもので、
 ○津波浸水想定は、最大クラスの津波が発生した場合において発生した場合に想定される津波や今後発生が予想される津波（浸水深）
 ○を表したもののです。
 ○津波の津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したもので
 あります。これよりも大きくなれば、津波の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に關する計算条件
 ○浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。津波による災害や被害の
 ○差異により、浸水深でも津波が発生したことによって避難を中心とした津波対策を進めたためのものであり、津波による災害や被害の
 ○津波浸水想定の津波浸水深は、津波の規模の大きさなどに注意ください。
 ○津波範囲を決して複数ある場合があります。津波の第一波ではなく、
 ○津波が降に最大となる場所もあります。
 ○津波浸水想定では、津波の週上等により、実際には水位
 ○津波浸水想定では、河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の週上・浸水を見込んだ浸水域と浸
 ○津波浸水想定では、津波が到達する前に浸水が始まることがあります。津波の
 ○津波の低いところでは、地盤間に係らず、早めの避難行動を乞うください。
 ○この津波浸水想定は、想定された複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したもののです。
 ○今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。

【用語の解説】
 ○浸水想定について（図1参照）
 ○浸水区域：海岸線から陸域まで外縁までの範囲
 ○浸水深：陸上の各地点で水面が最も高い位置にいたときの地面から水面までの高さ

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25,000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平27情検、第117号)

佐賀県津波浸水想定 市町村別 『鹿島市』 (23/37)



【留意事項】

「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律（平成23年法律第123号）第8条第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。最大クラスの津波が発生する津波の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表すものです。

○津波浸水想定は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであります。これよりも大きくなつたりする津波が発生した場合、津波による影響のほか、地震による影響のほか、地盤変動や構造物の変状等に關する計算条件等に關するものであります。

○浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震によっても大きくなつたりする津波が発生した場合、津波による影響のほか、地盤変動や構造物の変状等に關する計算条件等に關するものであります。

○津波浸水想定の浸水域や浸水深は、震源を中心とした津波対策を進めたためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決して示すものではありません。

○津波浸水想定は、津波の規模の大きさによって、津波の週上等により、実際には水位が変化するところでは、津波浸水想定で示す水位よりも高い水位を示すことがあります。

○地盤の低いところでは、津波浸水想定で示す水位よりも高い水位を示すことがあります。

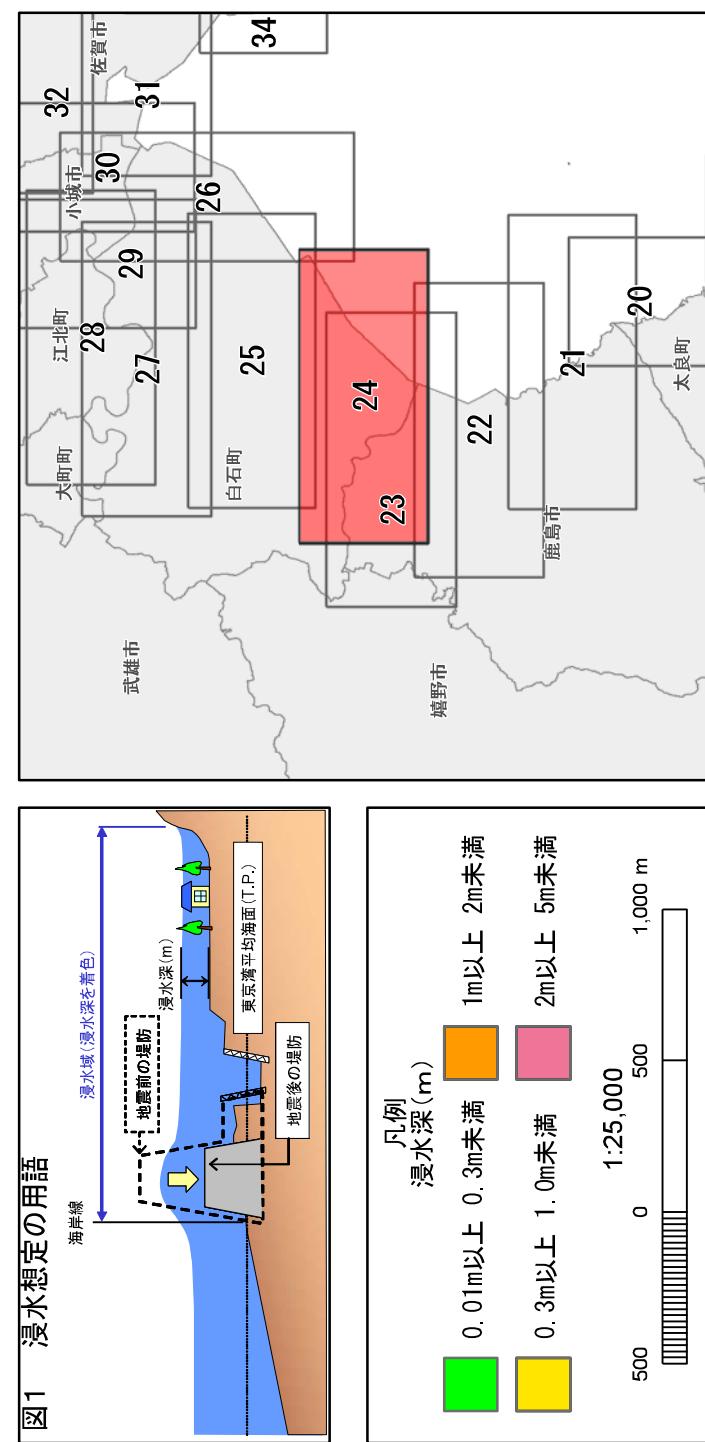
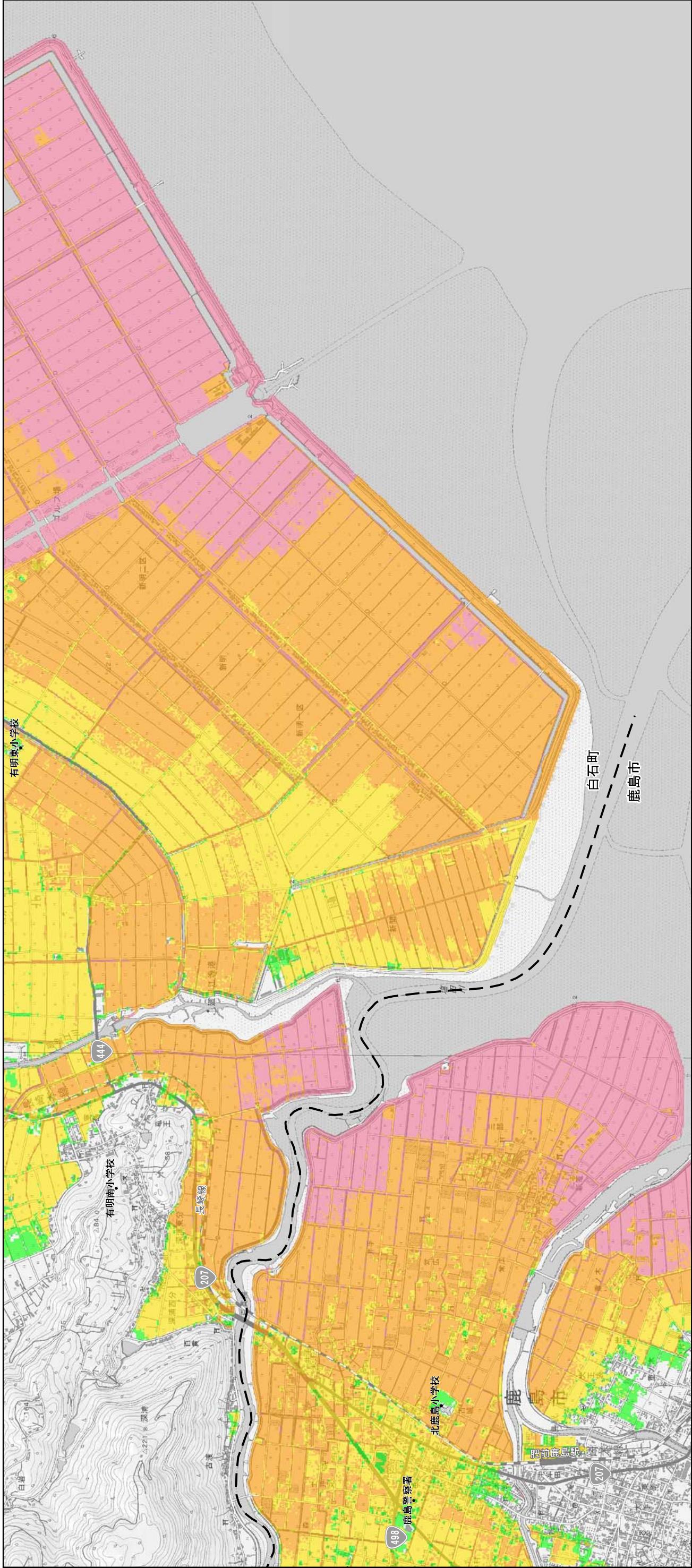
○この津波浸水想定図は、想定された複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したものです。

○今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。

【用語の解説】

○浸水想定について（図1参照）
○浸水域：海岸線から陸域までの大さいの範囲
○浸水深：陸上の各地点で水面が最も高い位置にいたときの地面から水面までの高さ

佐賀県津波浸水想定 市町村別 『白石町』 (24/37)



留意事項

「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに關する法律（平成23年法律第123号）第8条第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。最大クラスの津波が発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したもので、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであります。これよりも大きな津波が発生する可能性がないといふものではありません。津波による地盤変動や建物の影響のほか、地震による津波が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。津波外でも浸水が発生したり、避難を中心とした津波対策を進めたためのものであり、津波による災害や被害の差異により、浸水域や浸水深は、津波の大きさなどによって異なることがあります。津波の第一波ではなく、津波により、河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の週上等により、実際には水位が津波により降に最大となります。津波が到達する前に浸水が始まることがあります。津波の第二波は繰り返し襲つてきます。なほ、この「津波浸水想定」は、規模の大きな河川での津波週上・浸水を見込んだ浸水域と浸水深を決しています。地盤に係らず、早めの避難行動を乞うください。

この津波想定図は、想定された複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したもののです。

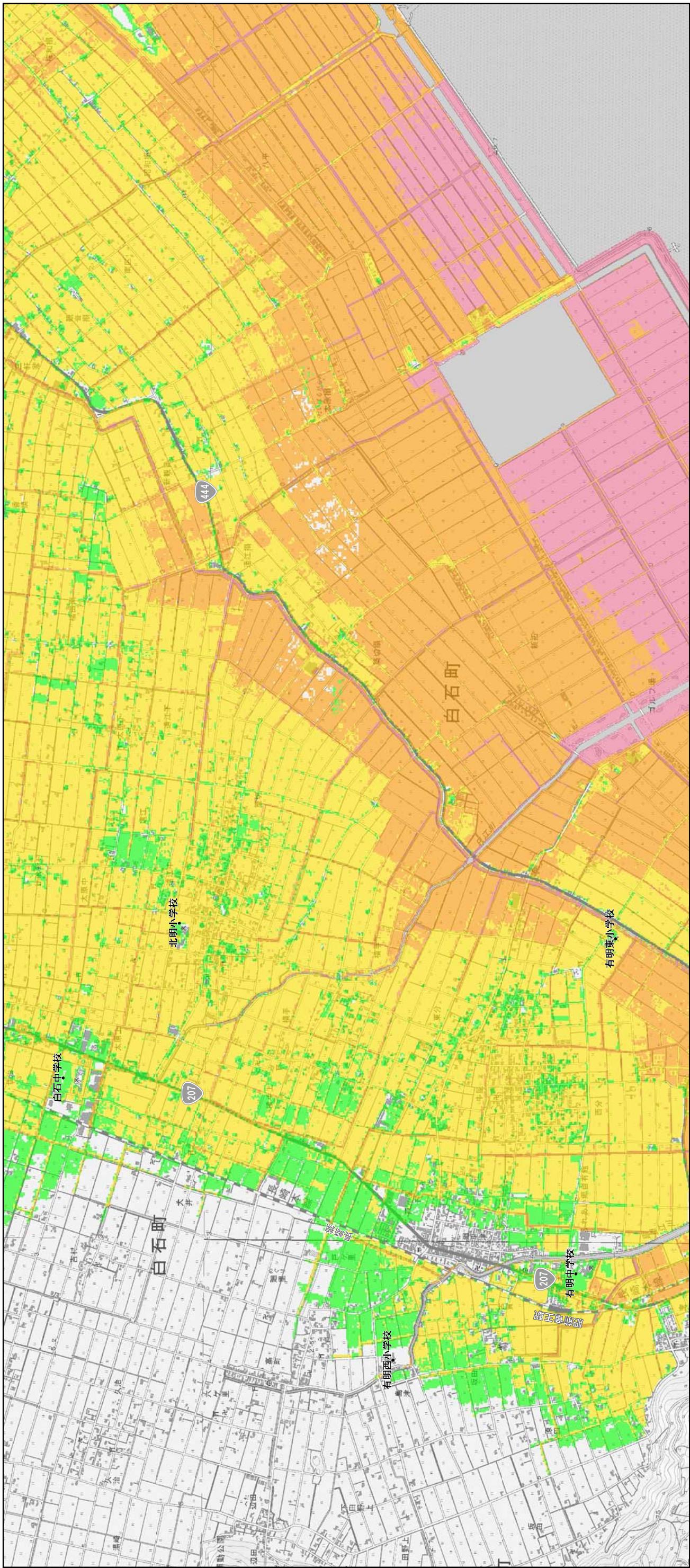
今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。

用語の解説

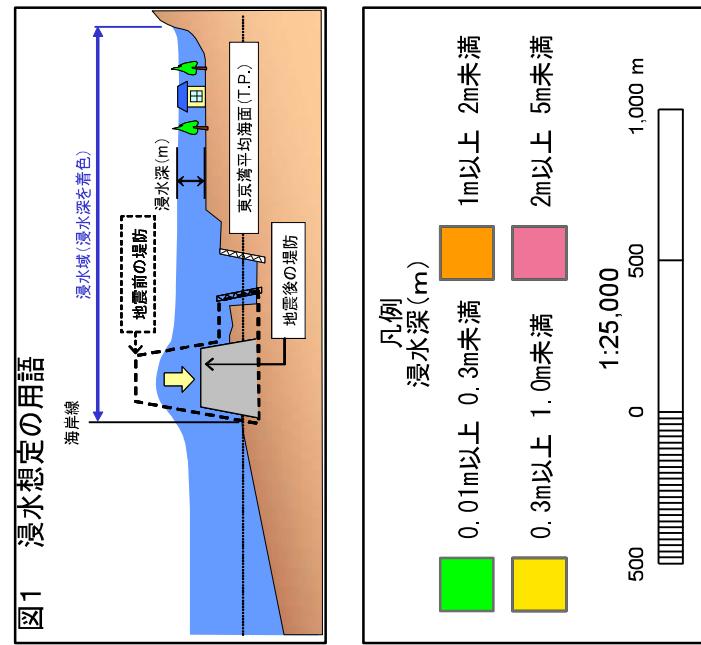
- 浸水想定について（図1参照）
 - 浸水区域：海岸線から陸域まで範囲
 - 浸水深：水面が最も高い位置にいたときの地面から水面までの高さ

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25,000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平27情検、第117号)

佐賀県津波浸水想定 市町村別 『白石町』(25/37)

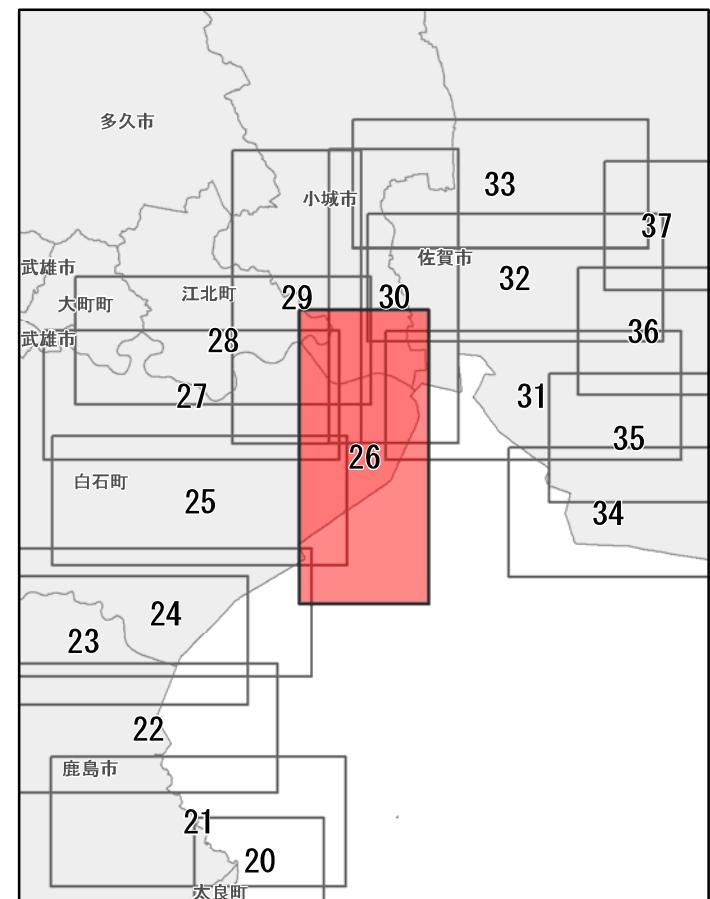
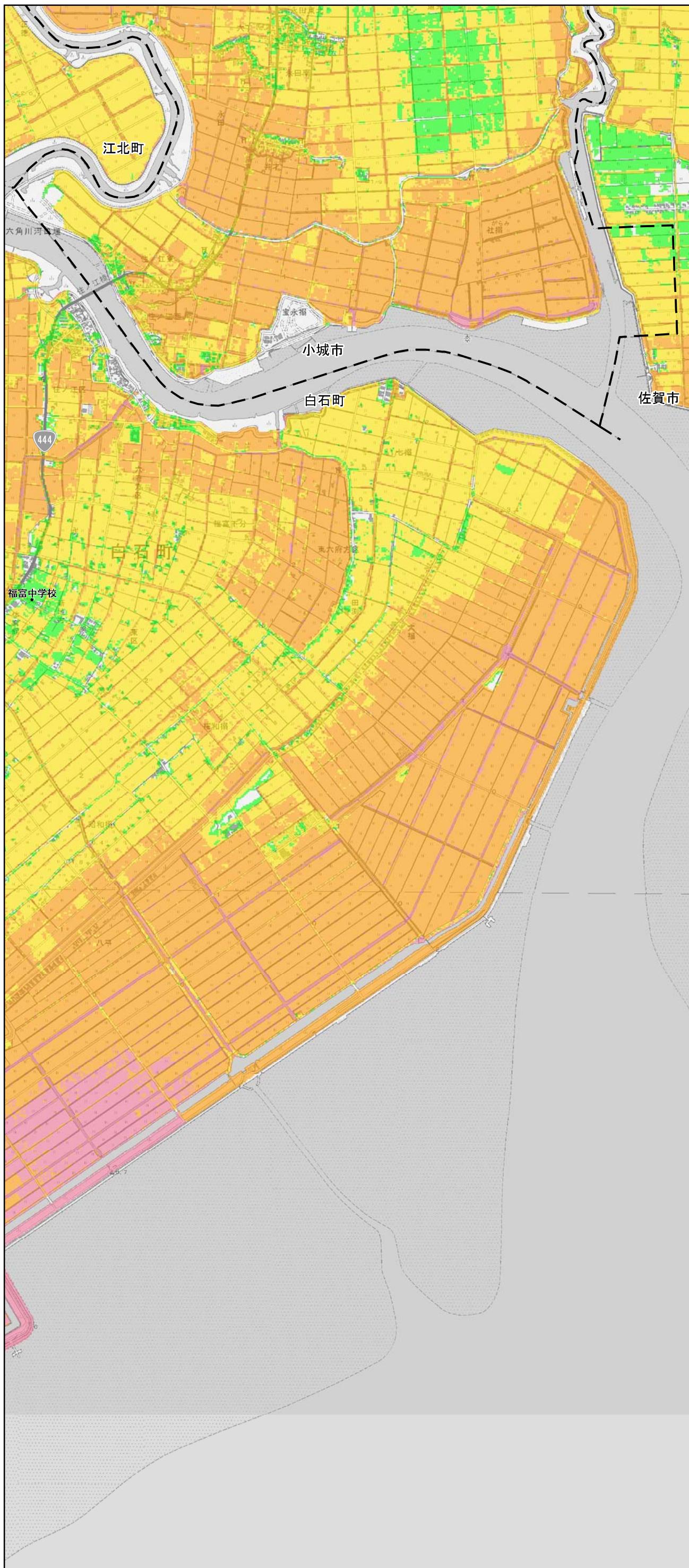


【留意事項】
 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに關する法律（平成23年法律第123号）第8条第1項に基づいて設定するもので、津波浸水想定は、最大クラスの津波が発生する場合に想定される津波や今後発生が予想される津波の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したもののです。
 ○津波浸水想定は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであります。これよりも大きくなつたりする津波が発生する可能性が大きいといふものではありません。
 ○津波浸水想定は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に關する計算条件などとの差異により、津波浸水深は、浸水域外でも津波が発生したり、浸水深がさらに大きくなつたりする場合があります。
 ○津波浸水想定の津波浸水深は、震源を中心とした津波対策を進めたためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決して表すものではありません。この「津波浸水想定」は、規模の大きな河川での津波週上・浸水を見込んだ津波ではなく、津波の第二波以降に最大となる河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の週上等により、実際には水位が変化することがあります。なほ、この「津波浸水想定」では、津波の週上等に津波が到達する前に浸水が始まることがあります。津波の水深は繰り返し表されています。
 ○津波浸水想定は、早めの避難行動を呼びかけてください。
 ○津波浸水想定は、想定される複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したものです。
 ○今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25,000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平27情検、第117号)

佐賀県津波浸水想定 市町村別 『 白石町 』 (26/37)



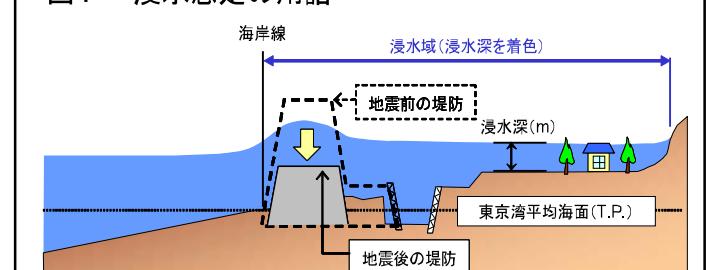
[留意事項]

- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律(平成23年法律第123号)第8条第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
- 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域(浸水域)と水深(浸水深)を表したもので。
- 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意ください。
- 津波は繰り返し襲ってきて、あとから来る津波の方が大きくなることがあるため、浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- 「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上等により、実際には水位が変化することがあります。なお、この「津波浸水想定」は、規模の大きな河川での津波遡上・浸水を見込んだ浸水域と浸水深となっています。
- 地盤の低いところでは、地震によって堤防が沈下・損壊することで、津波が到達する前に浸水が始まることがあります。津波の到達時間に係らず、早めの避難行動を心掛けください。
- この浸水想定図は、想定される複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したものです。
- 今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。

[用語の解説]

- 浸水想定について(図1参照)
- 浸水域: 海岸線から陸域に津波が遡上した外縁までの範囲
 - 浸水深: 陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ

図1 浸水想定の用語

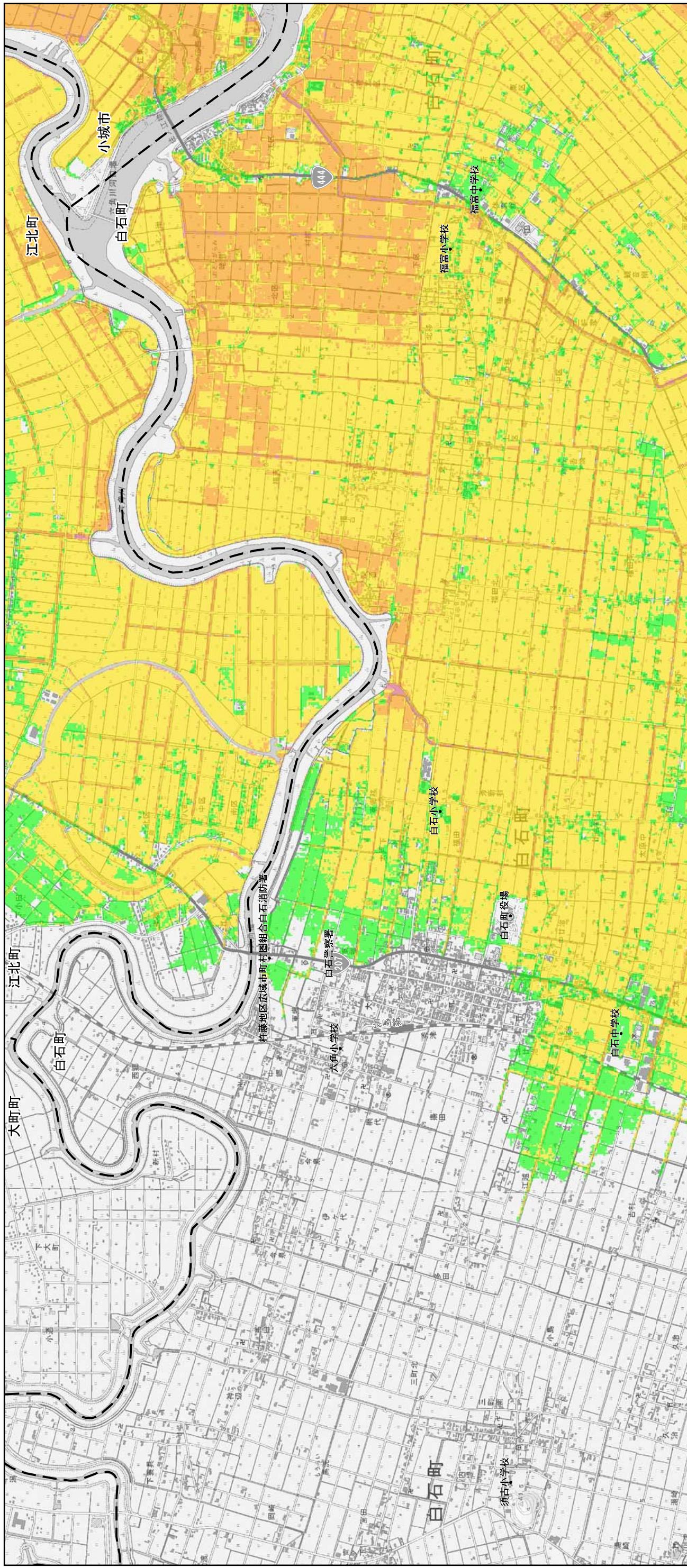


凡例 浸水深(m)

	0.01m以上 0.3m未満		1m以上 2m未満
	0.3m以上 1.0m未満		2m以上 5m未満

1:25,000
500 0 500 1,000 m

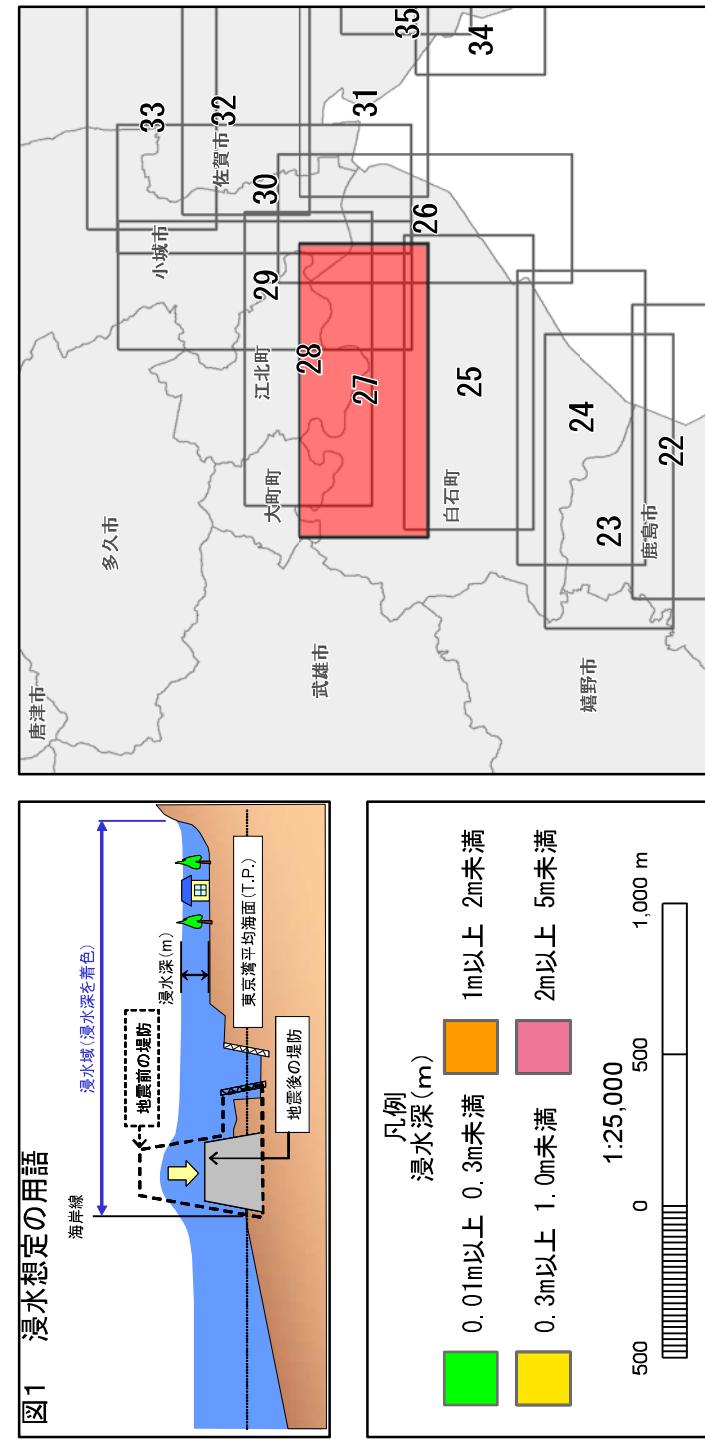
佐賀県津波浸水想定 市町村別 『白石町』 (27/37)



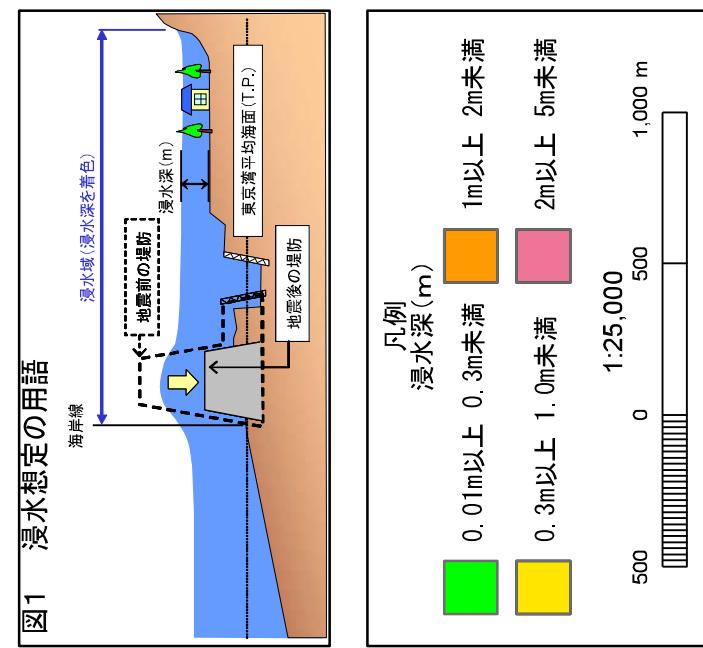
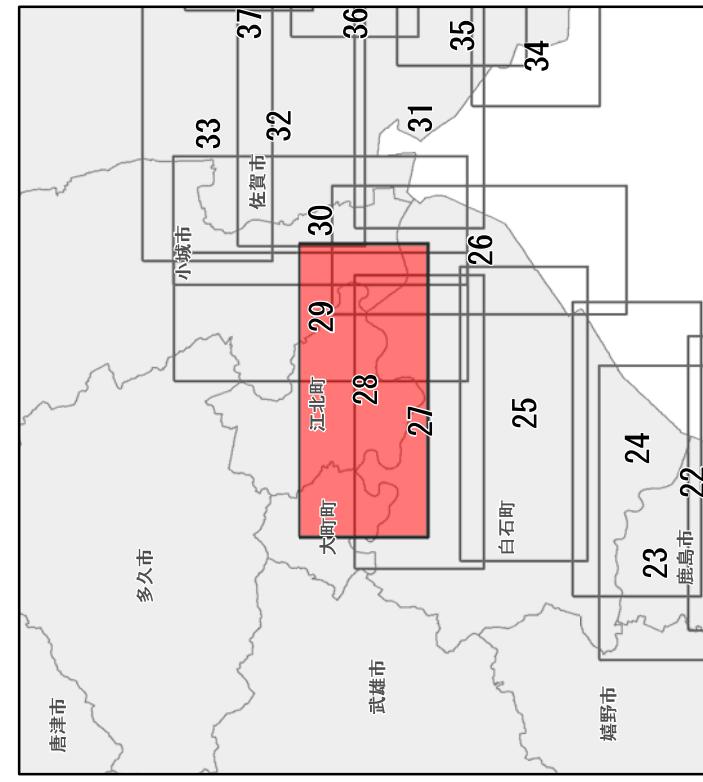
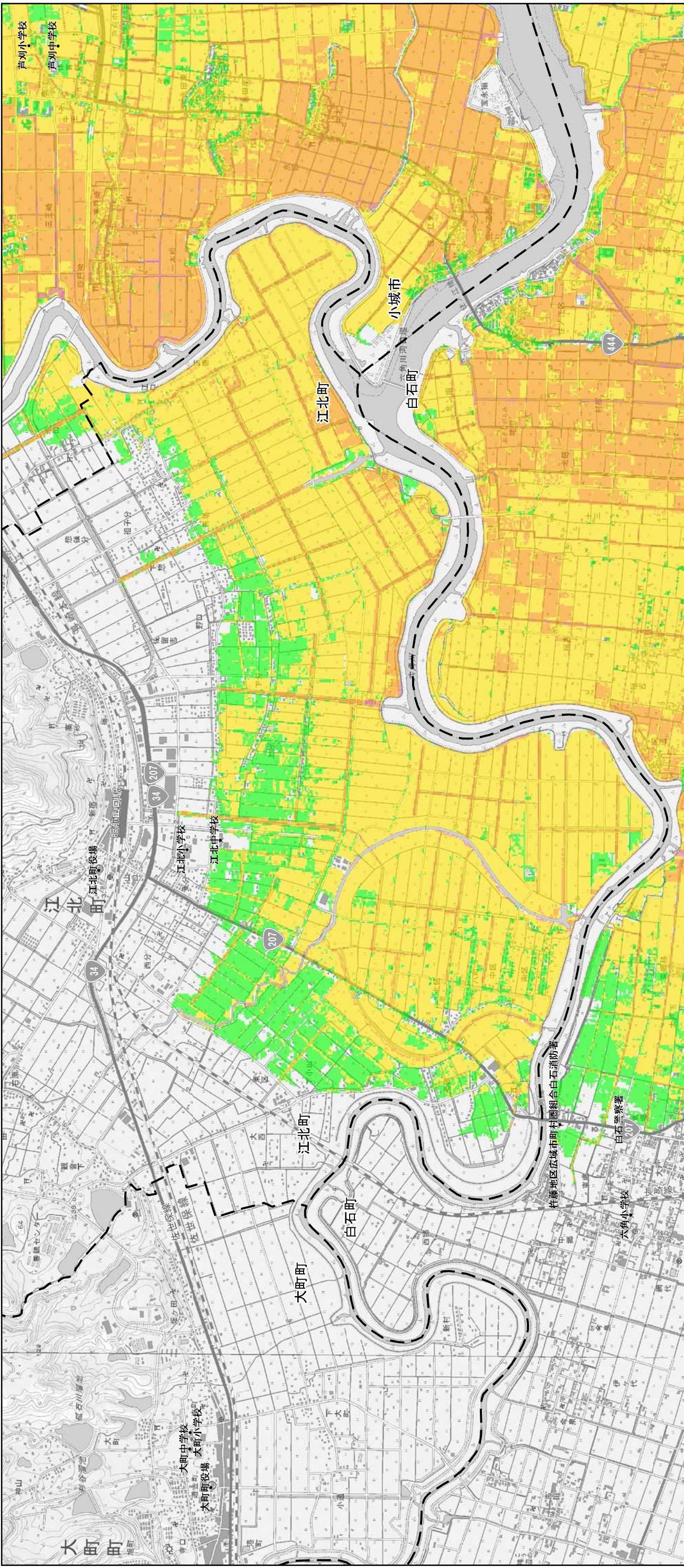
留意事項

- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに關する法律（平成23年法律第123号）第8条第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
- 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものであります。
- 津波の津波浸水想定は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであります。これよりも大きくなる津波が発生する可能性がないといふものではありません。
- 津波浸水想定は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に關する計算条件などの差異により、浸水深は、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 津波浸水想定の津波浸水深は、震源を中心とした津波対策を進めたためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決して表すものではありません。この「津波浸水想定」は、規模の大きな河川での津波週上・浸水を見込んだ浸水域ではなく、河川内や湖沼内の水位変化を図示していないませんが、津波の週上等により、実際には水位が降に最大となる場所もあります。
- 津波浸水想定では、海岸線における堤防を沈下・損壊することで、津波が到達する前に浸水が始まることがあります。津波の第二波は繰り返し襲ってくることがあります。なお、この「津波浸水想定」は、規模の大きな河川での津波週上・浸水を見込んだ浸水域と水深が違います。
- 津波浸水想定では、早めの避難行動を心掛けください。
- この津波浸水想定図は、想定された複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したもののです。
- 今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。

[用語の解説]
浸水想定について（図1参照）
○浸水域：海岸線から陸域まで範囲
○浸水深：水面が最も高い位置にいたときの地面から水面までの高さ



佐賀県津波浸水想定 市町村別 『江北町』 (28/37)

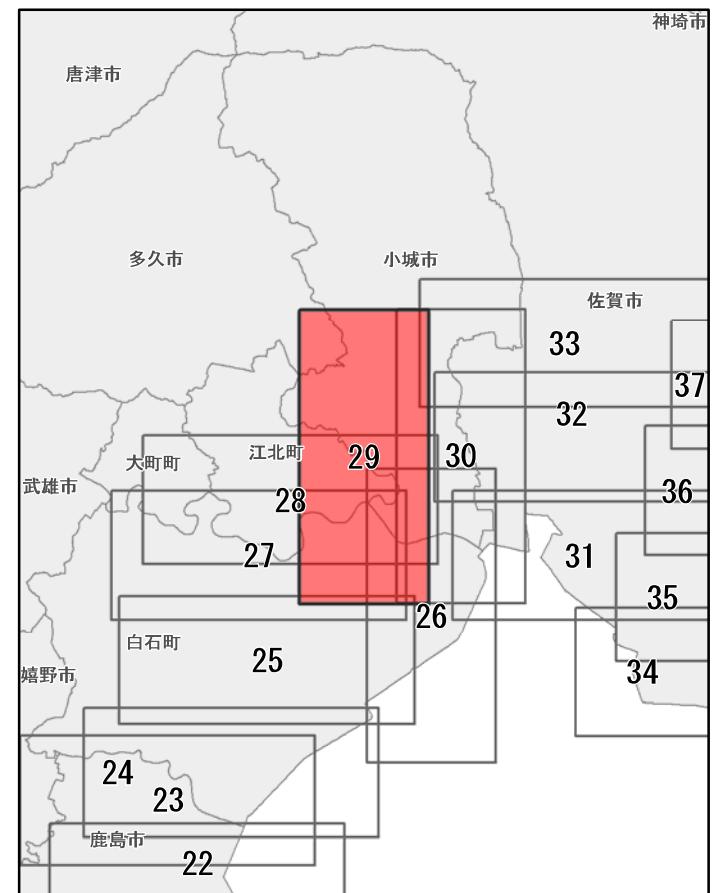
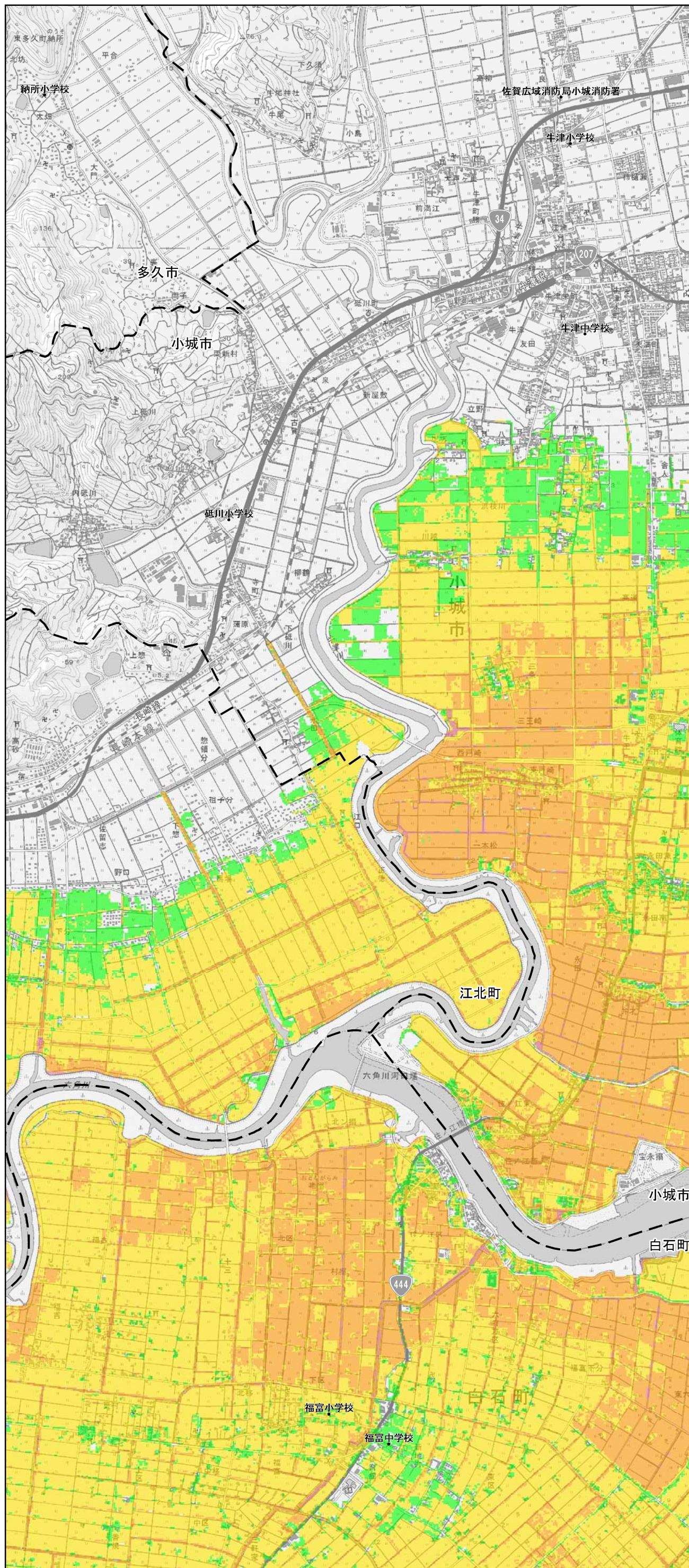


留意事項

- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに關する法律（平成23年法律第123号）第8条第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
- 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したもののです。
- 津波の津波浸水想定は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであり、これよりも大きくなったり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 津波浸水想定は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件などの差異により、浸水深は、浸水域外でも津波が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 津波浸水想定の津波浸水想定は、津波の規模の大きさを考慮して、避難を中心とした津波対策を進めます。津波による災害や被害の発生範囲を決めるものではありません。
- 津波は繰り返し襲ってくることがあります。地盤によって堤防が沈下・損壊することで、津波が到達する前に浸水が始まります。津波の第二波以降に最大となります。
- 津波浸水想定では、この「津波浸水想定」は、規模の大きな河川での津波の週上等により、実際に浸水を見込んだ浸水域と水深どなっています。
- 津波浸水想定時間に係らず、早めの避難行動を心掛けください。
- この津波浸水想定は、想定された複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したもののです。
- 今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。

用語の解説

- 浸水想定について（図1参照）
- 浸水域：海岸線から陸域までの大体の範囲
- 浸水深：陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ



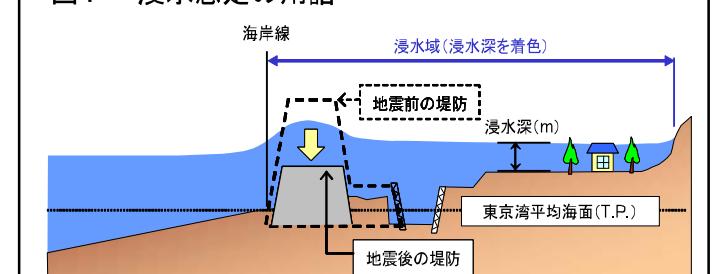
[留意事項]

- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律(平成23年法律第123号)第8条第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
- 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域(浸水域)と水深(浸水深)を表したものです。
- 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意ください。
- 津波は繰り返し襲ってきて、あとから来る津波の方が大きくなることがあるため、浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- 「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上等により、実際に水位が変化することがあります。なお、この「津波浸水想定」は、規模の大きな河川での津波遡上・浸水を見込んだ浸水域と浸水深となっています。
- 地盤の低いところでは、地震によって堤防が沈下・損壊することで、津波が到達する前に浸水が始まることがあります。津波の到達時間に係らず、早めの避難行動を心掛けてください。
- この浸水想定図は、想定される複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したものです。
- 今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。

[用語の解説]

- 浸水想定について(図1参照)
- 浸水域:海岸線から陸域に津波が遡上した外縁までの範囲
 - 浸水深:陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ

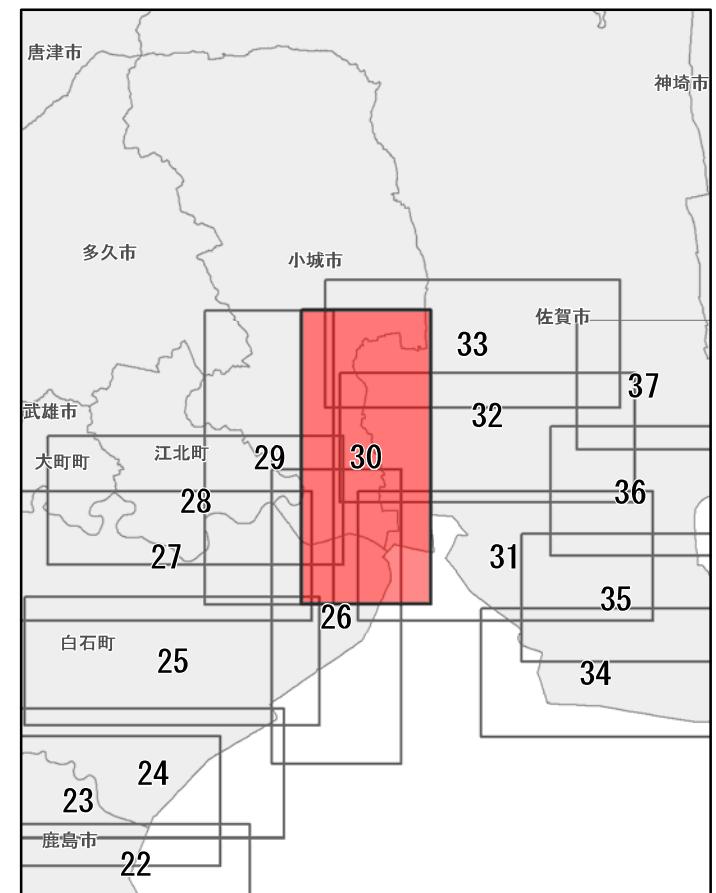
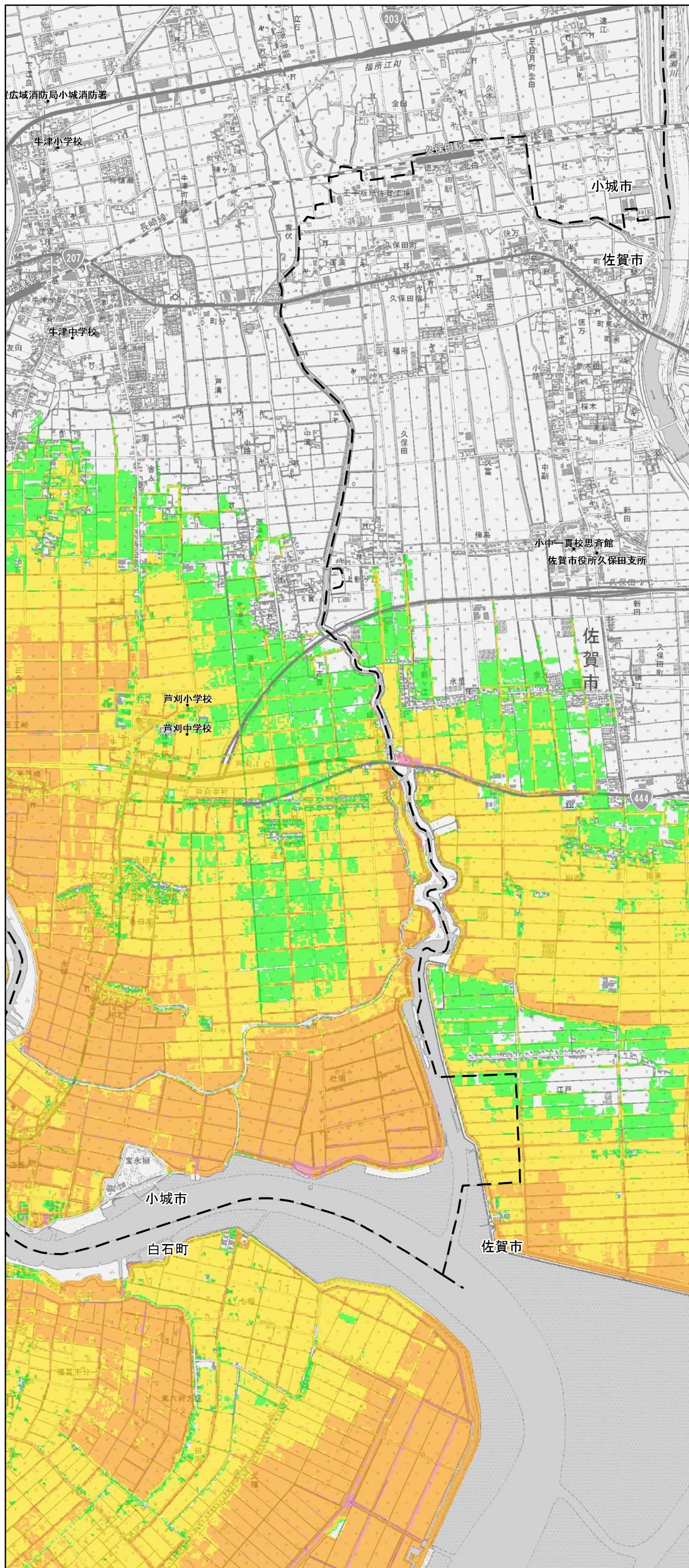
図1 浸水想定の用語

凡例
浸水深(m)

	0.01m以上 0.3m未満		1m以上 2m未満
	0.3m以上 1.0m未満		2m以上 5m未満

1:25,000
500 0 500 1,000 m

佐賀県津波浸水想定 市町村別『小城市』(30/37)



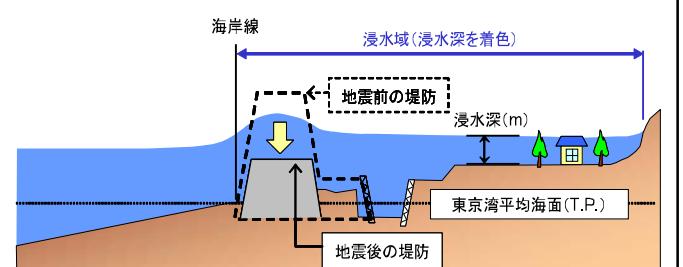
[留意事項]

- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律(平成23年法律第123号)第8条第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
- 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域(浸水域)と水深(浸水深)を表したものです。
- 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- 浸水域や浸水深は、局所的な地盤の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意ください。
- 津波は繰り返し襲ってきて、あとから来る津波の方が大きくなることがあるため、浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- 「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上等により、実際には水位が変化することがあります。なお、この「津波浸水想定」は、規模の大きな河川での津波遡上・浸水を見込んだ浸水域と浸水深となっています。
- 地盤の低いところでは、地震によって堤防が沈下・損壊することで、津波が到達する前に浸水が始まることがあります。津波の到達時間に係らず、早めの避難行動を心掛けください。
- この浸水想定図は、想定される複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したものです。
- 今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。

[用語の解説]

- 浸水想定について(図1参照)
- 浸水域:海岸線から陸域に津波が遡上した外縁までの範囲
 - 浸水深:陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ

図1 浸水想定の用語

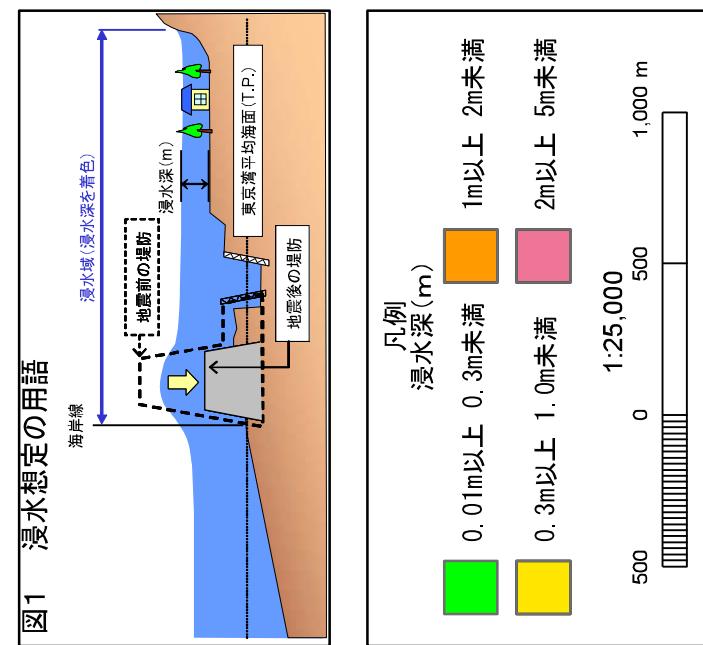
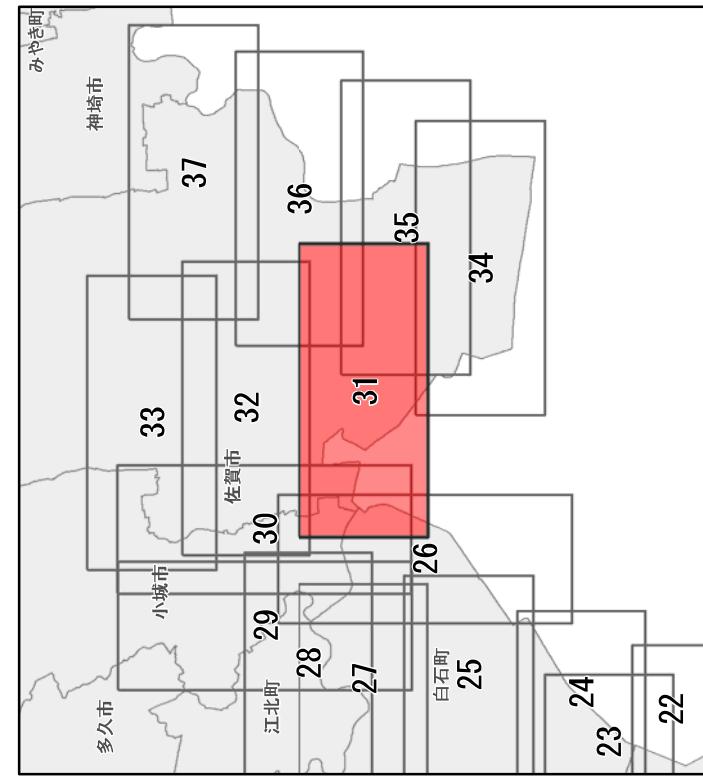
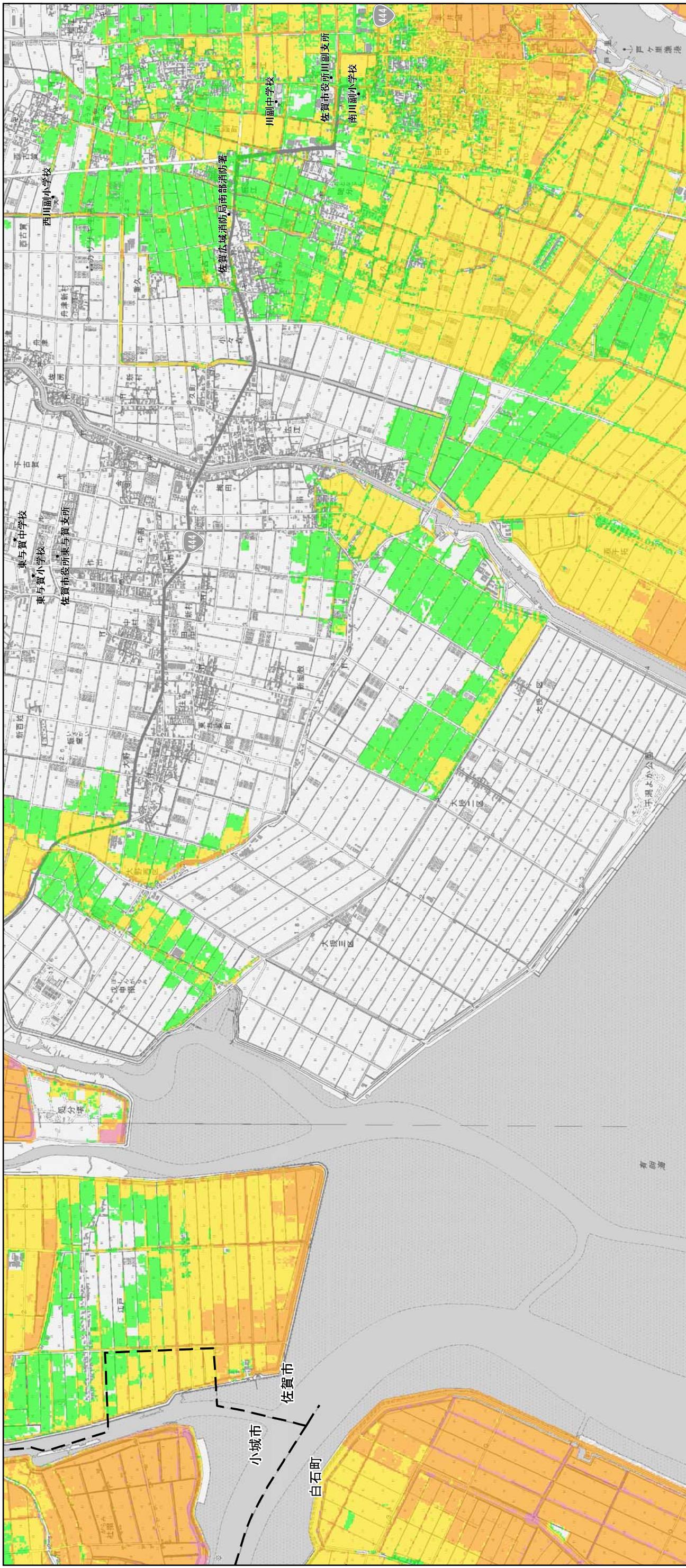


凡例 浸水深(m)

	0.01m以上 0.3m未満		1m以上 2m未満
	0.3m以上 1.0m未満		2m以上 5m未満

1:25,000
500 0 500 1,000 m

佐賀県津波浸水想定 市町村別 『 佐賀市 』 (31 / 37)



留意事項

「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律（平成23年法律第123号）第8条第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものであります。

津波浸水想定は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないといふものではありません。津波の影響のほか、地震による地盤変動や建物の凹凸による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件などとの差異により、浸水深は、局所的な地面の凹凸でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。

津波浸水想定の浸水深や浸水深は、避難を中心とした津波対策を進めたためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決めるものではないことにご注意ください。

津波は繰り返し襲ってくることがあり、津波の第一波ではなく、津波によって堤防が沈下・損壊することで、津波の週上等により、実際には水位が降に最大となる場所もあります。なほ、この「津波浸水想定」は、規模の大きい河川での津波週上・浸水を見込んだ浸水域と地盤の低いところでは、地震によって堤防が沈下・損壊するこことがあります。

津波浸水想定では、早めの避難行動を心掛けください。

この津波想定図は、想定される複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したもののです。

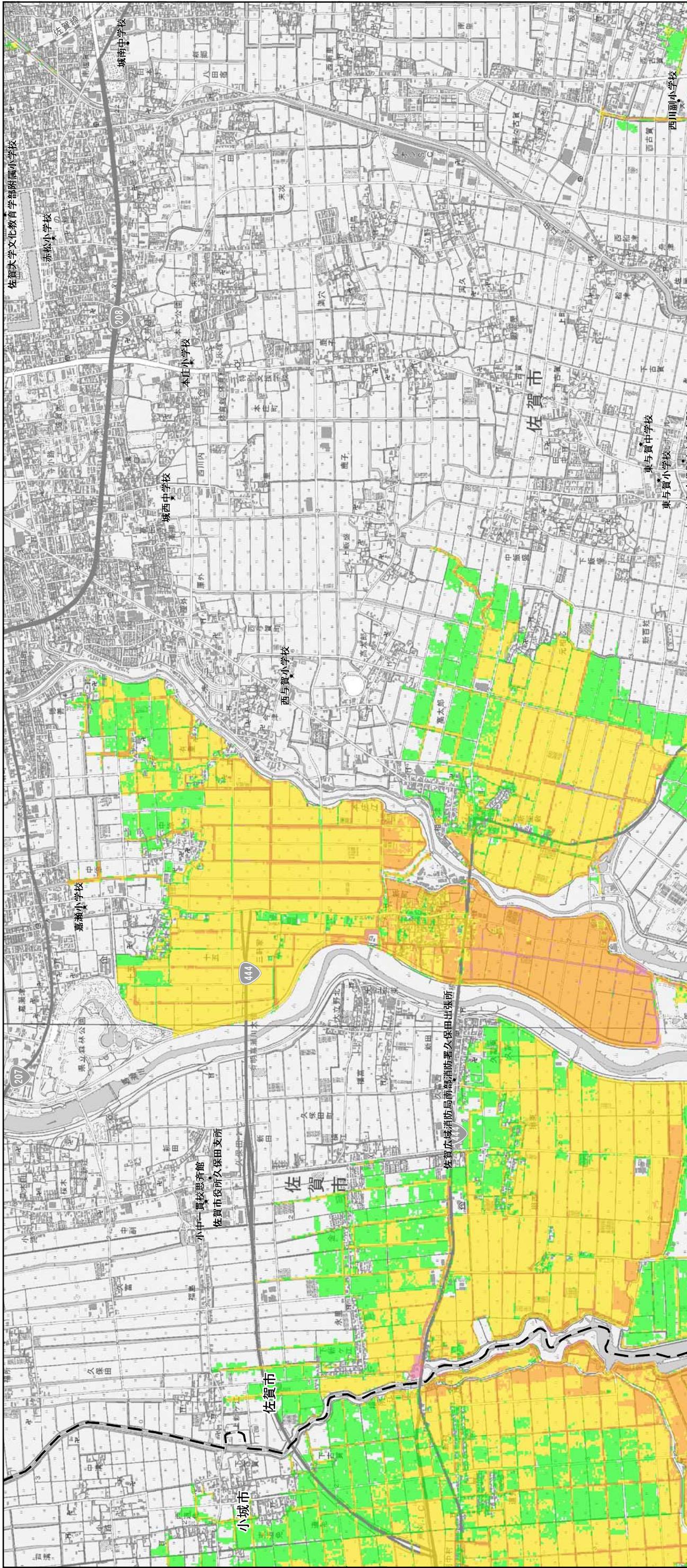
今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。

[用語の解説]

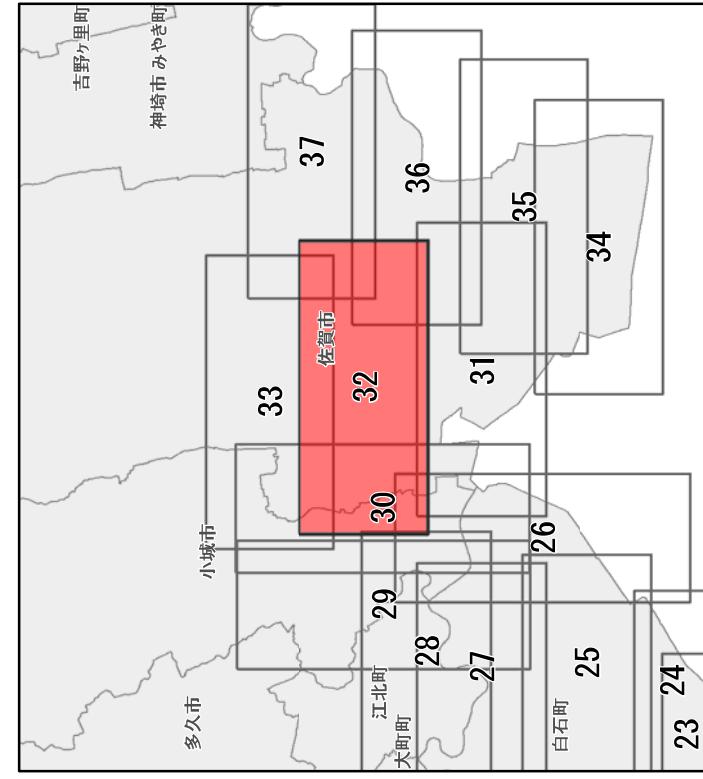
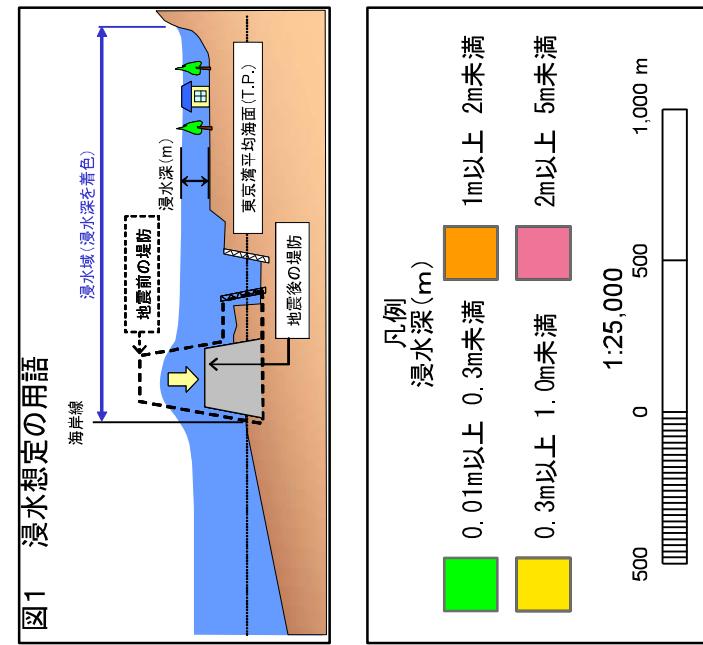
浸水想定について（図1参照）

- 浸水域：海岸線から陸域まで範囲
- 浸水深：陸上の各地点で水面が最も高い位置にいたときの地面から水面までの高さ

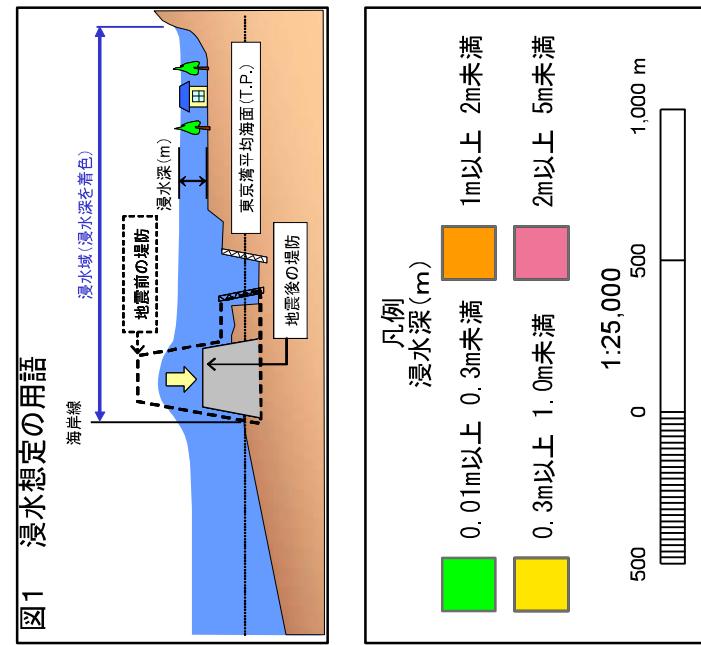
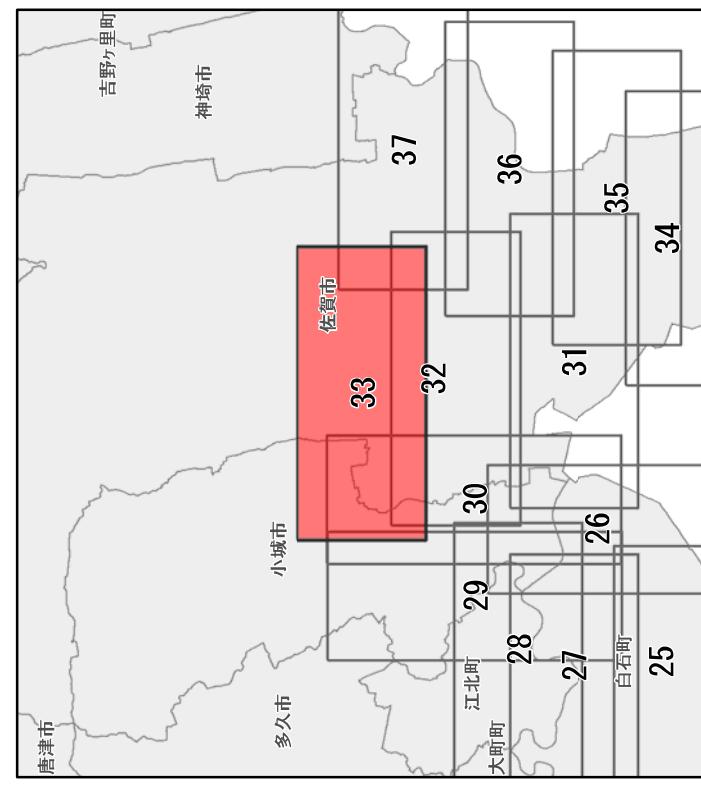
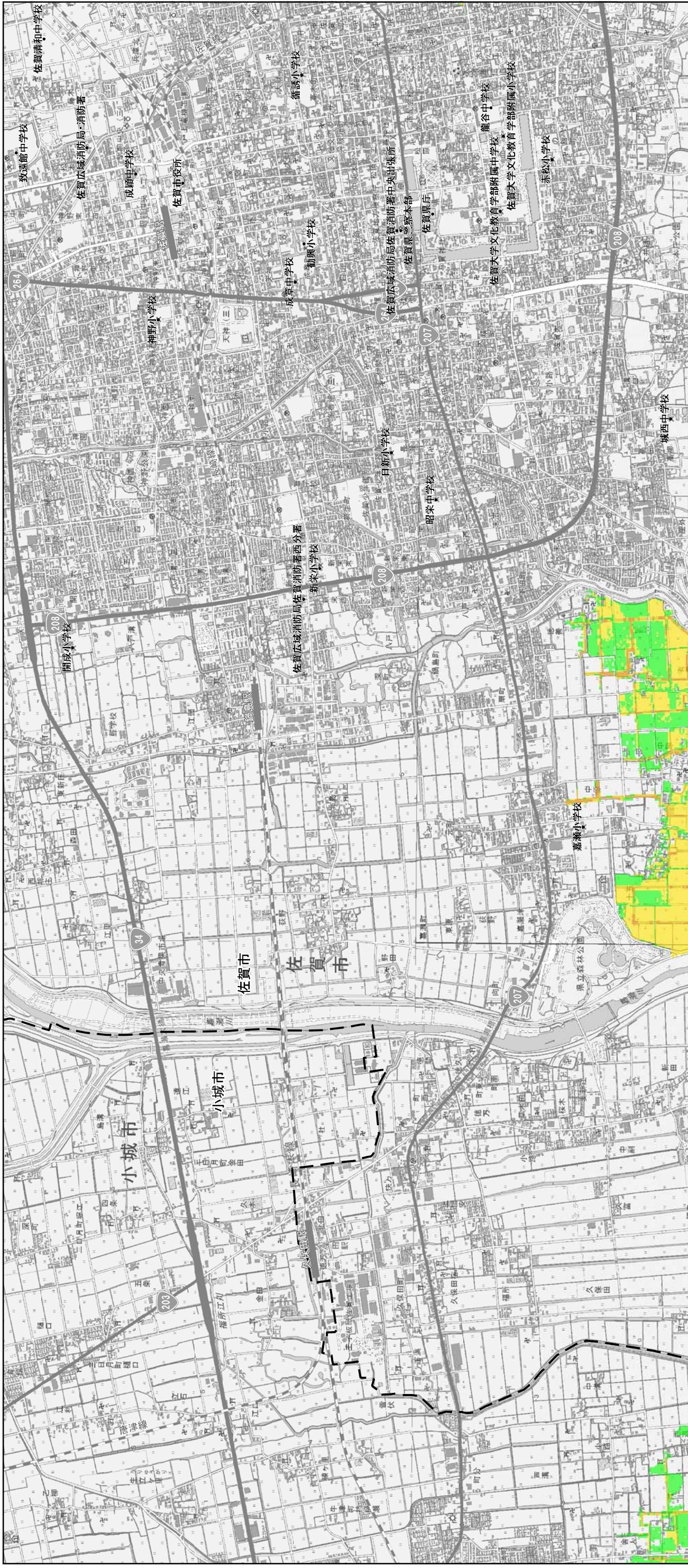
佐賀県津波浸水想定 市町村別『佐賀市』(32/37)



【留意事項】
 ○「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに關する法律（平成23年法律第123号）第8条第1項に基づいて設定するもので、津波が発生した場合に想定される津波の区域（浸水域）と水深（浸水深）を示すものです。
 ○津波浸水想定は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される津波や今後発生が予想される津波から設定了るものであり、これよりも大きくなる津波が発生する可能性がないといふものではありません。
 ○浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に關する計算条件などの差異により、浸水深よりも津波が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
 ○津波浸水想定の浸水深は、避難を中心とした津波対策を進めたためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決して示すものではありません。この「津波浸水想定」は、規模の大きな河川での津波遇上・浸水を見込んだ浸水域と津波の波以降に最大となる場所もあります。
 ○津波浸水想定では、河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の週上等により、実際には水位が変化することがあります。なほ、この「津波浸水想定」は、規模の大きな河川での津波遇上・浸水を見込んだことになります。
 ○地盤の低いところでは、津波が沈下・損壊することで、津波が到達する前に浸水が始まることがあります。津波の到達時間に係らず、早めの避難行動を乞うください。
 ○この浸水想定図は、想定された複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したもののです。
 ○今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。



佐賀県津波浸水想定 市町村別『佐賀市』(33/37)



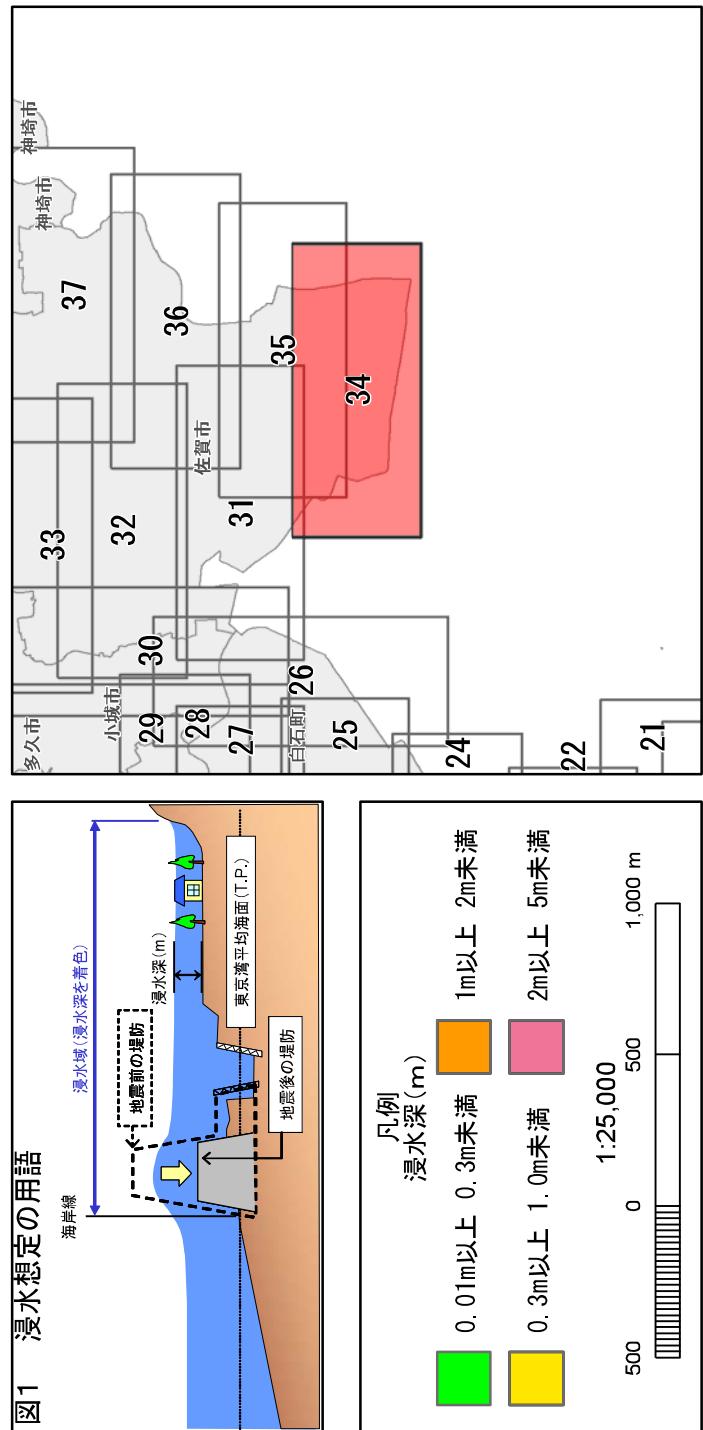
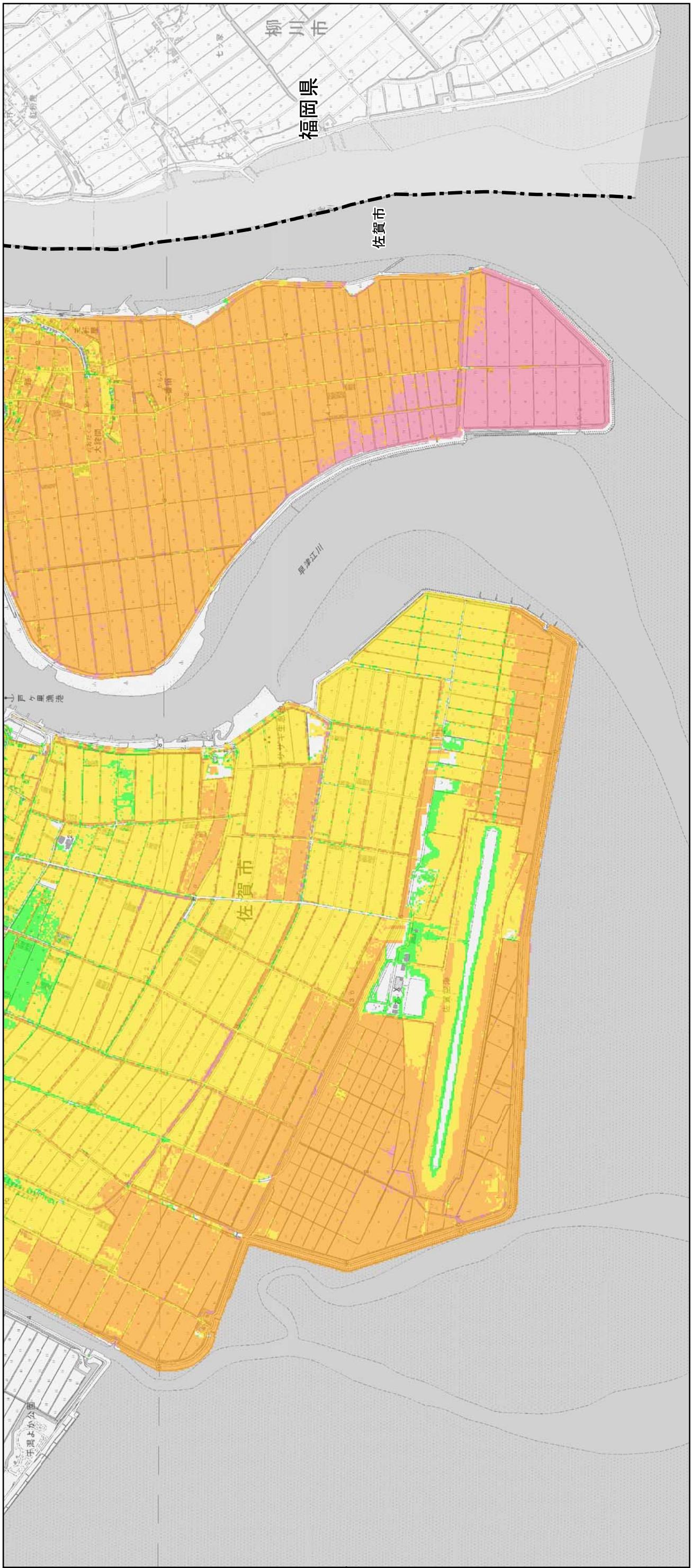
留意事項

- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに關する法律（平成23年法律第123号）第8条第1項に基づいて設定するもので、津波が発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を示すもの。
- 「津波防災地域づくり」を実施するための基礎となるものです。最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される津波や今後発生が予想される津波から設定したもので最大クラスの津波です。
- 現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波が発生する可能性が低いものではありません。これよりも大きくなる津波が発生する可能性がほか、地震による影響のほか、地盤変動や構造物の変状等に關する計算条件があり、これらでも大きな津波が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地盤変動や構造物の変状等に關する計算条件により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深が発生したり、浸水深は、避難を中心とした津波対策を進めたためのものであり、津波による災害や被害の差異はありません。この「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、津波第二波以降に最大となることがあります。
- 津波が河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の週上等により、実際には水位が変化するところでは、堤防を決壊するなどして堤防が沈下・損壊することで、津波が到達する前に浸水が始まります。津波の到達時間に係らず、早めの避難行動を乞うください。
- この「津波浸水想定」は、想定される複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したもののです。
- 今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。

[用語の解説]

- 「浸水想定について」(図1参照)
- 浸水想定：海岸線から陸域までの大さな範囲
- 浸水深：水面が最も高い位置にいたときの地面から水面までの高さ

佐賀県津波浸水想定 市町村別『佐賀市』(34/37)



留意事項

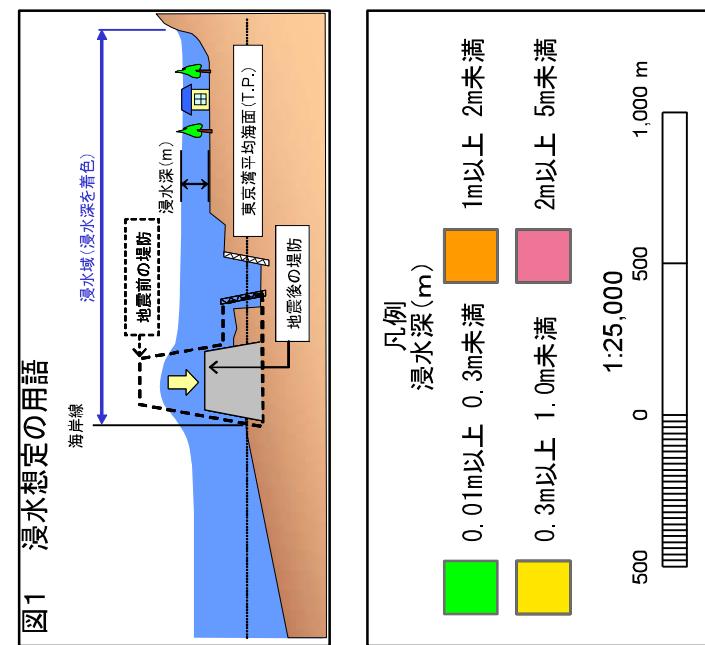
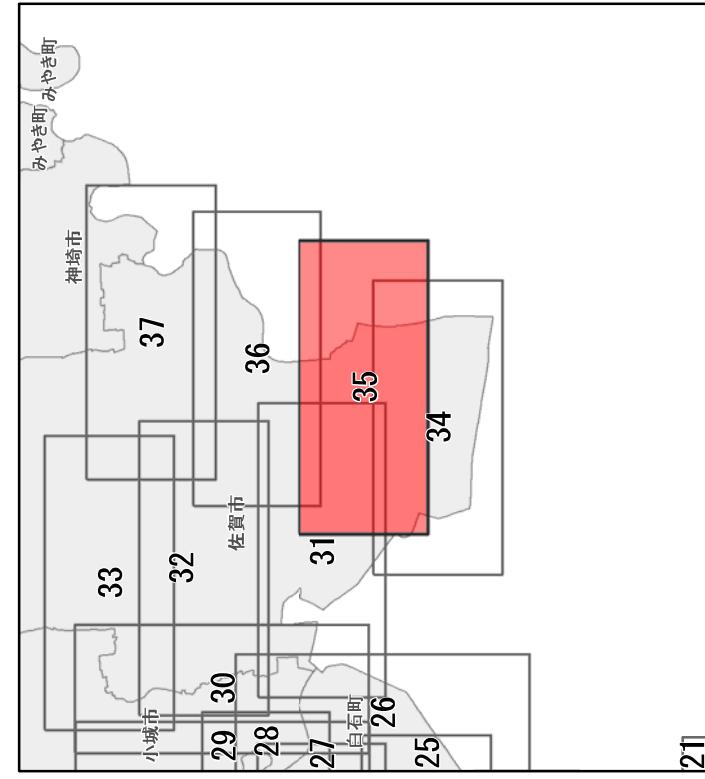
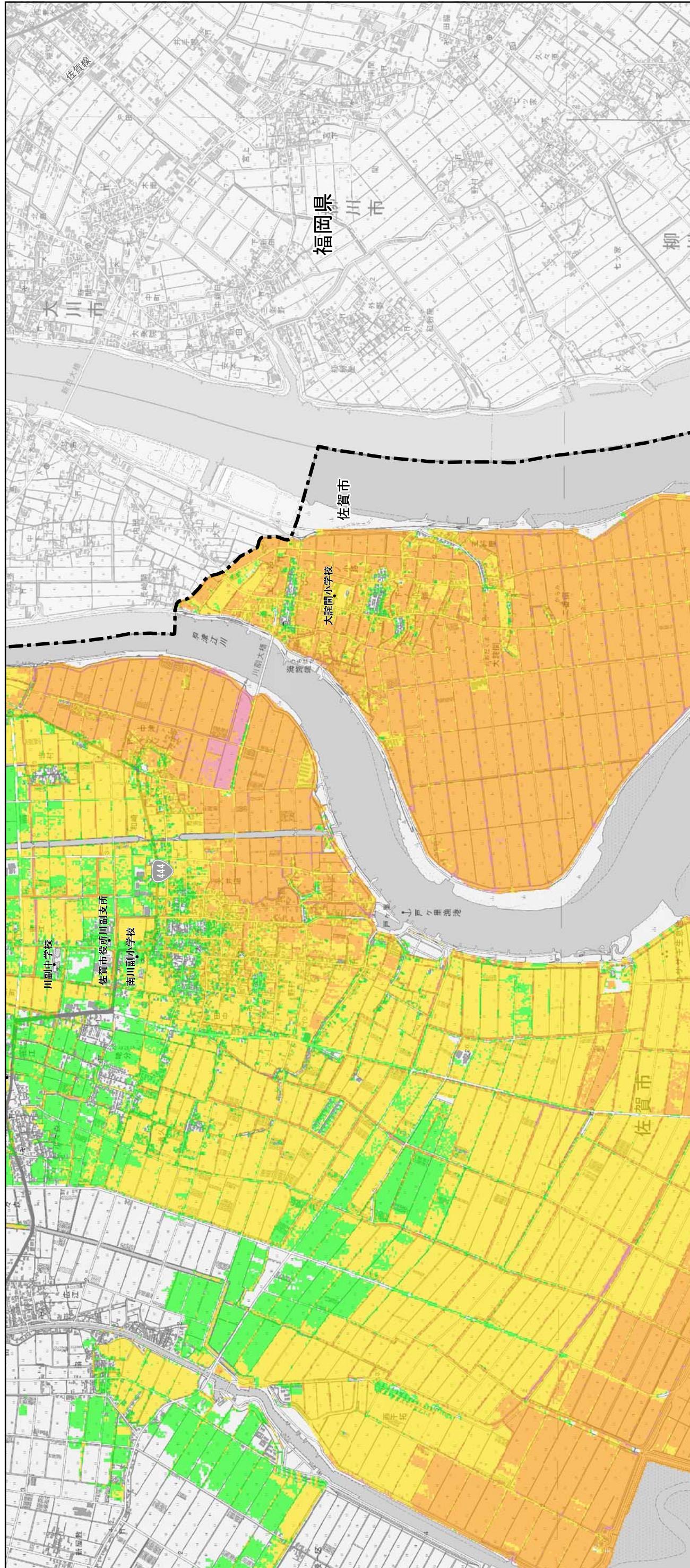
- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
- 「津波防災地域づくり」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したもののです。
- 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであります。これよりも大きな津波が発生する可能性がないといふものではありません。
- 津波浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に關する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 津波浸水深は、浸水域や浸水深によって、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決して表すものではありません。
- 津波浸水想定は、河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の週上等により、実際には水位が津波以降に最大となる場所もあります。
- 津波浸水想定では、津波の週上等により、実際には水位を見込んだ浸水域と津波の週上等に津波が到達する前に浸水が始まることがあります。
- 津波の第二波は繰り返し襲つてきます。なほ、この「津波浸水想定」は、規模の大きい河川での津波週上・浸水を見込んだところでは、堤防が沈下・損壊することで、津波が到達する前に津波が始まることになります。
- 津波の低いところでは、地震によって堤防が沈下・損壊することで、津波が到達する前に津波が始まっています。
- 津波浸水想定では、早めの避難行動を心掛けください。
- この津波浸水想定は、想定される複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したもののです。
- 今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。

[用語の解説] (図1参照)

- 浸水想定：海岸線から陸域まで範囲に津波による水面が最も高い位置にいたときの地面から水面までの高さ
- 浸水想定：海岸線から陸域まで範囲に津波による水面が最も高い位置にいたときの地面から水面までの高さ
- 浸水深：陸上の各地点で水面が最も高い位置にいたときの地面から水面までの高さ

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25,000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平27情検、第117号)

佐賀県津波浸水想定 市町村別『佐賀市』(35/37)



留意事項

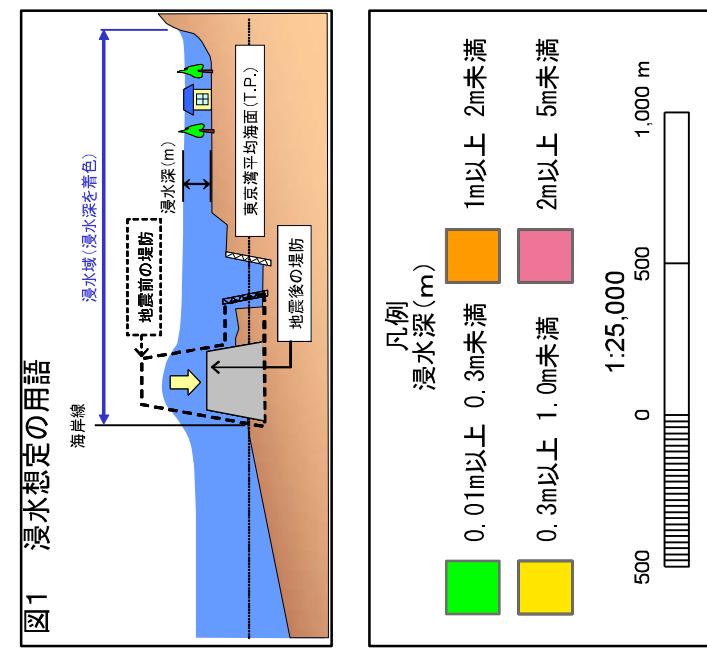
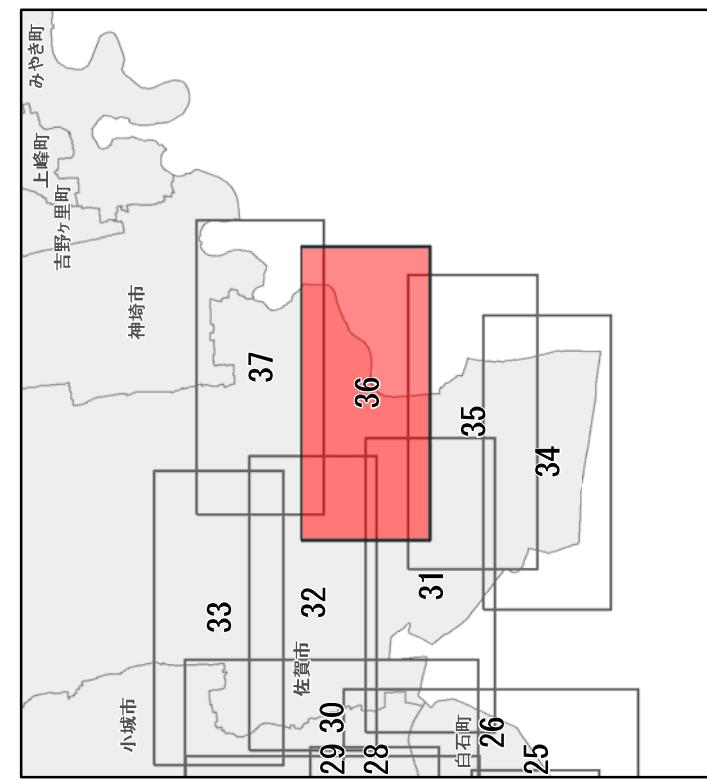
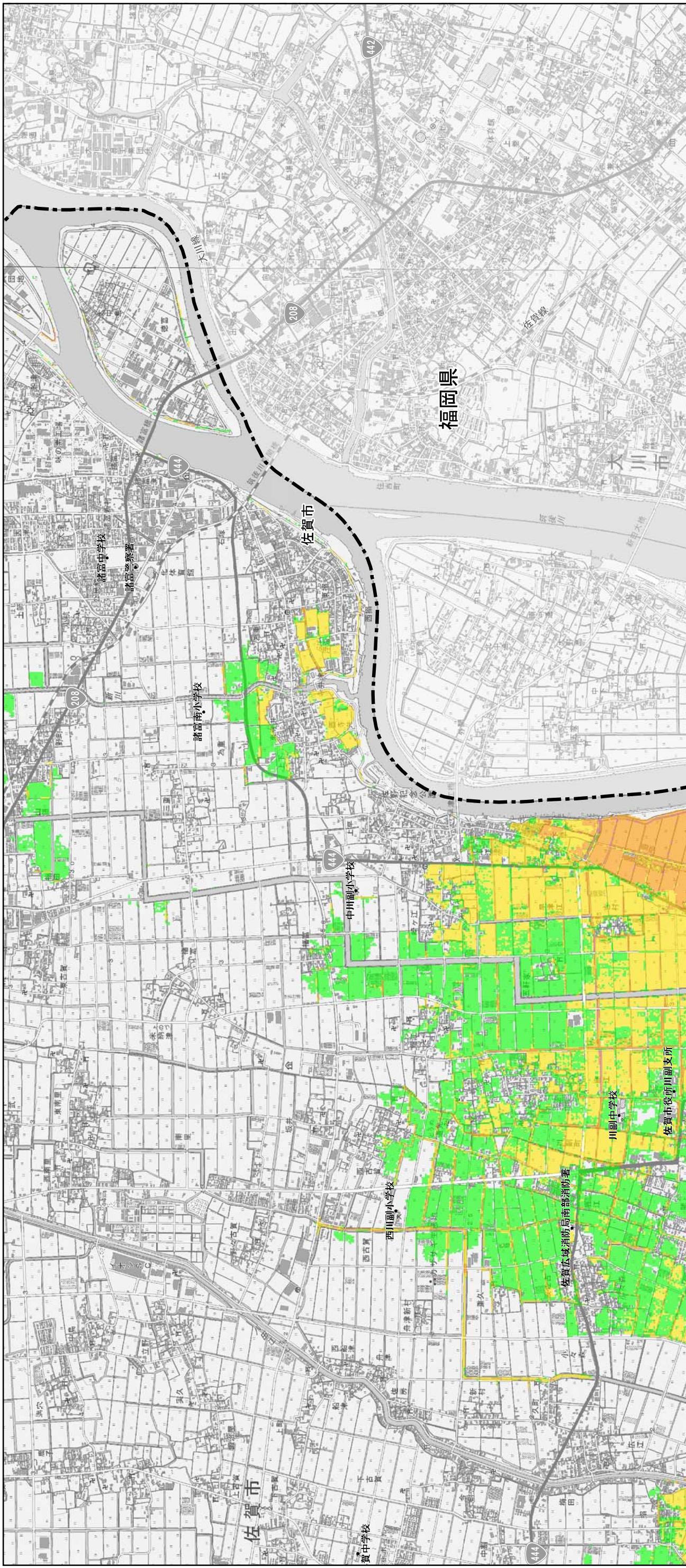
- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに關する法律（平成23年法律第123号）第8条第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
- 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が発生する場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものであります。
- 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであります。これよりも大きくなる津波が発生する可能性が低いといふものではありません。
- 津波浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に關する計算条件などの差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 津波浸水想定の浸水深は、津波によって最も大きなものであり、津波による災害や被害の避難を中心とした津波対策を進めることであります。この「津波浸水想定」は、規模の大きい河川での津波週上・浸水を見込んだ浸水域ではなく、河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の週上等により、実際には水位が降り返し襲ってくることがあります。
- 津波の第一波ではなく、地盤によって堤防が沈下・損壊することで、津波が到達する前に浸水が始まることがあります。津波の第二波以降に最大となる場所もあります。
- この「津波浸水想定」では、規模の津波による最大の浸水域、浸水深を表したものです。
- 津波浸水範囲を決定するところでは、早めの避難行動を乞うています。
- 津波浸水想定時間は、想定される複数の津波による最大の浸水域、浸水深を修正する可能性があります。
- 地盤時間に係らず、到達時間に最も早いところでは、津波による最大の浸水域、浸水深を表します。
- この浸水想定図は、想定された複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表すものです。
- 今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。

[用語の解説]

- 浸水想定について（図1参照）
- 浸水想定：海岸線から陸域まで外縁までの範囲
- 浸水深：水面が最も高い位置にいたときの地面から水面までの高さ

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25,000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平27情検、第117号)

佐賀県津波浸水想定 市町村別『佐賀市』(36/37)



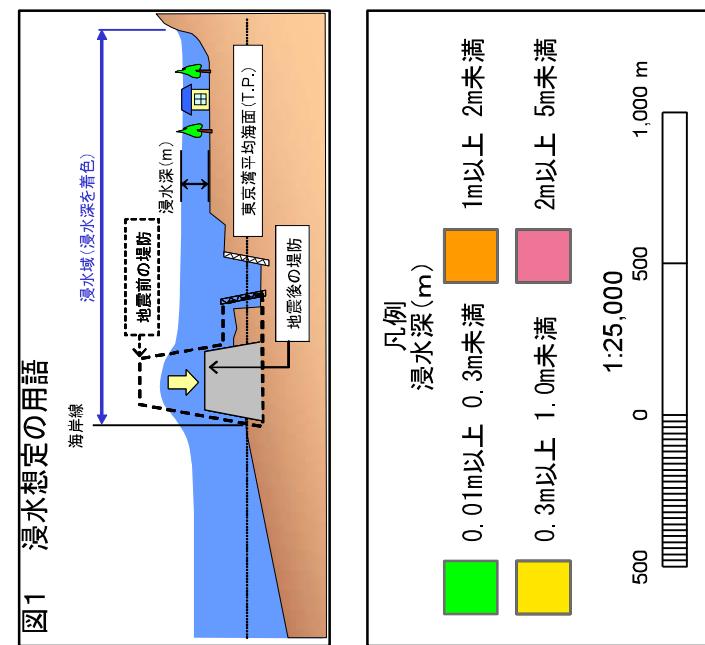
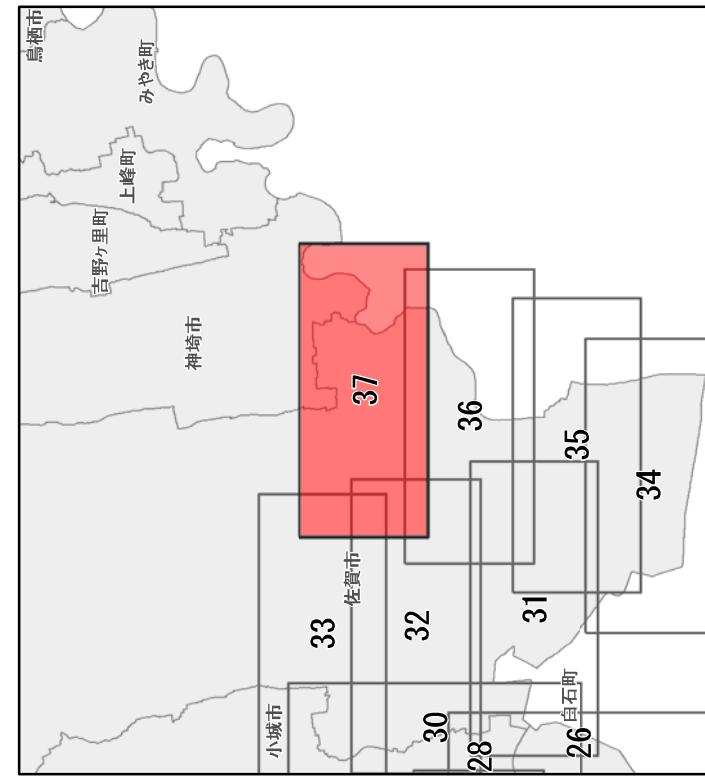
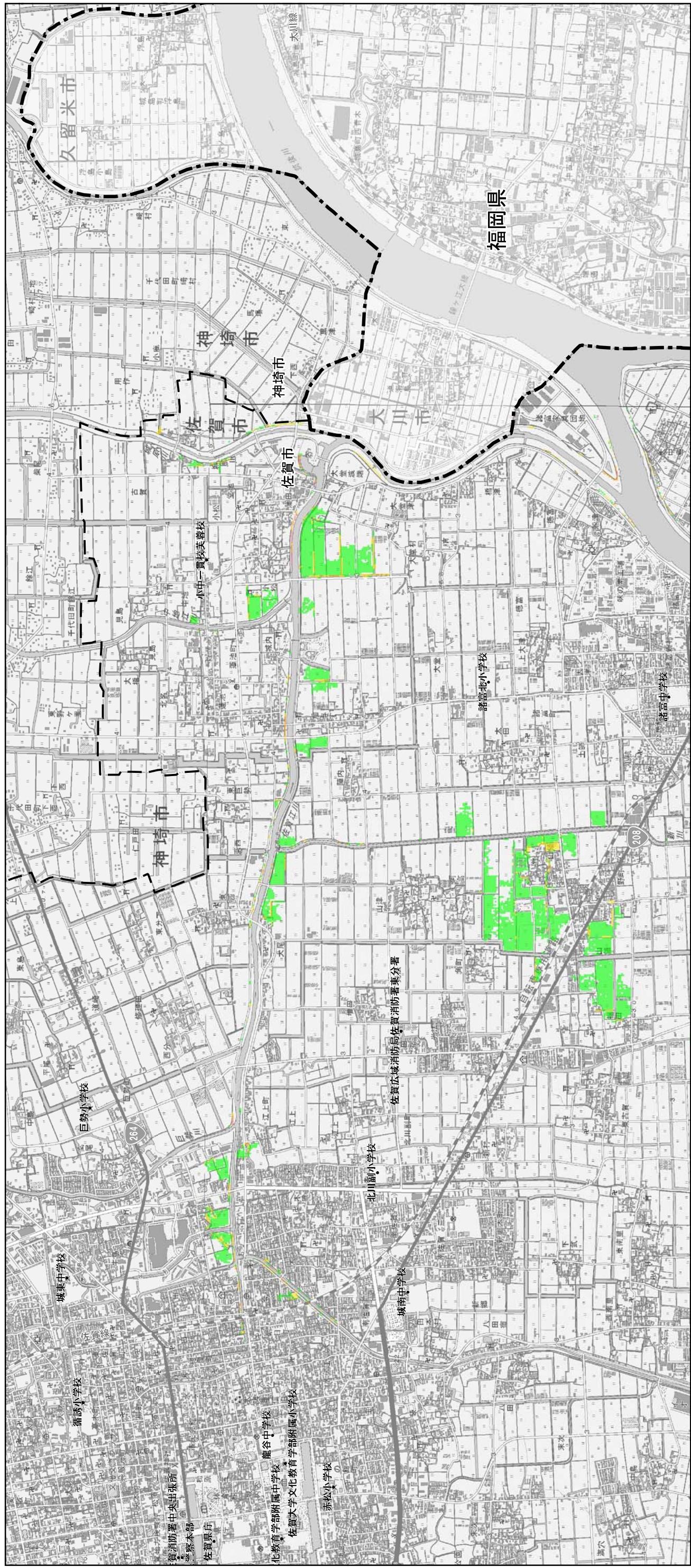
留意事項

- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに關する法律（平成23年法律第123号）第8条第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
- 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したもののです。
- 津波の建物は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないといふものではありません。津波の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件などとの差異により、津波外でも津波が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 津波浸水想定の浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等によるものであります。津波による災害や被害の発生範囲を決めるために、避難を中心とした津波防災対策を進めることであります。
- 津波浸水想定は、津波の第一波ではなく、津波によって堤防が沈下・損壊することで、津波が到達する前に津波が始まることがあります。津波の第二波以降に最大となる河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の週上等により、実際には水位が変化することがあります。
- この「津波浸水想定」は、規模の大きな河川での津波週上・浸水を見込んだ浸水域と浸水深を示すものです。なお、この「津波浸水想定」は、複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したもののです。
- 津波浸水想定は、地盤の低いところでは、津波浸水想定によって堤防を決してしまいます。
- 津波浸水想定は、想定される複数の津波による最大の浸水域、浸水深を修正する可能性があります。
- 津波浸水想定は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25,000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平27情検、第117号)

用語の解説

- 「浸水想定について」(図1参照)
- 浸水域：海岸線から陸域まで範囲にきたときの地面から水面までの高さ
- 浸水深：陸上の各地点で水面が最も高い位置にいたときの地面から水面までの高さ

佐賀県津波浸水想定 市町村別『佐賀市』(37/37)



【留意事項】
 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに關する法律（平成23年法律第123号）第8条第1項に基づいて設定するもので、津波が発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表すものである。
 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が発生する可能性が低いものではありません。
 現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性が低いものではありません。
 津波の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件などとの差異により、浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響によって大きくなります。
 津波浸水想定の浸水深は、浸水域外でも津波が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
 「津波浸水想定」の浸水深は、避難を中心とした津波対策を進めたためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決めるものではないことにご注意ください。
 津波は繰り返し襲ってくるため、津波の第一波ではなく、津波の第一波が大きな河川の第一波が大きな津波の方が多いのです。
 地震によって堤防が沈下・損壊することで、津波が到達する前に浸水が始まることがあります。津波の到達時間に係らず、早めの避難行動を心掛けください。
 この「津波浸水想定」は、規模の大きな河川での津波週上等により、実際には水位が変化します。
 波以降に最大となる場所もあります。
 なほ、この「津波浸水想定」は、規模の大きな河川での津波週上・浸水を見込んだ浸水域と水深どなっています。
 「津波浸水想定」では、津波による最大の浸水域、浸水深を表します。
 地盤の低いところでは、津波浸水想定が変化します。
 この浸水想定図は、想定された複数の津波による最大の浸水域、浸水深を修正する可能性があります。
 今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を複製したものである。(承認番号 平27情検、第117号)

【用語の解説】
 「浸水想定について」(図1参照)
 ○浸水想定：海岸線から陸域まで外縁までの範囲
 ○浸水区域：水面が最も高い位置にいたときの地面から水面までの高さ
 ○浸水深：陸上の各地点で水面が最も高い位置にいたときの水面までの高さ

参考資料

津波浸水想定について（解説）

津波浸水想定について

(解説)

1 津波対策の考え方

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災による甚大な津波被害を受け、内閣府中央防災会議専門調査会では、新たな津波対策の考え方を平成 23 年 9 月 28 日（東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査委員会報告）に示しました。

この中で、今後の津波対策を構築するにあたっては、基本的に二つのレベルの津波を想定する必要があるとされています。

一つは、住民避難を柱とした総合的防災対策を構築する上で想定する「最大クラスの津波」（L 2 津波）です。

もう一つは、海岸堤防などの構造物によって津波の内陸への侵入を防ぐ海岸保全施設等の整備を行う上で想定する「比較的発生頻度の高い津波」（L 1 津波）です。

今回、「最大クラスの津波」に対して総合的防災対策を構築する際の基礎となる津波浸水想定を作成しました。

今後の対策を構築するにあたっては、基本的に二つのレベルの津波を想定する必要がある。

最大クラスの津波（L 2 津波）

■津波レベル

発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす津波。

■基本的考え方

- 住民等の命を守ることを最優先として、どのような災害であっても行政機能、病院等の最低限必要十分な社会経済機能を維持することが必要である。
- このため、住民等の避難を軸に土地利用、避難施設、防災施設などを組み合わせて、とりうる手段を尽くした総合的な津波対策の確立が必要である。

比較的発生頻度の高い津波（L 1 津波）

■津波レベル

最大クラスの津波に比べて発生頻度は高く、津波高は低いものの大きな被害をもたらす津波（数十年から百数十年に一度程度の頻度）。

■基本的考え方

- 人命保護に加え、住民財産の保護、地域の経済活動の安定化、効率的な生産拠点の確保の観点から、引き続き、海岸保全施設等の整備を進めていくことが求められる。

図－1 津波対策を講じるために想定すべき津波レベルと対策の基本的な考え方

2 留意事項

- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律（平成23年法律第123号）第8条第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
- 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものです。
- 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意ください。
- 津波は繰り返し襲ってきて、あとから来る津波の方が大きくなることがあるため、浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- 「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上等により、実際には水位が変化することがあります。なお、この「津波浸水想定」は、規模の大きな河川での津波遡上・浸水を見込んだ浸水域と浸水深となっています。
- 地盤の低いところでは、地震によって堤防が沈下・損壊することで、津波が到達する前に浸水が始まることがあります。津波の到達時間に係らず、早めの避難行動を心掛けてください。
- この浸水想定図は、想定される複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したものです。
- 今後、最新の知見や精査等により、「津波浸水想定」を修正する可能性があります。

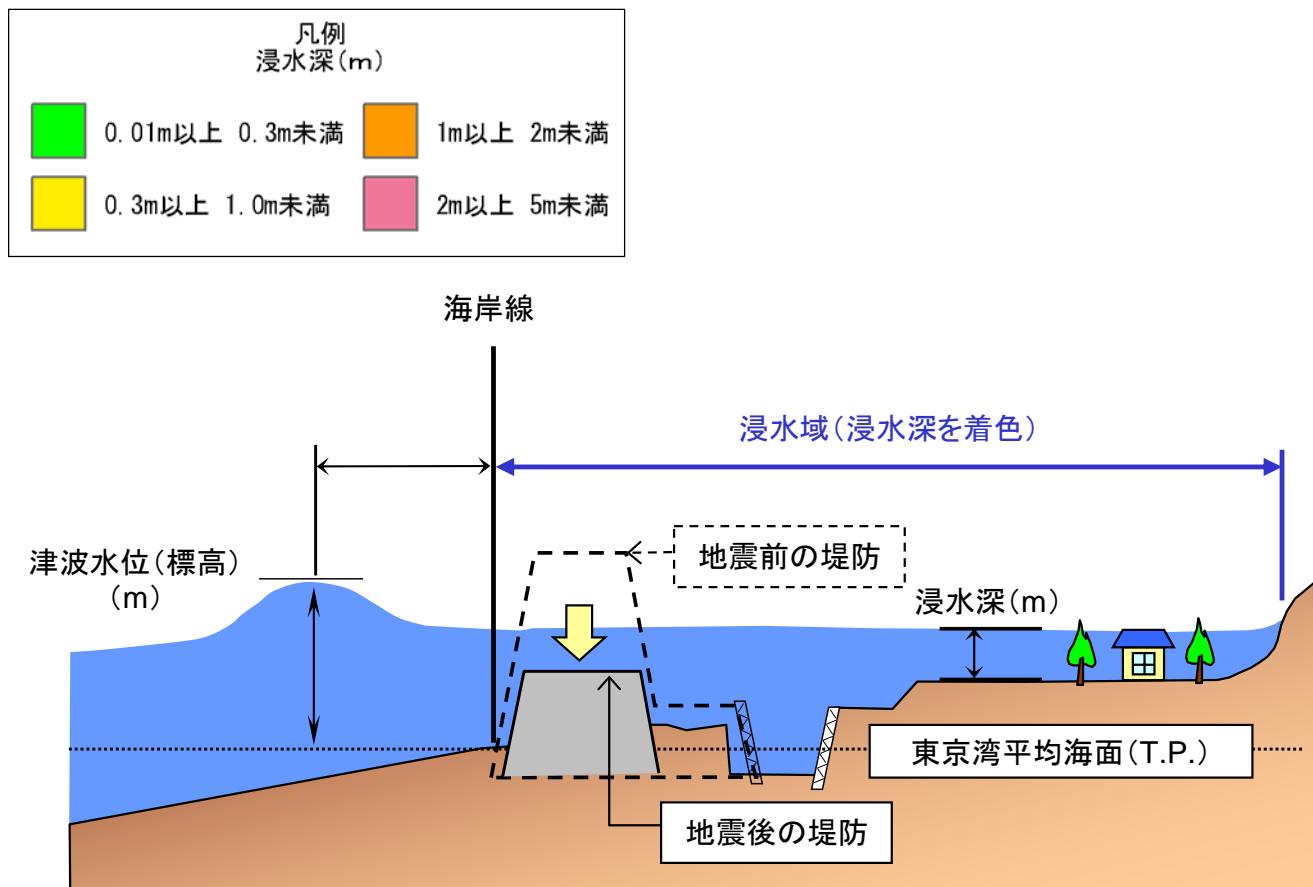
3 津波浸水想定の記載事項及び用語の解説

(1) 記載事項

- ① 浸水域
- ② 浸水深
- ③ 留意事項（上記②の事項）

(2) 用語の解説

- ① 浸水域について
海岸線から陸域に津波が遡上した外縁までの範囲。
- ② 浸水深について
 - ・陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ。
 - ・津波浸水想定の今後の活用を念頭に、下記のような凡例で表示。



図－2 浸水域と浸水深の模式図

4 対象津波（最大クラス）の設定について

(1) 過去に佐賀県沿岸に襲来した既往津波について

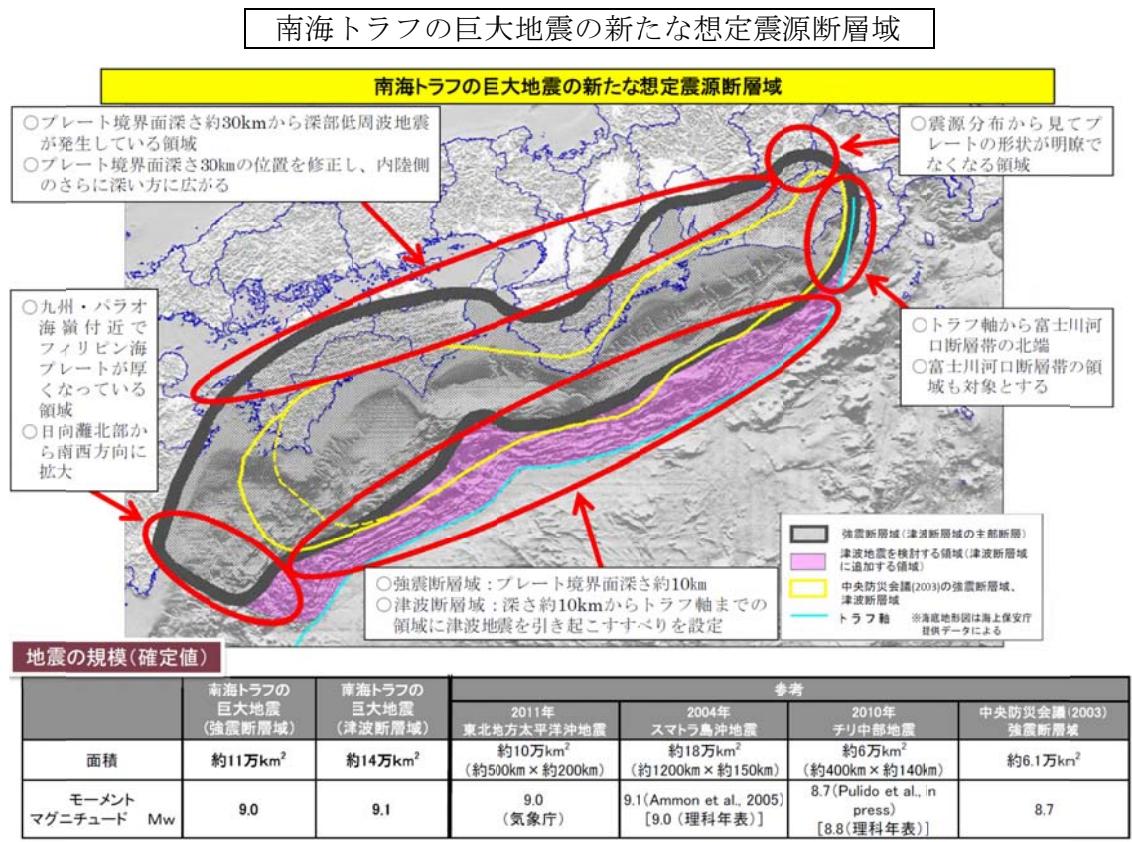
過去に佐賀県沿岸に襲来した既往津波については、「東北大学津波痕跡データベース」から、津波高に係る記録が確認できた津波を抽出・整理しました。

(2) 佐賀県沿岸に襲来する可能性のある想定津波について

海溝型地震については、内閣府「南海トラフの巨大地震モデル検討会」が公表した 11 ケースの津波断層モデル（図－3）のうち、佐賀県に最も影響が大きいものを設定しました。

活断層型地震については、防災上の観点から各沿岸部における最大クラスの地震・津波について、以下のような検討を行いました。

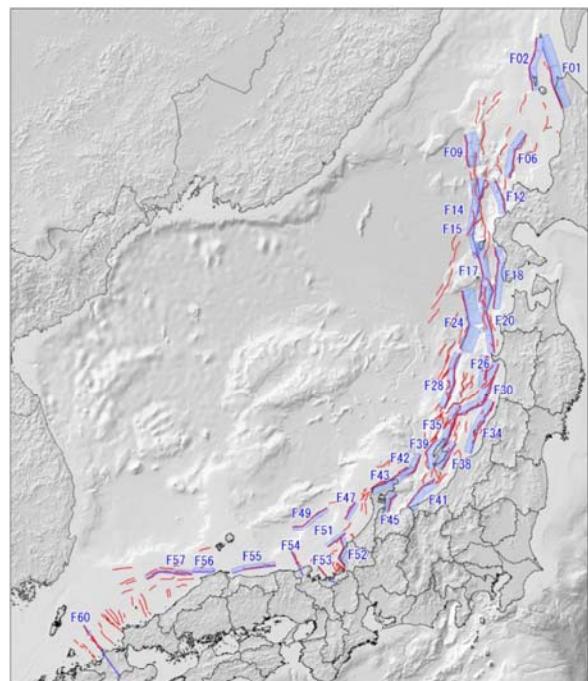
- ① 日本海側については、国土交通省・内閣府・文部科学省が平成 26 年 8 月に公表した「日本海における大規模地震に関する調査検討会」の調査結果（図－4）と、佐賀県の独自断層として地震調査研究推進本部の研究成果や近隣県の調査資料等に基づいて設定。
- ② 有明海側については、佐賀県の独自断層として地震調査研究推進本部の研究成果や近隣県の調査資料等に基づいて設定。



図－3 「南海トラフの巨大地震モデル検討会」公表 想定震源断層域

日本海における大規模地震に関する調査検討会での想定震源断層域

道府県	影響の大きい断層
北海道	F01, F02, F06, F09, F12, F14, F15, F17, F18
青森県	F18, F20, F24, F30※1
秋田県	F20, F24※2, F26※2, F30
山形県	F30, F34※1
新潟県	F30, F34, F38, F39※2, F41, F42※1
富山県	F41, F45
石川県	F35※2, F41, F42, F43, F47, F49
福井県	F49, F51, F52, F53
京都府	F49, F53
兵庫県	F54
鳥取県	F17, F24, F28※2, F55
島根県	F24, F30※1, F55, F56※1, F57
山口県	F60
福岡県	F60
佐賀県	F60
長崎県(一部)	F57, F60



道府県内の市町村で平地及び全海岸線での平均津波高が最大となっている断層

※1: 平地の平均津波高のみが最大となっている断層

※2: 全海岸線の平均津波高が最大となっている断層

図－4 「日本海における大規模地震に関する調査検討会での想定地震」公表 想定震源断層域

(3) 選定した最大クラスの津波について

佐賀県沿岸に最大クラスの津波をもたらすと想定される津波断層モデルとして、内閣府「南海トラフの巨大地震モデル検討会」公表の11モデルのうちのケース5, 11と、国土交通省・内閣府・文部科学省が平成26年8月に公表した「日本海における大規模地震に関する調査検討会」のF60について津波シミュレーションを実施しました。

その他、佐賀県の独自断層として、対馬海峡東の断層、雲仙地溝南縁東部断層帯と西部断層帯の連動の地震についても、設定した津波断層モデルにより津波浸水シミュレーションを実施しました。

このシミュレーション結果を地域ごとに重ね合わせ、最大となる浸水域、最大となる浸水深を抽出しました。

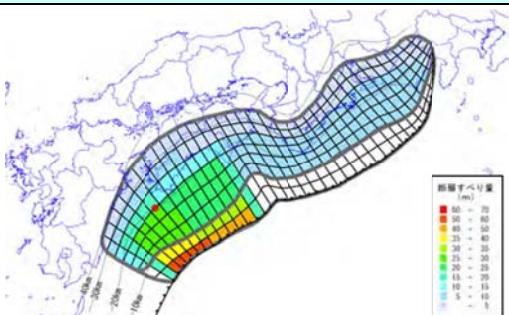
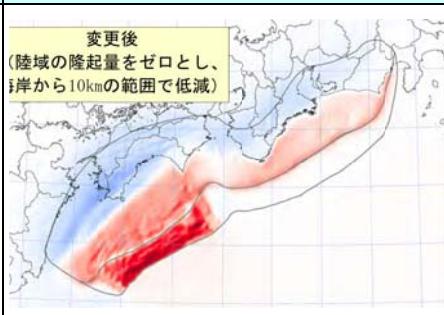
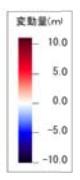
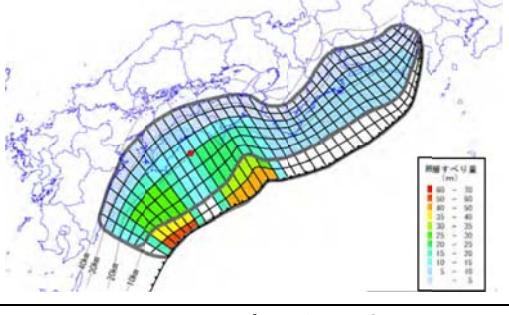
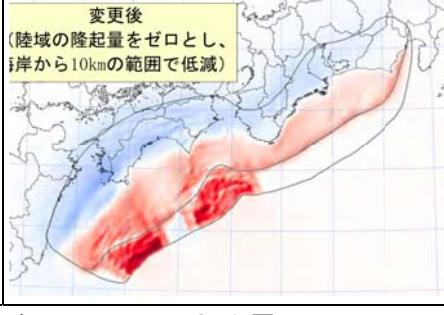
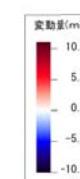
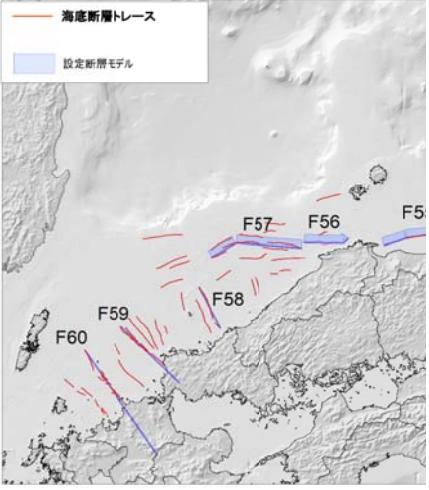
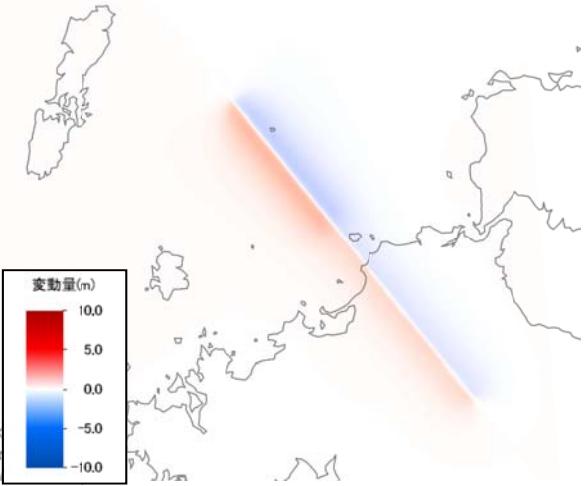
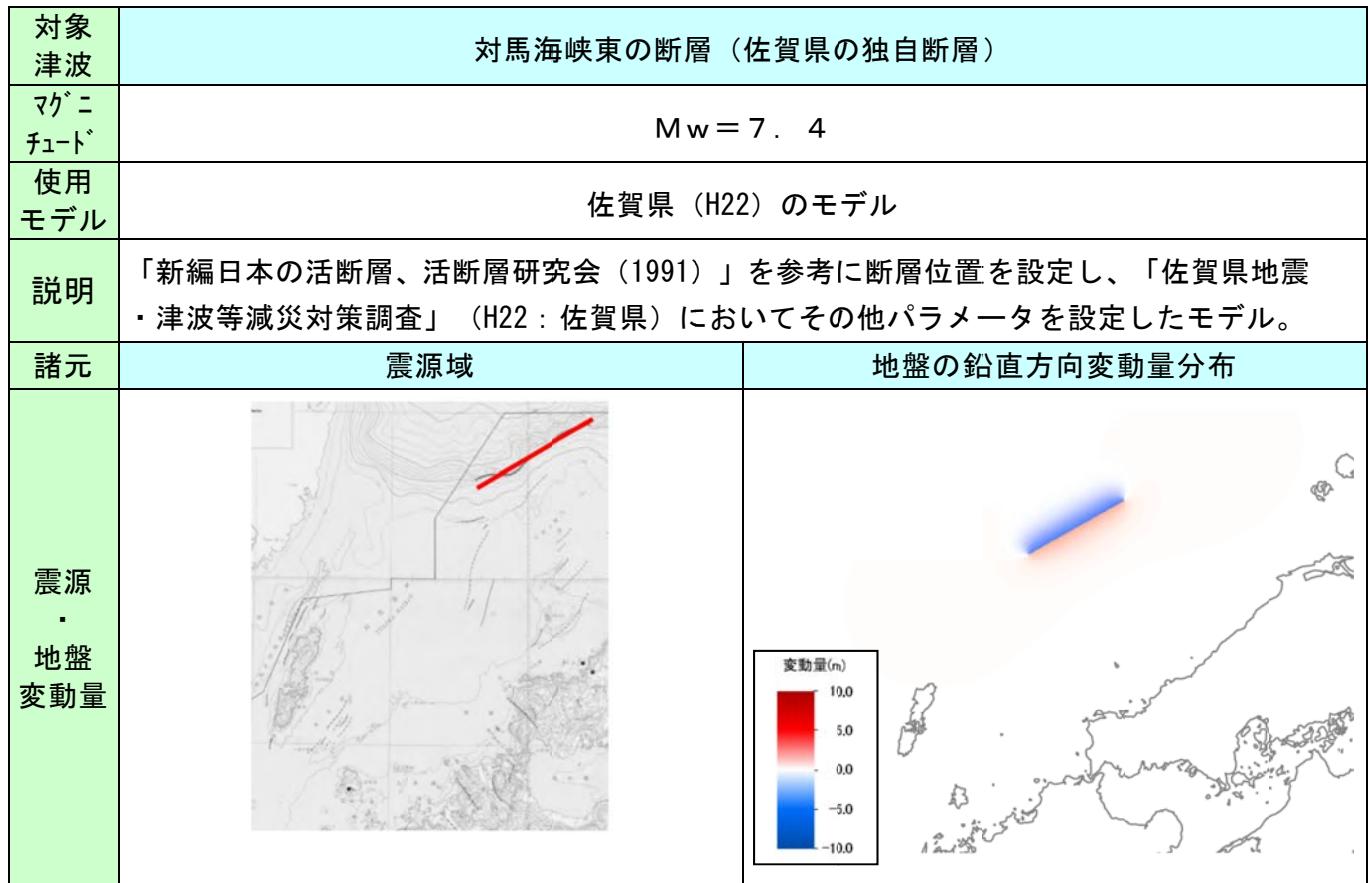
対象津波	「南海トラフの巨大地震モデル検討会」公表 (H24. 8. 29) の想定地震津波		
マグニチュード	$M_w = 9.1$		
使用モデル	南海トラフの巨大地震モデル検討会（第二次報告）のモデル		
説明	内閣府「南海トラフの巨大地震モデル検討会」公表の11モデルのうち、佐賀県内の沿岸に影響が大きいと考えられるケース5, 11を選定		
諸元	震源域		地盤の鉛直方向変動量分布
各ケースの震源・地盤変動量 ケース5			
ケース11			

図-5 選定した最大クラスの津波（南海トラフの巨大地震）

対象津波	「日本海における大規模地震に関する調査検討会」公表（H26.8）の想定地震津波	
マグニチュード	$Mw = 7.6$	
使用モデル	「日本海における大規模地震に関する調査検討会」のモデル	
説明	国土交通省・内閣府・文部科学省による「日本海における大規模地震に関する調査検討会」で検討された60断層のうち、佐賀に影響の大きいF60を選定	
諸元	震源域	地盤の鉛直方向変動量分布
震源・地盤変動量		

図－6 選定した最大クラスの津波（日本海における大規模地震の断層（F60））



図－7 選定した最大クラスの津波（対馬海峡東の断層）

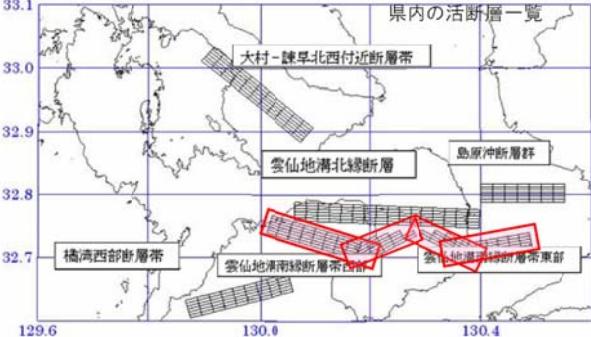
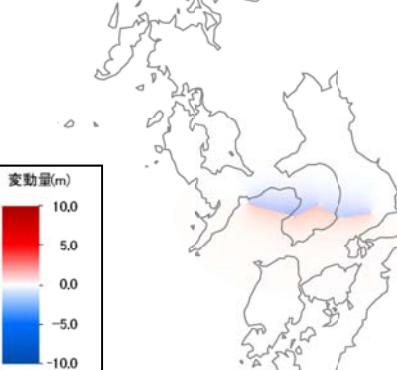
対象津波	雲仙地溝南縁東部断層帯と西部断層帯の連動の地震（佐賀県の独自断層）	
マグニチュード	$M_w = 7.1$	
使用モデル	長崎県（H18）のモデル	
説明	長崎県が断層調査等を踏まえてとりまとめた「長崎県地震等防災アセスメント調査報告書（H18）」での結果を参考に設定したモデル。	
諸元	震源域	地盤の鉛直方向変動量分布
震源・地盤変動量	 <p>県内の活断層一覧 大村-諫早北西付近断層帯 雲仙地溝北縁断層 島原沖断層群 橋浦西部断層帯 雲仙地溝南縁断層帯西端 佐久地溝西側断層帯東部</p>	 <p>変動量(m) 10.0 5.0 0.0 -5.0 -10.0</p>

図-8 選定した最大クラスの津波（雲仙地溝南縁東部断層帯と西部断層帯の連動の地震）

5 主な計算条件の設定

次の悪条件下を前提に計算条件を設定しました。

(1) 潮位について

- ① 海域については、最新の潮位観測結果に基づく朔望平均満潮位をベースに設定しました。
- ② 河川内の水位については、平水流量または、沿岸の朔望平均満潮位と同じ水位としました。

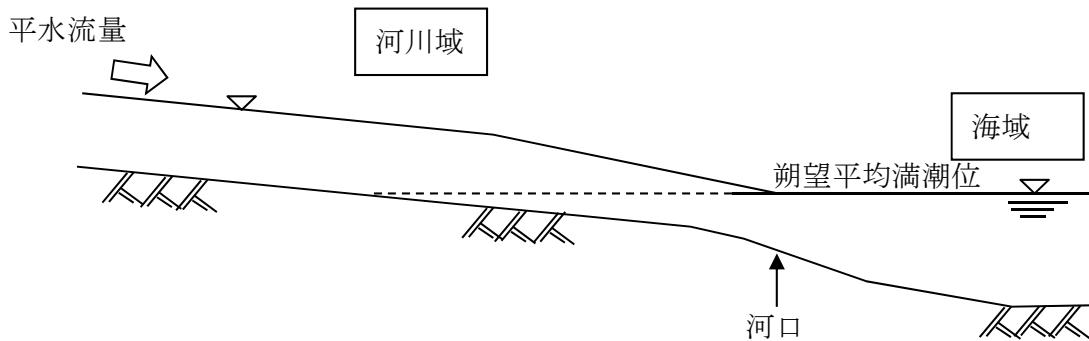


図-7 初期水位の設定

(2) 地盤の沈下について

地盤高については、地震動による地盤沈降を考慮しました。

(3) 各種構造物の取り扱いについて

- ① 地震や津波による各種施設の被災を考慮しました。また、水門・陸閘等については、耐震性を有し自動化された施設、常時閉鎖の施設等以外は、開放状態として取り扱うことを基本としています。
- ② 各種構造物については、津波が越流し始めた時点で「破壊する」ものとし、破壊後の形状は「無し」としています。

表-1 構造物条件

構造物の種類	条件
護岸	耐震や液状化に対する技術的評価がなければ、構造物は、地震及び液状化によりすべて破壊。
堤防	耐震や液状化に対する技術的評価がなければ地震及び液状化により堤防高を地震前の25%の高さとする。技術的評価が実施されている場合は、評価で得られた沈下量を用いる。
防波堤	耐震や液状化に対する技術的評価がなければ、地震及び液状化によりすべて破壊。
道路・鉄道	地形として取り扱う。
水門等	耐震自動降下対策済み、常時閉鎖の施設は閉条件。これ以外は開条件。
建築物	建物の代わりに津波が遡上する時の摩擦（粗度）を設定。

6 浸水面積について

今回の津波浸水想定による 10 市町毎の浸水面積は下記のとおりです。

表－2 市町毎の最大浸水規模

沿岸名	市町名	浸水面積(ha)
玄界灘	伊万里市	530
	唐津市	240
	玄海町	70
有明海	太良町	20
	鹿島市	1,210
	嬉野市	60
	白石町	5,980
	江北町	820
	小城市	1,220
	佐賀市	4,190
合計		14,340

7 津波浸水想定の検討体制について

津波浸水想定にかかる佐賀県の独自断層については、学識者等で構成する「佐賀県地震・津波等減災対策検討委員会」で審議を行いH22年2月に設定しました。

○佐賀県地震・津波等減災対策検討委員会

開催状況：計3回開催（平成21年10月、12月、平成22年2月）

8 今後について

今回の津波浸水想定を基に、沿岸市町では、津波ハザードマップの策定や住民の避難方法の検討、市町の防災計画の改定などに取り組むこととなるため、市町に対する技術的な支援や助言を行っていきます。

また、「津波防災地域づくりに関する法律」に関しては、津波防災地域づくりを総合的に推進するための「推進計画」の作成や、津波災害警戒区域の指定などについても、今後、市町と一体となり検討していく必要があるため、総合的な津波防災対策として、関係部局や市町との連絡・協議体制を強化していきます。

なお、今回設定した最大クラスの津波については、津波断層モデルの新たな知見（内閣府・中央防災会議、隣接県等）が得られた場合には、必要に応じて見直していきます。

(参考資料)

1. 津波の水位、津波到達時間について

今回の津波浸水想定による10市町毎の最高津波水位、津波到達時間、最大津波到達時間については下記のとおりです。ただし、地盤の低いところでは、地震によって、堤防が沈下・破壊することで、津波が到達する前に浸水が始まることがあります。津波の到達時間に係らず、早めの避難行動を心掛けてください。

表－1 市町毎の最高津波水位、津波到達時間、最大津波到達時間
(各津波間の最高津波水位及び最短の到達時間)

沿岸名	市町名	津波浸水想定調査(H27.6)		
		影響開始時間(分)	最高津波水位(TPm)	最大津波到達時間(分)
玄界灘	伊万里市	66	2.2	167
	唐津市	35	3.4	68
	玄海町	42	2.6	88
有明海	太良町	33	3.5	48
	鹿島市	53	3.2	299
	嬉野市	-	-	-
	白石町	60	3.2	289
	江北町	-	-	-
	小城市	70	3.1	290
	佐賀市	50	3.2	286

※各沿岸の主要地点の数値

影響開始時間は各津波のうち、初期水位から±20cm変化する時間が最も短いものを採用した。

最大津波到達時間は、各津波のうち、最大津波水位となるものの到達時間を採用した。

表－2 市町毎の最高津波水位、津波到達時間、最大津波到達時間
(各津波別の最高津波水位及び最短の到達時間)

【玄界灘】

市町名	「日本海における大規模地震に関する調査検討会」の想定地震津波(F60:西山断層)			対馬海峡東の断層		
	影響開始時間(分)	最高津波水位(TPm)	最高津波到達時間(分)	影響開始時間(分)	最高津波水位(TPm)	最高津波到達時間(分)
伊万里市	66	2.2	167	163	2.0	306
唐津市	35	3.4	68	124	3.4	173
玄海町	42	2.6	88	128	2.3	199

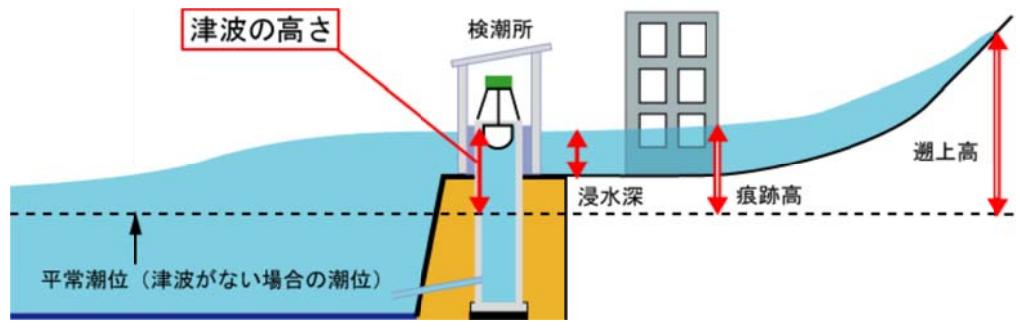
・  :各市町の最短の影響開始時間、及び最大の最高津波高とその到達時間

【有明海】

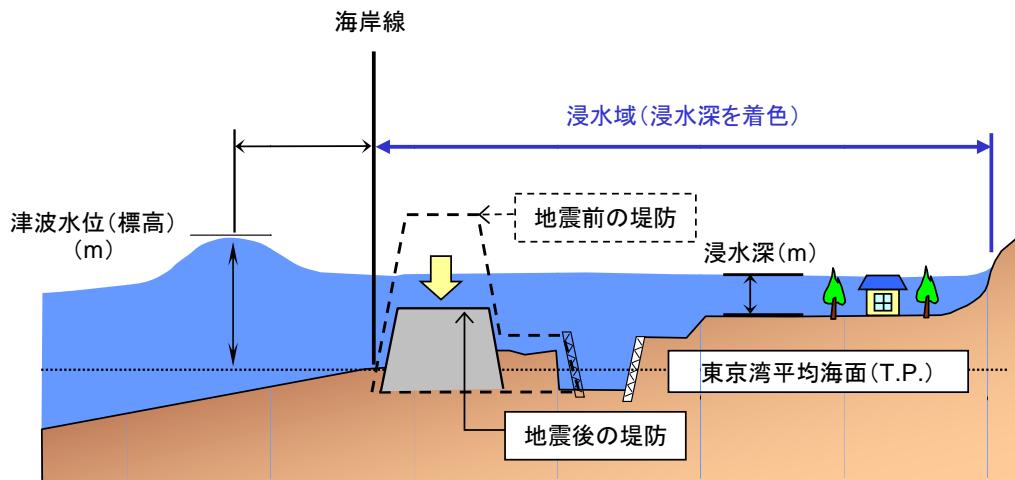
市町村名	「南海トラフの巨大地震モデル検討会」のモデル(ケース5または11)			雲仙地溝南縁東部断層帯と西部断層帯の連動の地震		
	影響開始時間(分)	最高津波水位(TPm)	最高津波到達時間(分)	影響開始時間(分)	最高津波水位(TPm)	最高津波到達時間(分)
太良町	255	3.1	281	33	3.5	48
鹿島市	260	3.2	299	53	3.1	196
白石町	258	3.2	289	60	3.1	108
小城市	269	3.1	290	70	2.9	191
佐賀市	259	3.2	286	50	3.1	158

・  :各市町の最短の影響開始時間、及び最大の最高津波高とその到達時間

(参考資料)



【津波の高さの定義（気象庁）】



【津波水位の定義（佐賀県）】

図-1 浸水想定の用語

(参考資料)

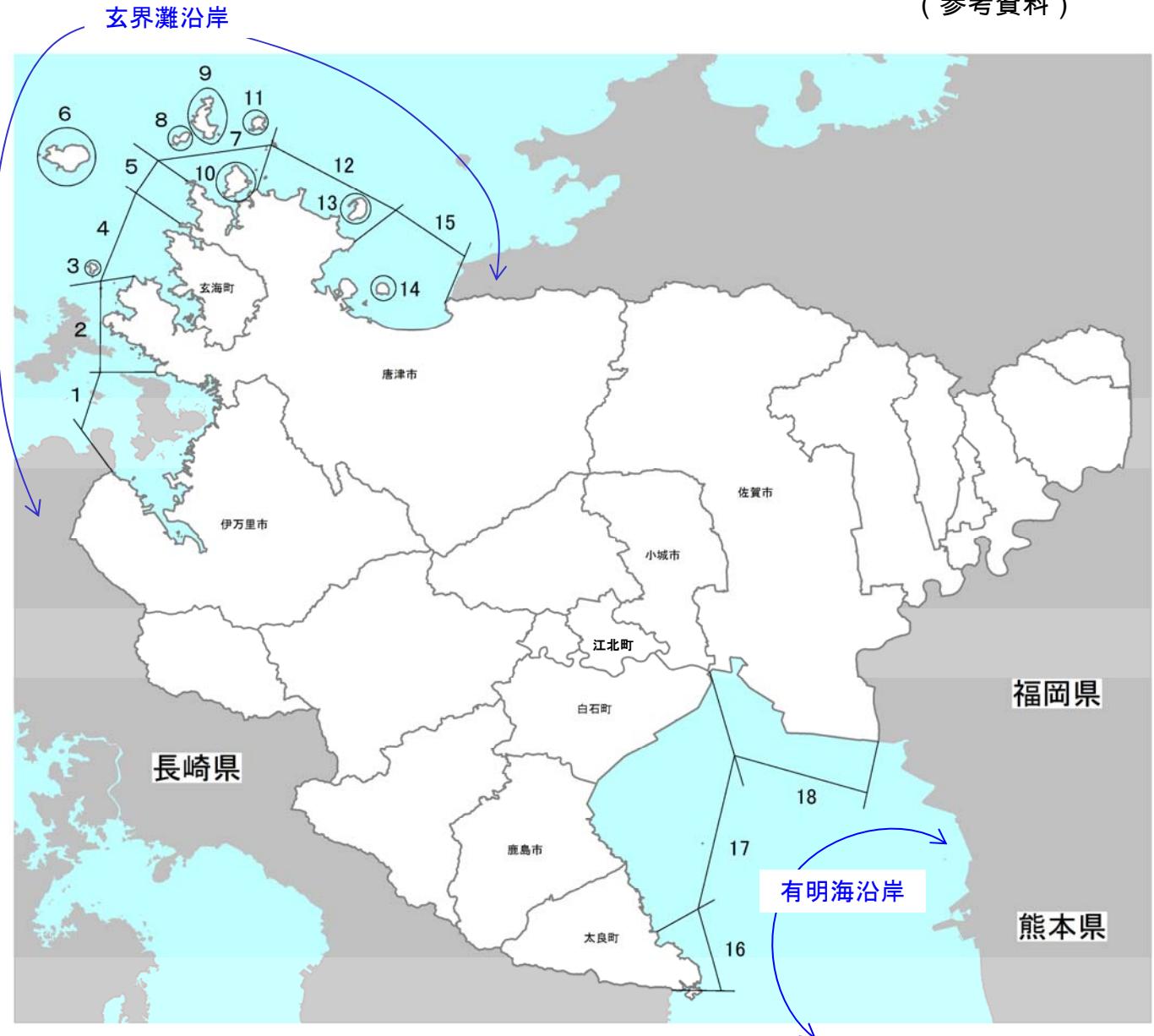
2. 地域海岸の設定について

地域海岸は、佐賀県沿岸を湾の形状や山付け等の「自然条件」と、最大クラスの津波の対象群の「津波水位」の傾向から判断し、次のとおり18海岸に区分しました。

表-3 地域海岸の区分

地域海岸の設定			箇所名
沿岸区分	市町	地域海岸区分	
玄界灘	伊万里市、唐津市	(1) 伊万里海岸	長崎県境～唐津市肥前町高串漁港
	唐津市	(2) 玄海灘西部海岸①	唐津市肥前町高串漁港～唐津市肥前町大崎
	唐津市	(3) 向島海岸	向島
	唐津市、玄海町	(4) 仮屋海岸	唐津市肥前町大崎～唐津市鎮西町串崎
	唐津市	(5) 玄海灘西部海岸②	唐津市鎮西町串崎～唐津市鎮西町波戸岬
	唐津市	(6) 馬渡島海岸	馬渡島
	唐津市	(7) 玄海灘西部海岸③	唐津市鎮西町波戸岬～唐津市呼子町尾ノ下鼻
	唐津市	(8) 松島海岸	松島
	唐津市	(9) 加唐島海岸	加唐島
	唐津市	(10) 加部島海岸	加部島
	唐津市	(11) 小川島海岸	小川島
	唐津市	(12) 玄海灘西部海岸④	唐津市呼子町尾ノ下鼻～唐津市相賀崎
	唐津市	(13) 神集島海岸	神集島
	唐津市	(14) 高島海岸	高島
	唐津市	(15) 唐津港海岸	唐津市相賀崎～福岡県境
有明海	太良町	(16) 大浦港海岸	長崎県境～太良町大浦港
	太良町、鹿島市、白石町	(17) 有明海海岸①	太良町大浦港～白石町福富海岸
	白石町、小城市、佐賀市	(18) 有明海海岸②	白石町福富海岸～福岡県境

(参考資料)



図－2 地域沿岸の区分

(参考資料)

3. 最大クラスの津波の設定について

過去に佐賀県沿岸に来襲した各種既往津波と今後来襲する可能性のある各種想定津波の津波高を用いて、地域海岸毎に下記のグラフを作成し、津波の高さが最も大きい津波を最大クラスの津波として設定しました。

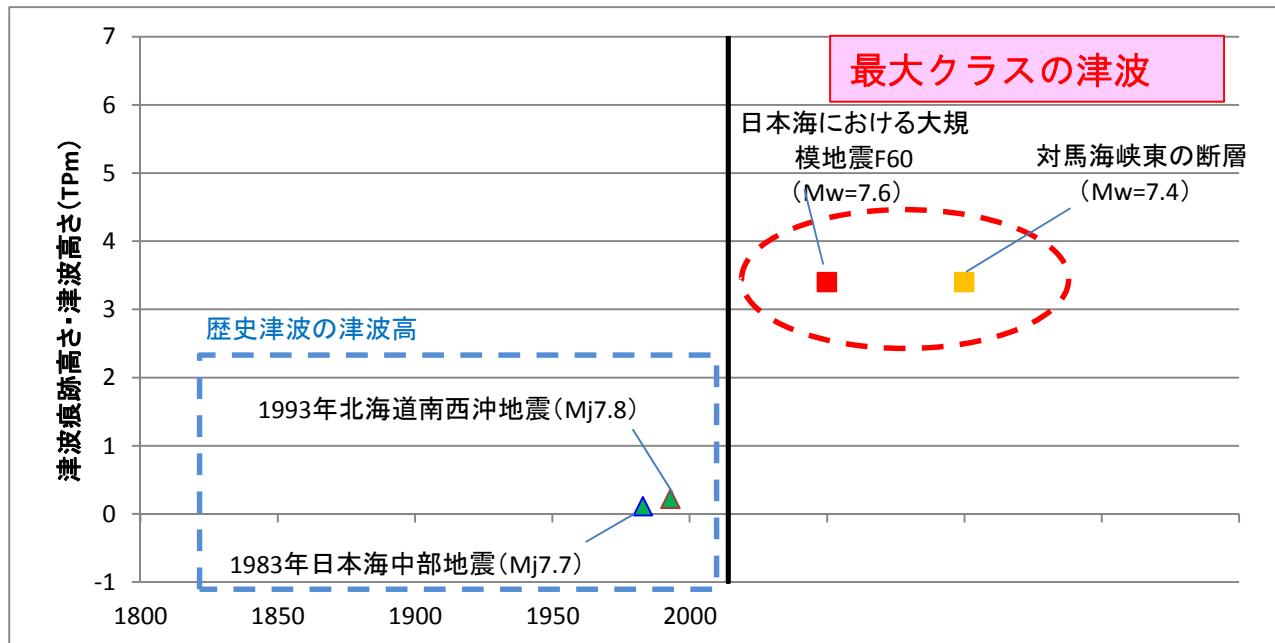


図-3 (1) 最大クラスの津波の設定例（玄界灘）

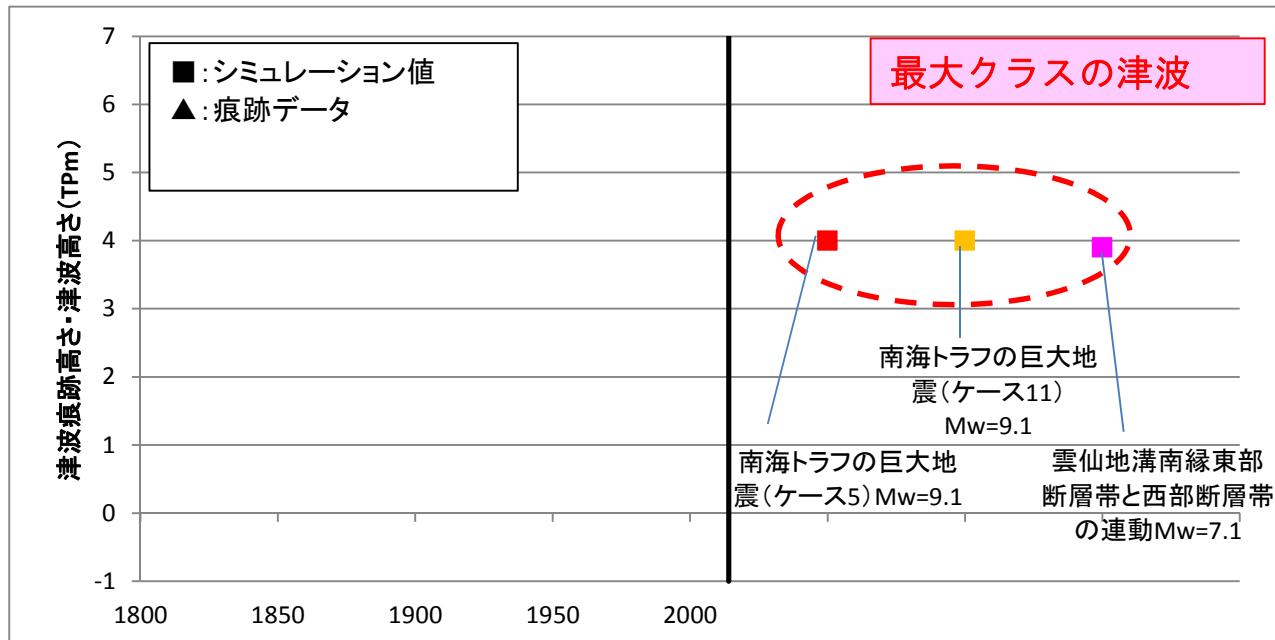


図-3 (2) 最大クラスの津波の設定例（有明海）

(参考資料)

4. 津波浸水シミュレーションについて

各地域海岸において、浸水状況に影響を及ぼすと考えられるモデルを選定した結果、5ケースの津波浸水シミュレーションを実施しました。

5. 津波浸水想定の設定について

今回の津波浸水想定については、5ケースの津波浸水シミュレーション結果を重ね合わせ、最大となる浸水域、最大となる浸水深を表しました。

6. シミュレーションの条件について

(1) 計算領域及び計算格子間隔

- ① 計算領域は、内閣府「南海トラフの巨大地震モデル検討会」での解析条件を踏襲し、震源を含む範囲としました。
- ② 計算格子間隔は、陸域から沖に向かい10m, 30m, 90m, 270m, 810m, 2430mとしました。沿岸部の計算格子間隔は、10m としました。

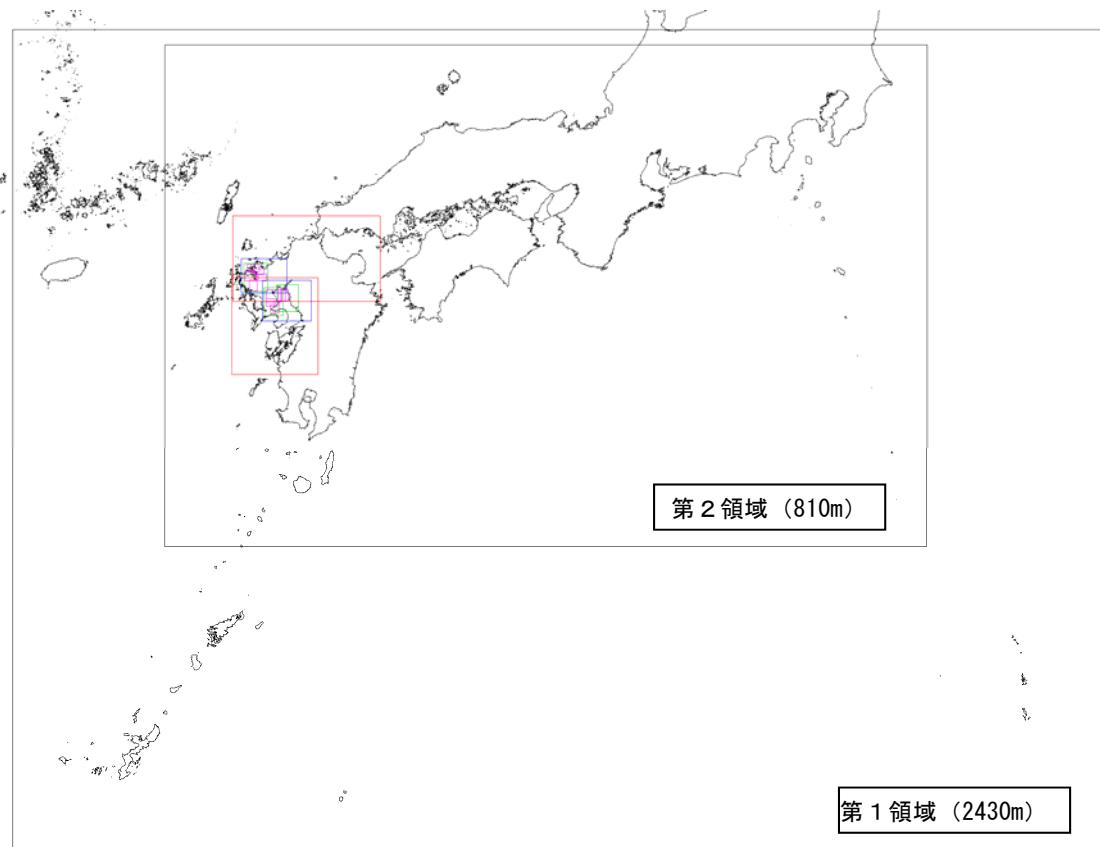
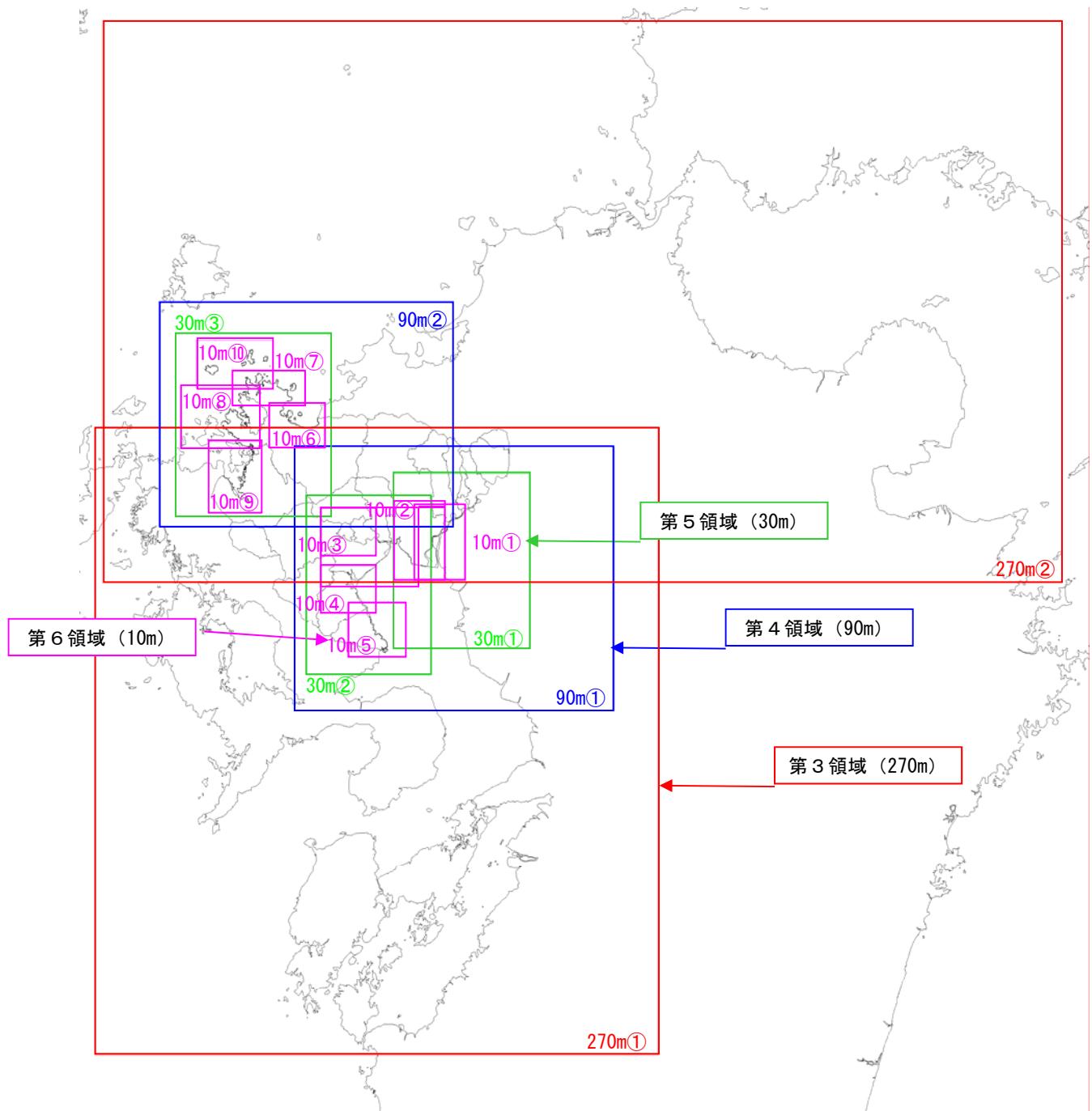


図-4 計算領域及び計算格子間隔（第1領域（2430m）～第2領域（810m））

(参考資料)



図－5 計算領域及び計算格子間隔（第3領域（270m）～第6領域（10m））

(参考資料)

(2) 計算時間及び計算時間間隔

計算時間は、最大浸水範囲、最大浸水深が計算できるように6～12時間とし、計算時間間隔は、計算が安定するように0.2秒間隔としました。

(3) 陸域及び海域地形

① 陸域地形

陸域部は、国土地理院の基盤地図情報（数値標高モデル）5m, 10m メッシュデータを用いて作成しました。

② 海域地形

海域地形は、H24年内閣府公表の津波解析モデルデータを基に、一部の範囲を日本水路協会の海底地形デジタルデータ（M7000シリーズ）を用いて追加作成しました。

(4) 初期水位

潮位については、各検潮所（駿潮所、検潮場）の朔望平均満潮位としました。

(参考資料)

7. 津波高20cmの水位到達時間予測図及び最高津波水位

代表地点における津波高20cmの変化が生じる水位到達予測時間を示します。気象庁の津波注意報の発令基準（津波高0.2mを超える1m以下）を参考にしています。

ただし、実際にはこの時間よりになるとは限りません。

また、気象庁の津波注意報の発表基準以下でも、海の中では人は速い流れに巻き込まれ、海辺にいる人の人命に影響する恐れのある水位変化と言われていますので、地震による揺れがおさまったら、時間をおかず、すぐに避難を開始することが大事です。

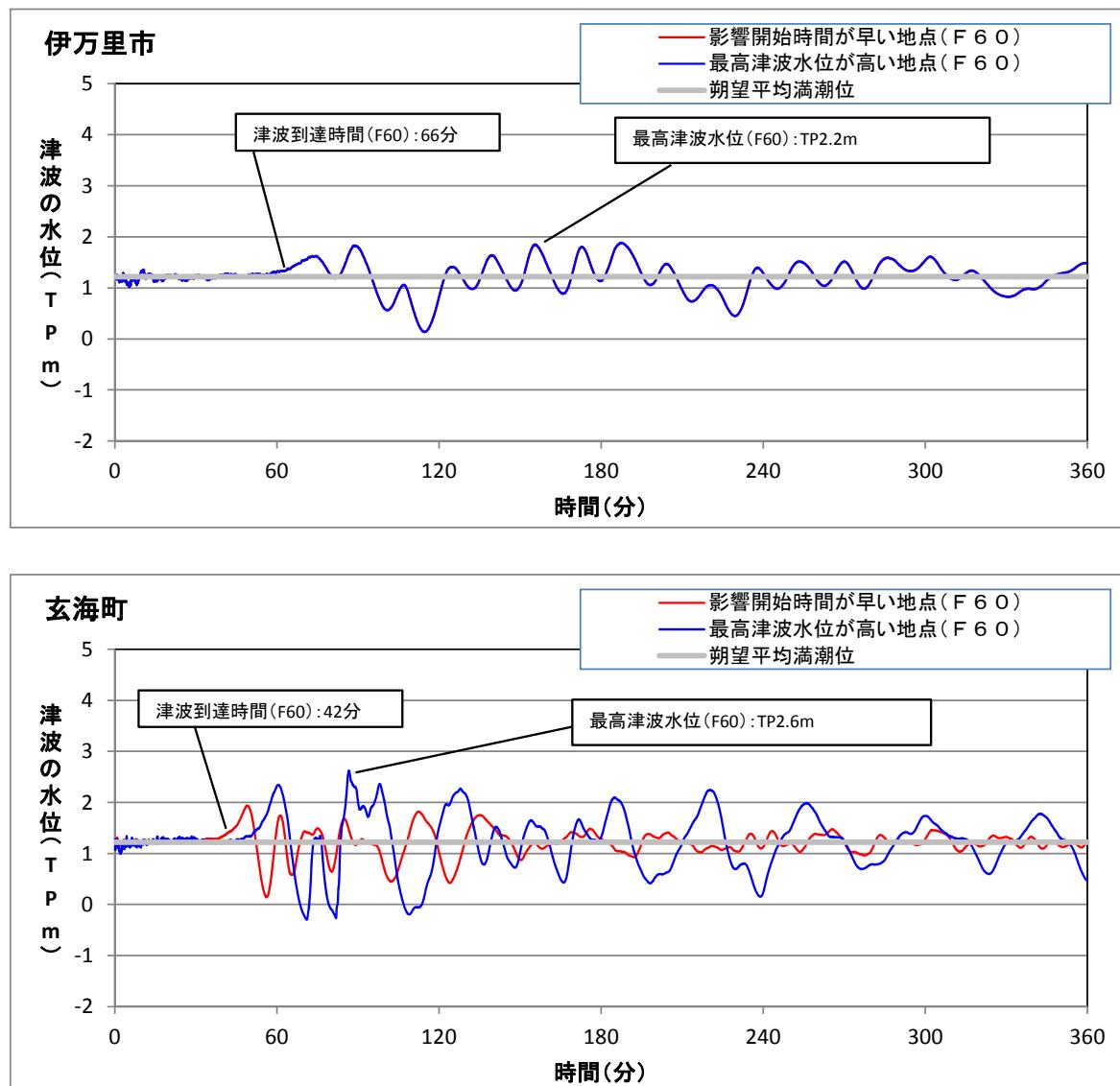
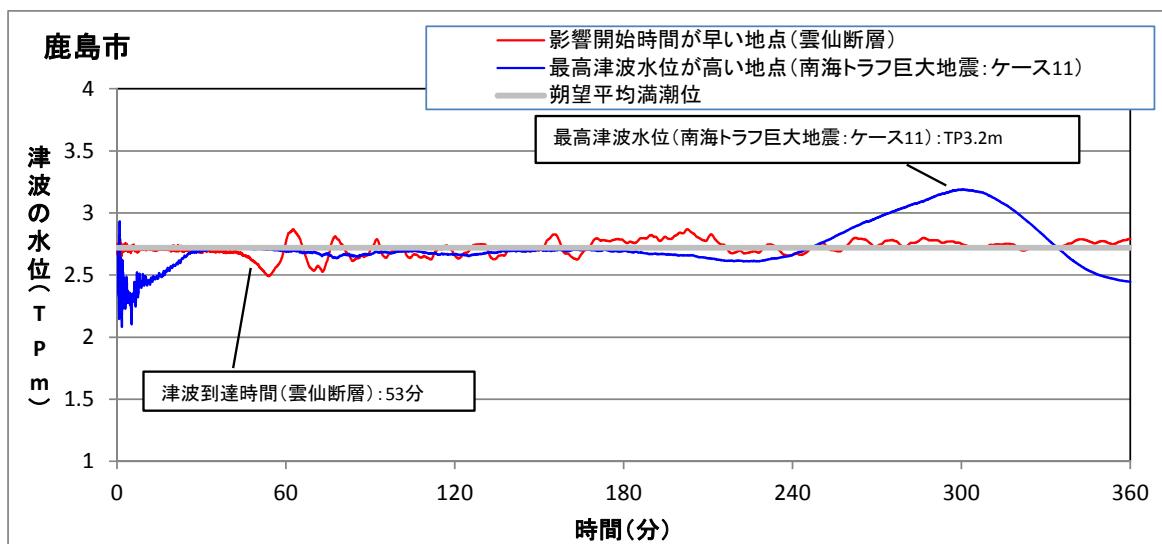
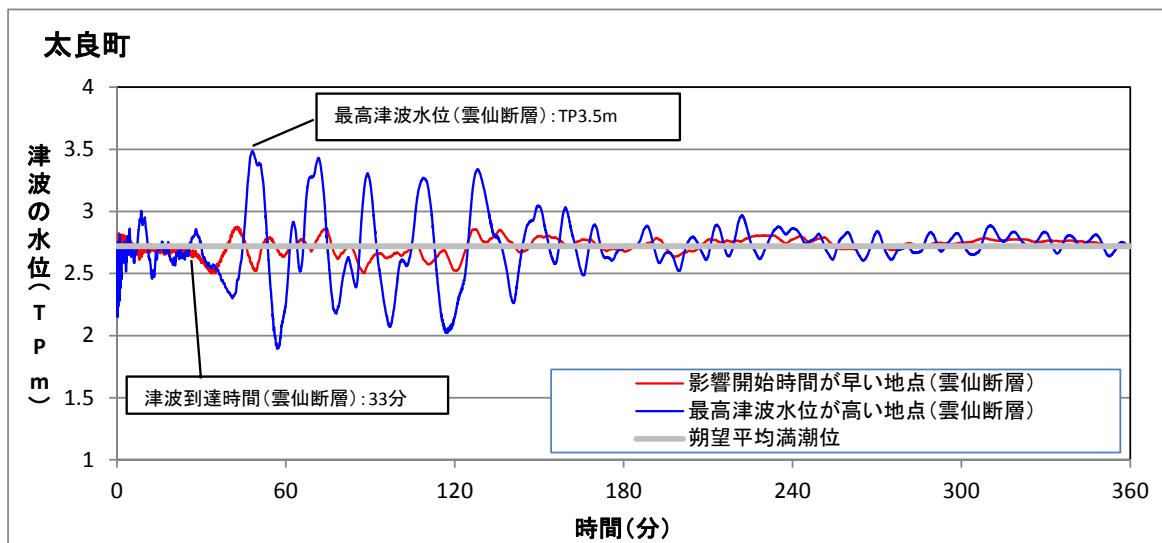
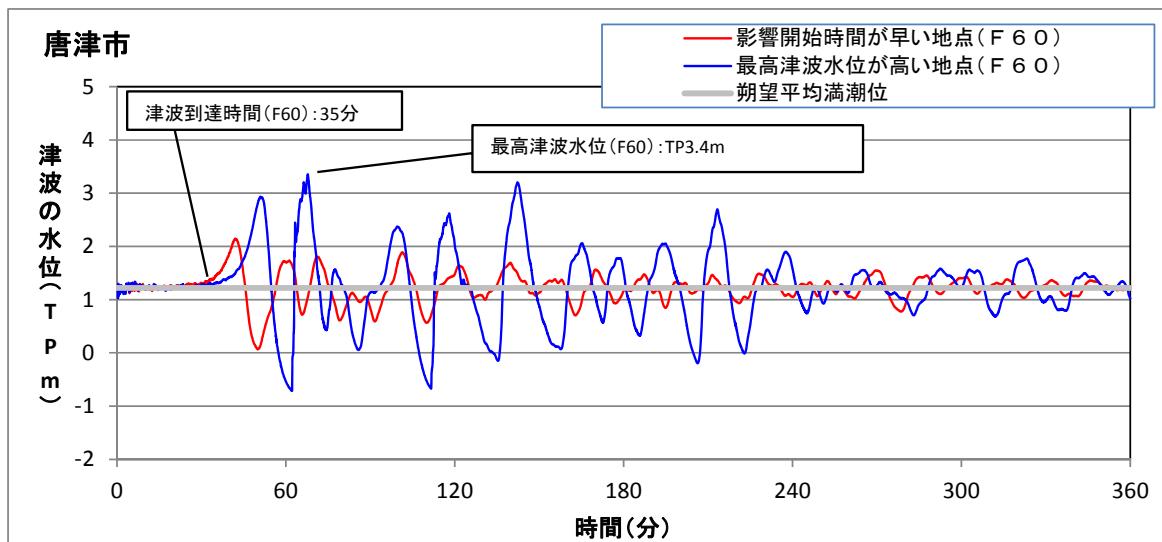


図-6 代表箇所での津波水位の時間変化



注：唐津市、太良町では、同じ津波波源を採用していますが、影響開始時間が早い点と最高津波水位が高い点が異なるため、両者の津波水位の時間変化が異なります。

図-7 代表箇所での津波水位の時間変化

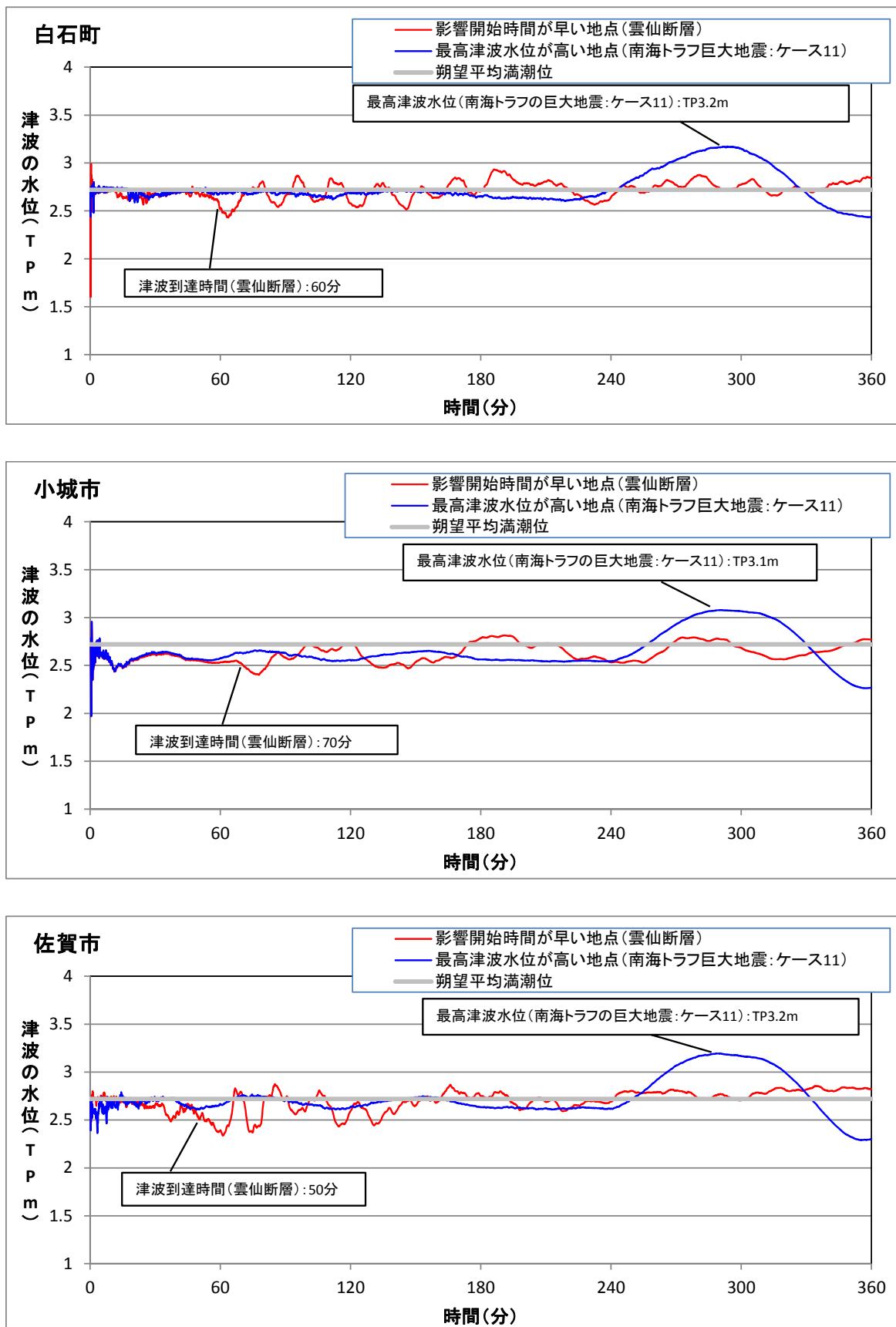


図-8 代表箇所での津波水位の時間変化

(参考資料)

8. 平成22年3月の佐賀県津波避難計画策定指針との相違

佐賀県では平成 22 年 3 月に「佐賀県津波避難計画策定指針」として、津波浸水予測図を公表しております。

今回の調査では、平成22年3月の調査に対し、新たな知見による津波波源の追加と、堤防条件の見直しを行っているため、場所によって浸水深及び浸水域に相違が生じています。